最初にお読みください

225 ページの日本語版イエスの実話が無料！

イエスの実話

ジノ・パオリーノ

目次

はりつけ 7
三国王 45
エッセネ派 49
イエスの母マリア 56
マリアとジョセフの婚約者 82
天使ガブリエルがメアリとジョセフに現れる..... 99
イエスの誕生 117
アリマタヤのジョセフ 132
エルサレムに東方の三博士が到着 139
イエスは英国へ旅行する 161
イエスは東へ旅立つ 164
イエスはエジプトに旅行する..... 202
最初の油注ぎと結末 イエスとマグダラのマリア 214
イエスが宣教を始める 226
二度目の宣誓と結婚 イエスとメアリー 300
偉大なるサンヘドリン..... 314
偉大なサンヘドリンはイエスを死に至らしめる 317
イエスを救うための計画 320

ジョセフ・オブ・アリマテアとニコデモが、マグダラのマリア、
イエス、ジョンと会う 325
アリマタヤのヨセフとイスカリオテのユダの出会い 333
アリマタヤのヨセフが4人の友人と会う 340
アリマタヤのヨセフ、ポンティウス・ピラトと面会 336
お寺 ユダはイエスを裏切る 342
神殿 - ヨセフの友人がカイアファとアナスに会う。..... 356
婚礼の宴 364
ゲッセマネの園にいるイエス 370
イエスは逮捕され、十字架にかけられる 376
ジョセフ邸・地上階応接室 381
ジョセフの邸宅 - グランド ギャラリ 557
空の墓 560
アリマタヤのヨセフの逮捕 563
マグダラのマリア、ブリタニアへ行く 622
イエスは東へ旅立つ..... 648
参考文献 ..... 685 - 693
ビデオグラフィック ..... 695 - 699
終わり 700

はりつけ

朝日が空に輝くように、
沈黙は突然打ち砕かれる
重い金属槌の視覚と音
真っ白な銀の釘を打ち込む
イエスの右手首。

金属の衝突は耳をつんざくようなものであり、イエスの周りの多くの信者の間で、金切り声と叫び声と嘆きと泣き声があ

イエスは激しく頭を振り、血と汗の大粒があちこちに飛び散ります。

ジーザスは

自分の体を支える。

兵士が別の釘を打って

ジーザスの左手首に釘を打ち込む。

ここでも、金属と金属がぶつかる音が耳をつんざく。

耳をつんざくような音がする。

また、激しい痙攣が起こる。

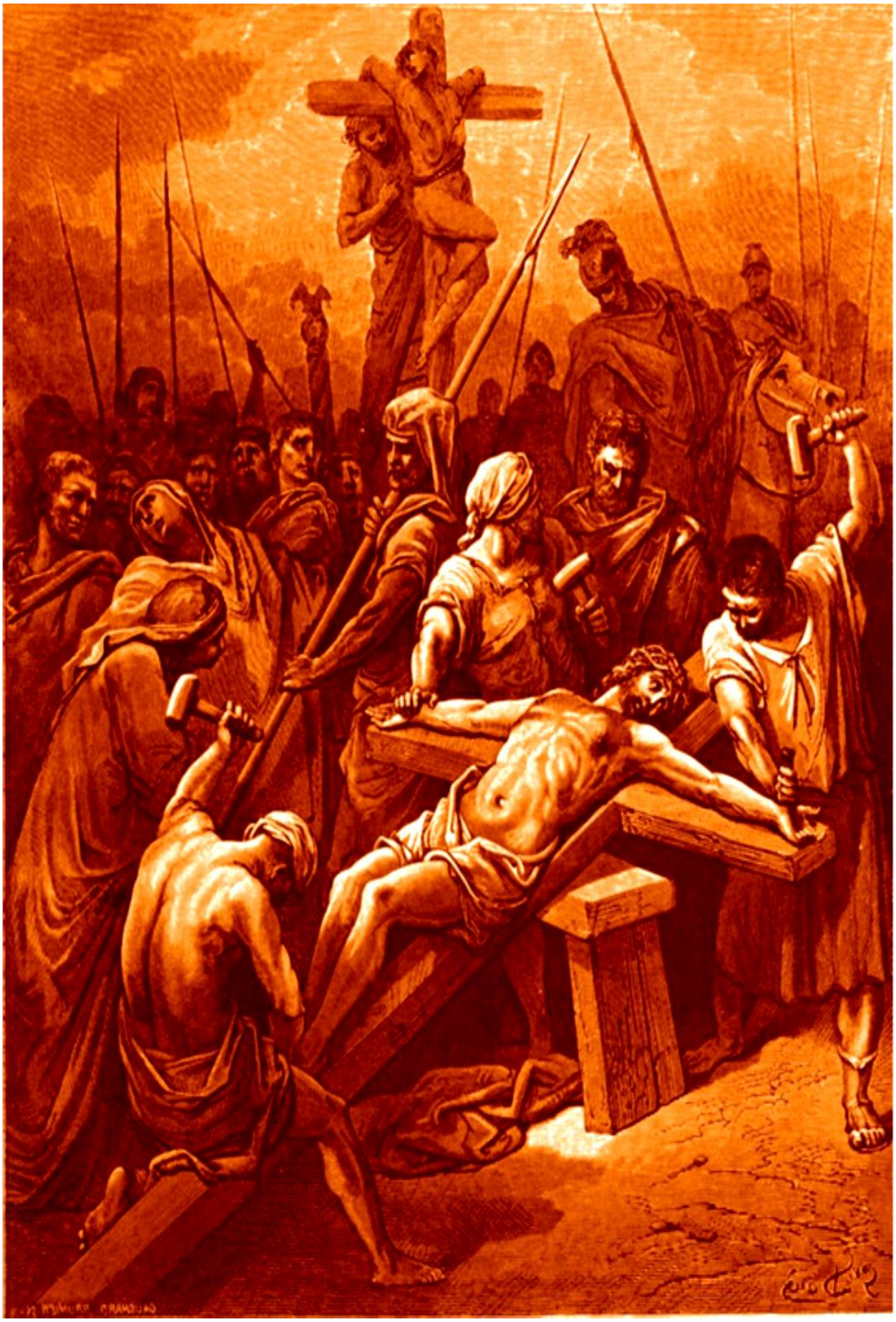
血と汗の滴が飛び散る。

頭を回転させながら

さらに叫び声、悲鳴、そして

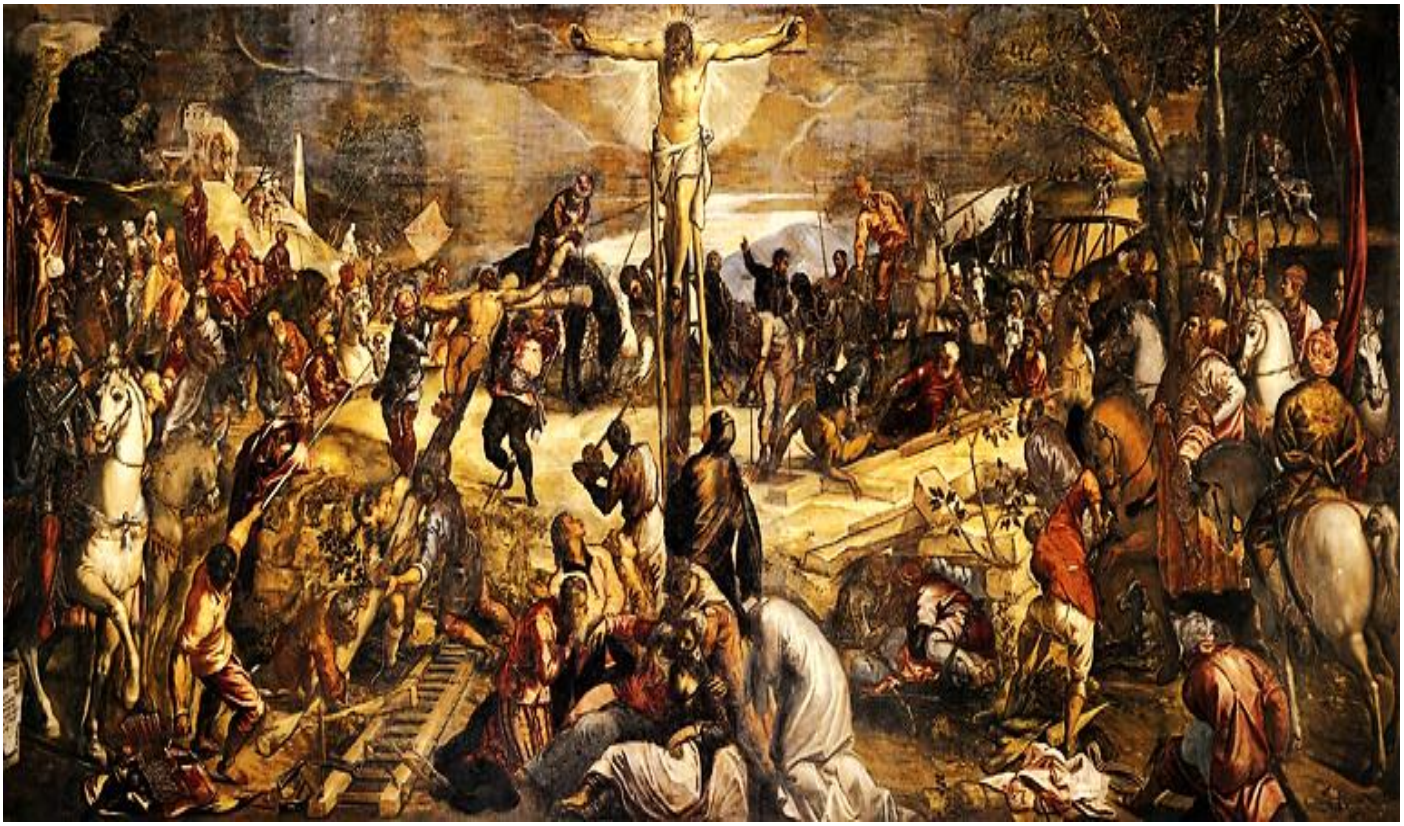
泣き叫び、泣き叫ぶ。

イエスが意識を失い始めると、兵士が左足を右足に重ねて、イエスの足に一本の釘を打ち込んだ。



イエスはほとんど意識がないが、
体はその一撃に激しく反応している。
兵士たちは十字架を持ち上げて
深い穴に入れ、石を詰めて十字架を固定します。
石を詰めて十字架を固定する。

大勢の人々がそっぽを向く中、
イエスは意識を取り戻し始める。 木の板の上に立ち、小さなスツールに座りながら十字架に固定されている。
兵士たちは、イエスの姿を見た人々が暴力的な反応を示すことを恐れて、群衆を分散させるように命じられた。
兵士たちは、十字架に釘付けにされたイエスの姿を見て暴力的な反応を起こすことを恐れて、群衆を分散させるように命じた。
十字架に釘付けされたイエスの姿を見て、暴力的な反応が起こることを恐れた兵士たちは、群衆を分散させるように命じた。



太陽の動きが強調されているのは、「命を救うために死を偽装する」という計画によれば、イエスが十字架にかけられるのは朝の**9**時から昼の**3**時までの**6**時間だけで、安息日が始まる前の金曜日の日没までに十字架から降ろされなければならないからです。

イエスの移動中。

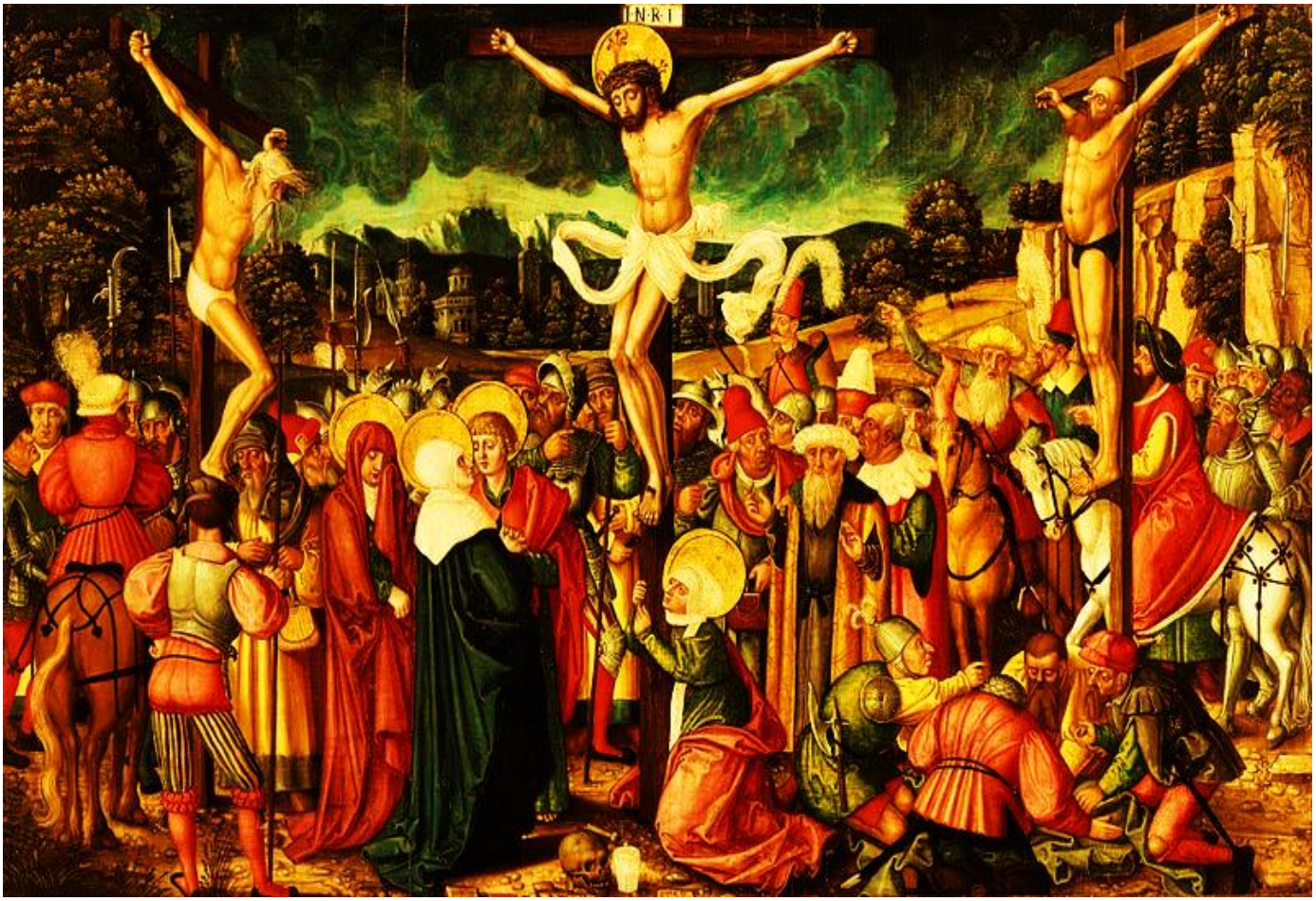
イエスの「冠」の棘が太陽で強調され、

太陽の位置が十字架で強調されます。

十字架に釘付けにされたイエスの姿は、恐怖と恐れ、嘆きと絶望の震えを

大衆にもたらします。

大勢の人々の中に

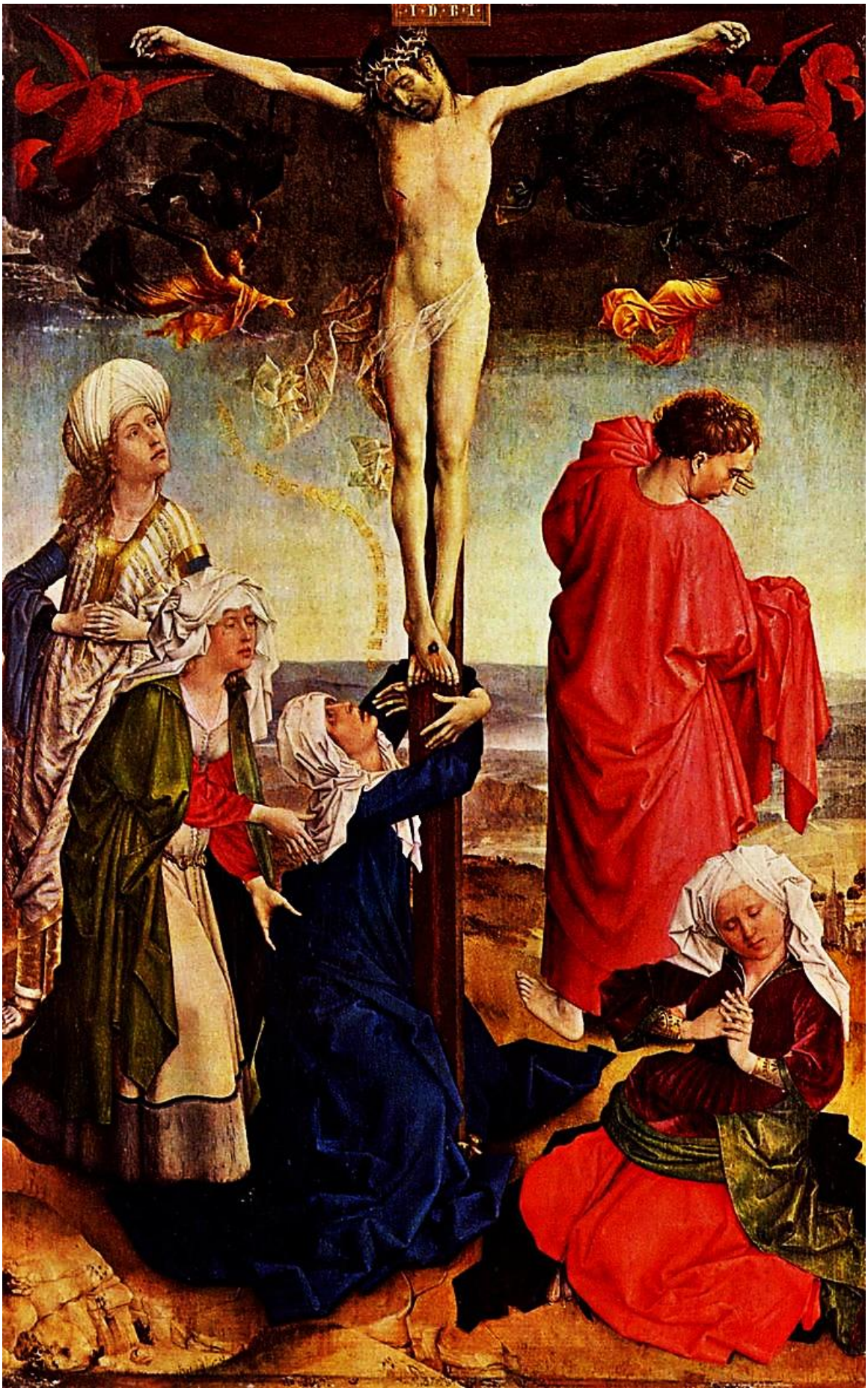


彼の母であるマリア、彼の妻であるマグダラのマリア

親友のヨハネも

他の数人の使徒が遠くから見守る中、彼のそばを離れない。

他の使徒たちは遠くから見守っている。


·I·N·R·I·

この時、イエスは肉体を離れている。
十字架にかけられた自分を観察しながら、自分の人生が目の前でフラッシュするのを見始めます。

イエスは、想像しうる限り最も美しい庭園の中で、
天上界に浮かんでいるように見える。
イエスにはマグダラのマリアが加わっている。
彼の女性であり、妻であり、人生の最愛の人であり、彼と最も深いつながりとテレパシー・コミュニケーションを持っています。
深いつながりとテレパシーのコミュニケーションを持っています。

マグダラのマリアとイエスは、地上で二人の愛と生活を続けるために、磔刑が必要だったことを理解している。

6時間目になると、空は暗くなり始め
遠くで雷が鳴っています。

風が吹き始めると、黒い雲がうねり始めます。
風が吹き始め、黒い雲がうねり、暗闇の中で太陽の光が現れては消えていく。

9時間目には、イエスは十字架に戻らなければならない。

計画の詳細に従うために。

イエスが体に戻ると

眩しいほどの稲妻が空を横切った。

イエスは十字架の上で自分の体に戻り

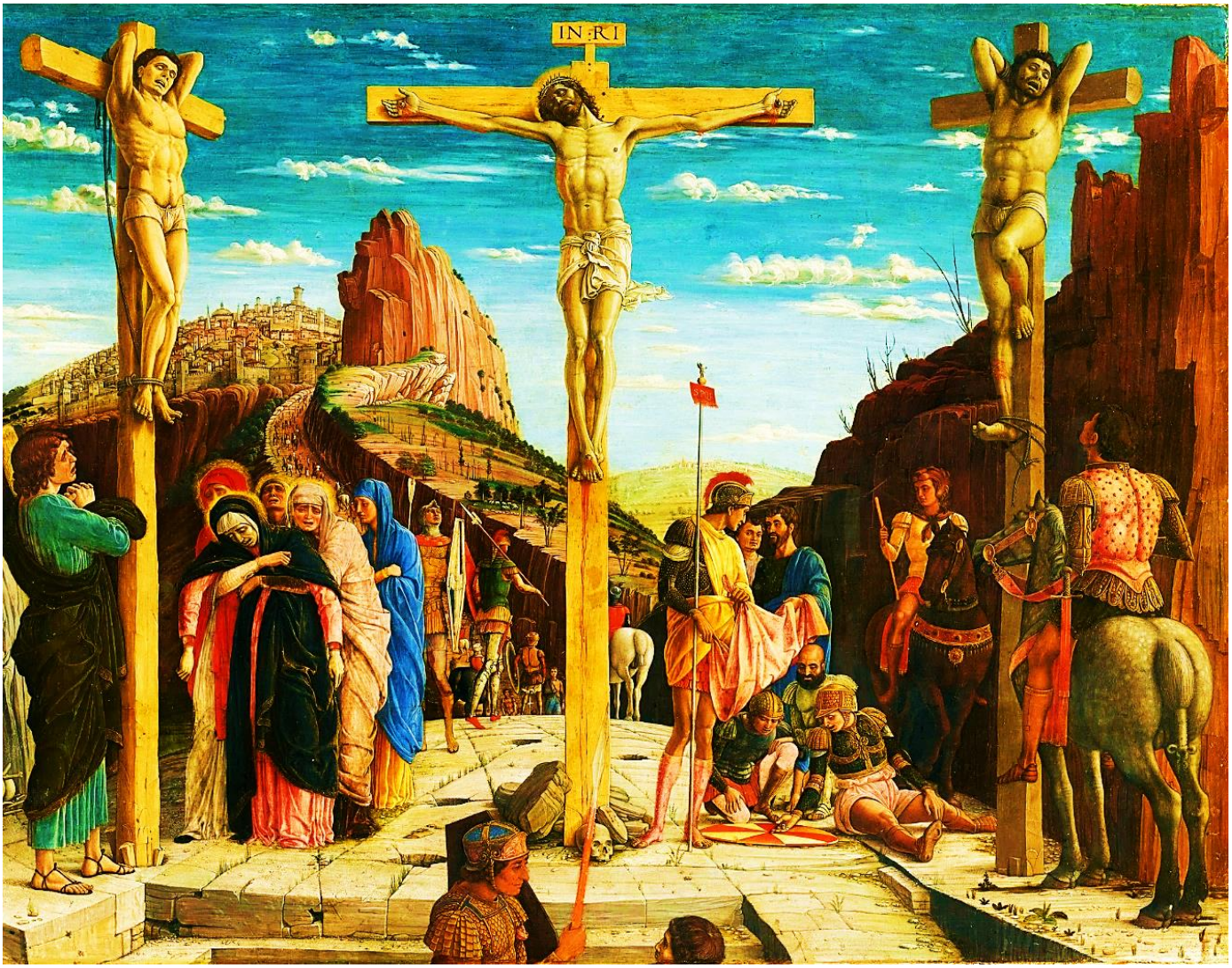
激しい喘ぎ声と "スタート "で。

イエスは"水をくれ"と叫ぶ。これを合図に、ローマ兵の一人が「酢」を染み込ませたスポンジを持ってきて、イエスの唇に当てたのです。

これまで私たちは、ローマ兵がイエスの「水をくれ」という叫びに「酢」を浸したスポンジで応えることで、イエスに残酷な拷問を加えていたと考えてきました。

しかし、この酢はマンドレイクという非常に強力なハーブの麻酔薬の「キャリア」であり、マンドレイクの入った酢のスポンジを唇に当てると、イエスはスポンジからマンドレイクを口で絞り出し、強力な麻酔薬を大量に飲み込んだということがわかったのです。

聖書によると、イエスはスポンジを唇に当てた直後に「終わりました」と答えたとされていますが、これは一般的には「イエスが十字架で死んだ」と解釈されていますが、実際にはイエスは深い眠りについただけなのです。


IN:RI

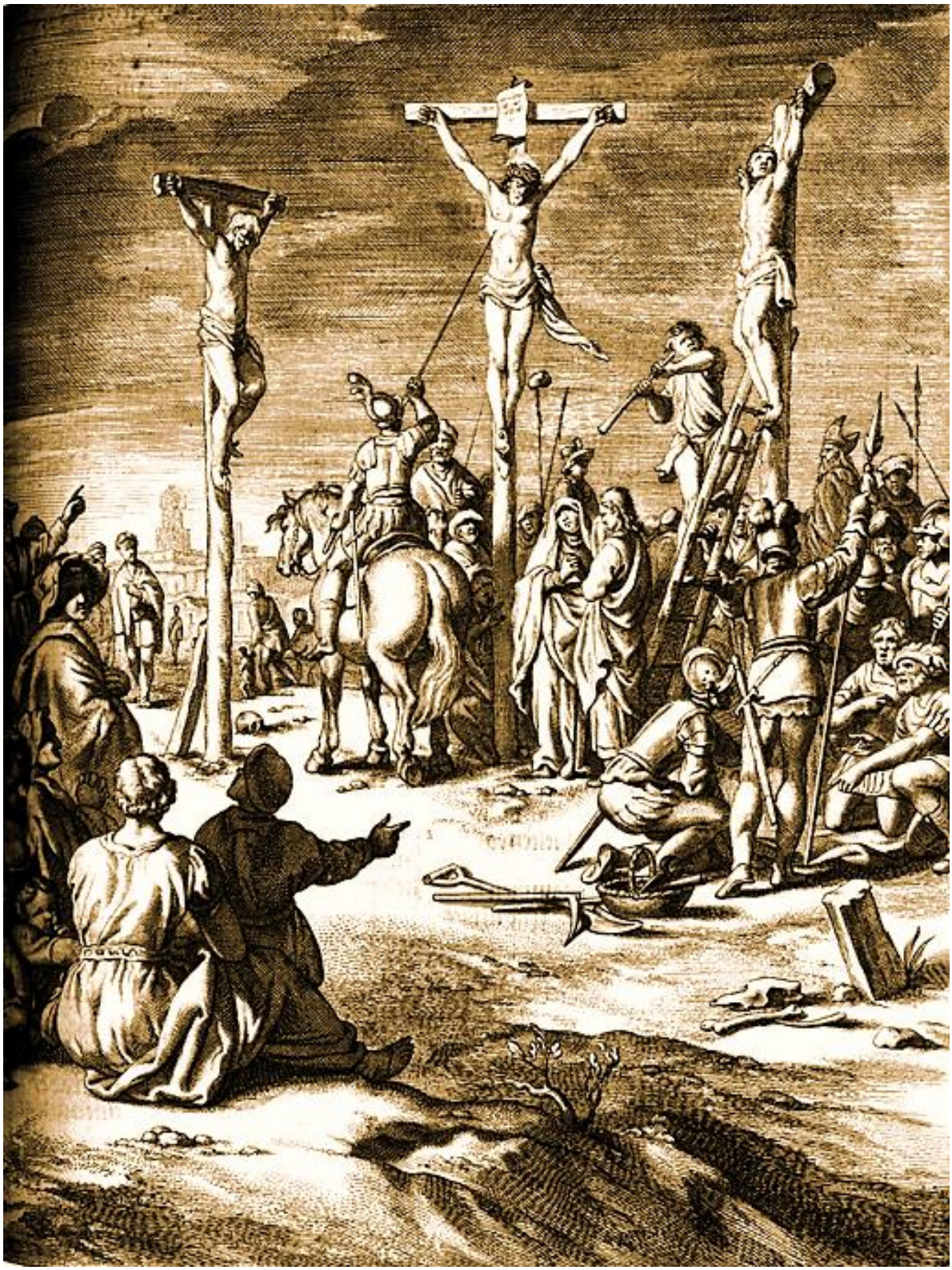
イエス様が "十字架で死んだ "と思われた後
アリマタヤのヨセフがポンテオ・ピラトのところに来て、「イエスは死んだ」と告げ、"遺体 "を求めたという。

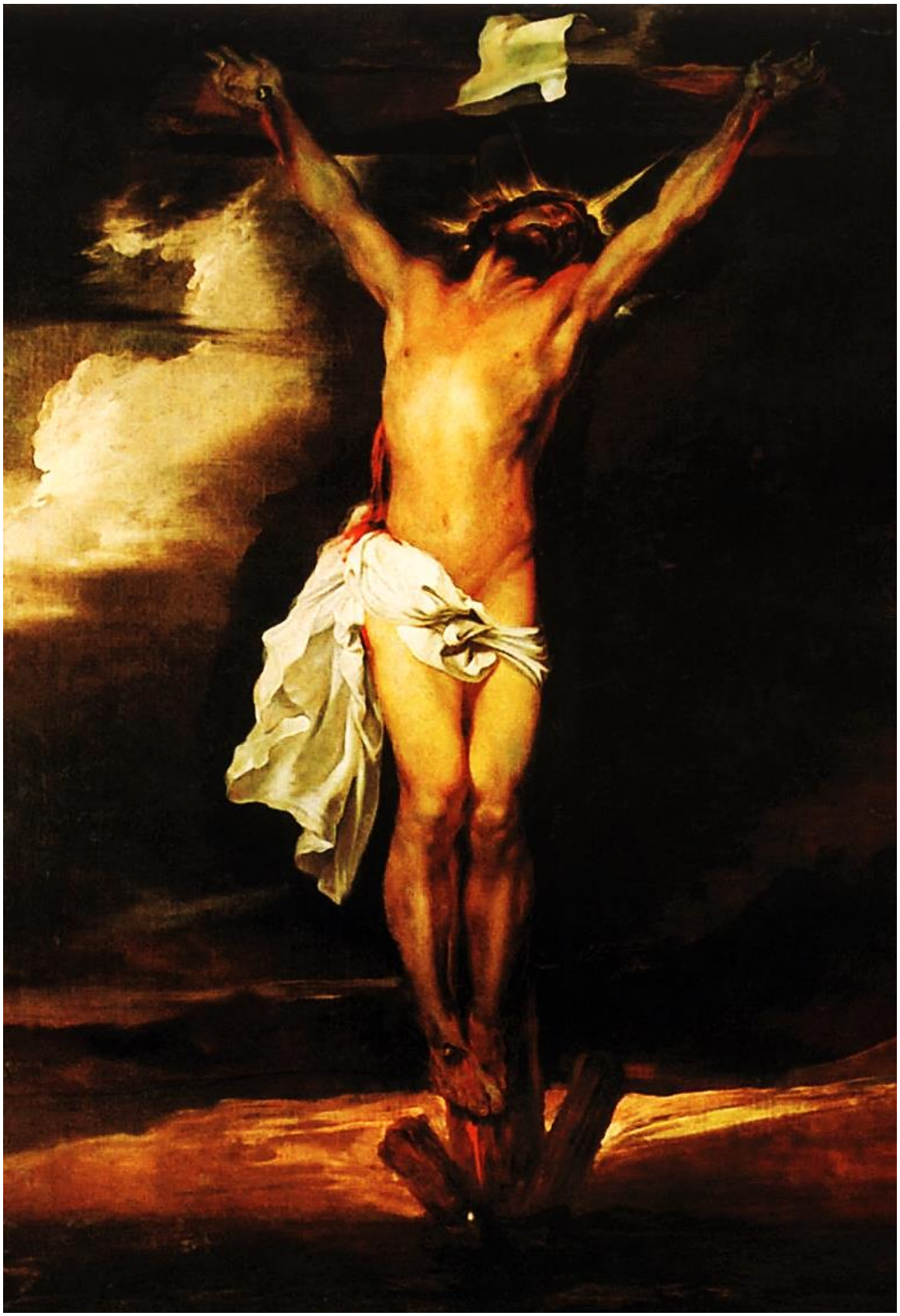
疑われないようにするために
疑われないようにするために、ピラトは
ピラトは、「イエスが死んだと確信しているのか?
たった**6**時間で十字架の上で死ぬ者はいない。
衛兵長を送って死体を調べさせよう」と答えた。
翌日は特別な安息日であり、サンヘドリンのメンバーは安息日の間に十字架の上に遺体を残しておきたくなかったので、ピラトに十字架にかけられた者の足を折って遺体を下ろすように頼んだのである。

このタイミングは、日没までにイエスを十字架から降ろして、「死んだ」ように見せるという計画と一致していた。
そこでピラトは、衛兵長を派遣して遺体を調べさせ、イエスが実際に十字架上で死んだことを確認させるとともに、他の囚人たちの足を折って死期を早めるように指示したのである。

衛兵長は、他の囚人の足を折って体を倒すように兵士に指示した。
衛兵長は兵士たちに、他の囚人たちの足を折って、
体を下ろすように指示した。
イエスは死んだように見えたが、衛兵長はイエスの右脇腹に槍を突き刺し、致命傷に見えるような肉傷を負わせた。脇腹に穴が開いていたため、突然血が流れ出し、イエスがまだ生きていることを証明したのである。

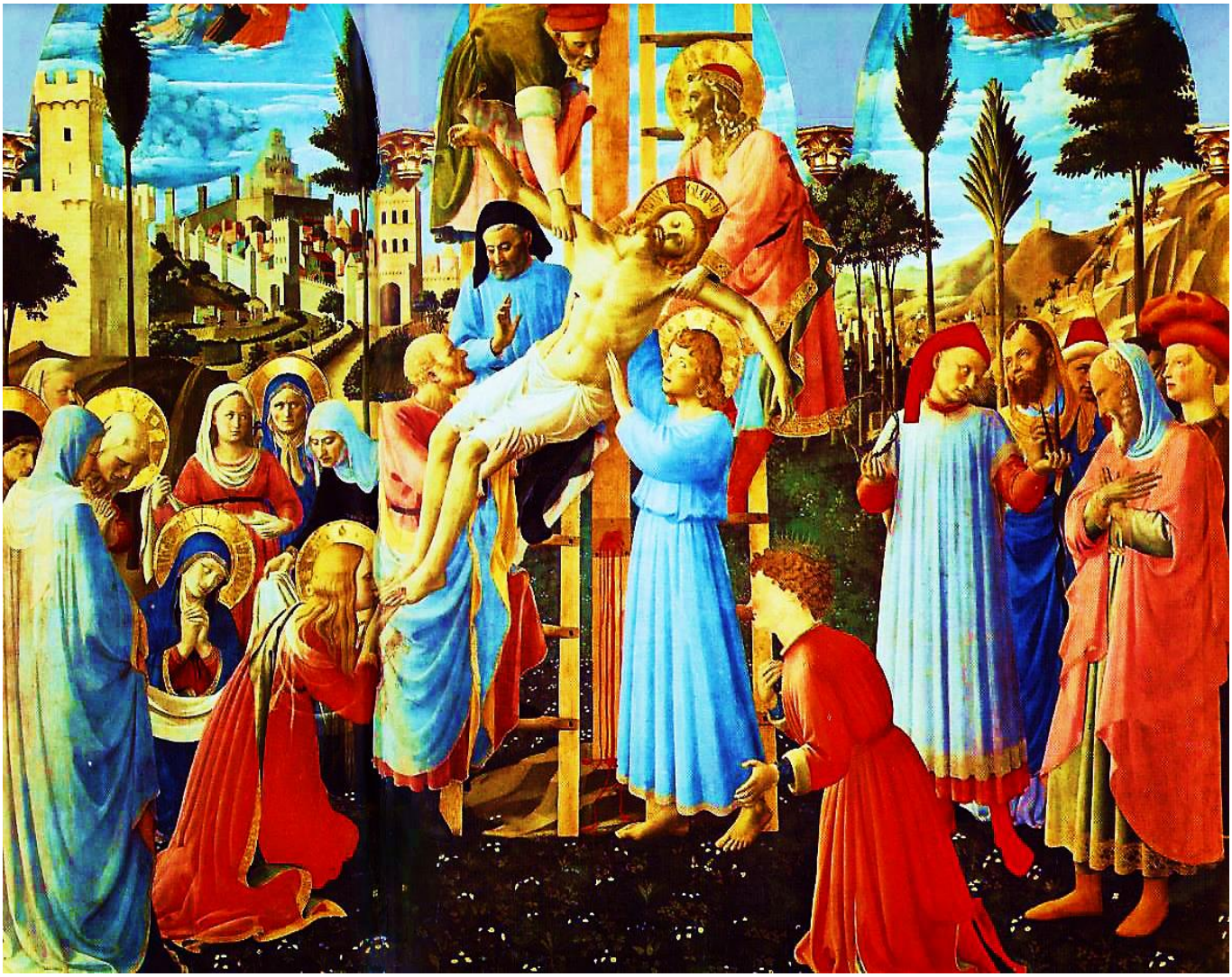
しかし、遠くから見ると、脇腹が貫かれ、白い布の上に突然赤い血が流れたことで、誰もがイエスが槍でまっすぐに貫かれ、イエスが "十字架上で死んだ "という印象を受けたのです。





衛兵長は続けてこう発表した。
"イエスは死んだ"

アリマタヤのヨセフとニコデモとヨハネが
は、イエスを十字架から降ろした。



そして、アロエやミルラなどの強力な治癒剤を含むリネンやスパイスで彼
の体を包んだ。

そして、その母であるマリアは、イエスを抱きしめて泣いた。

その母であるマリアは、イエスを見て

そして、イエスが十字架上で死んだことを心から信じた。

そして、アリマタヤのヨセフとヨハネは、イエスを石板の上に寝かせた。

アリマタヤのヨセフとニコデモとヨハネは、イエスを墓所に運んだ。アリマタヤのヨセフが所有するプライベート・ガーデンの岩に最近彫られた広大な墓所である。

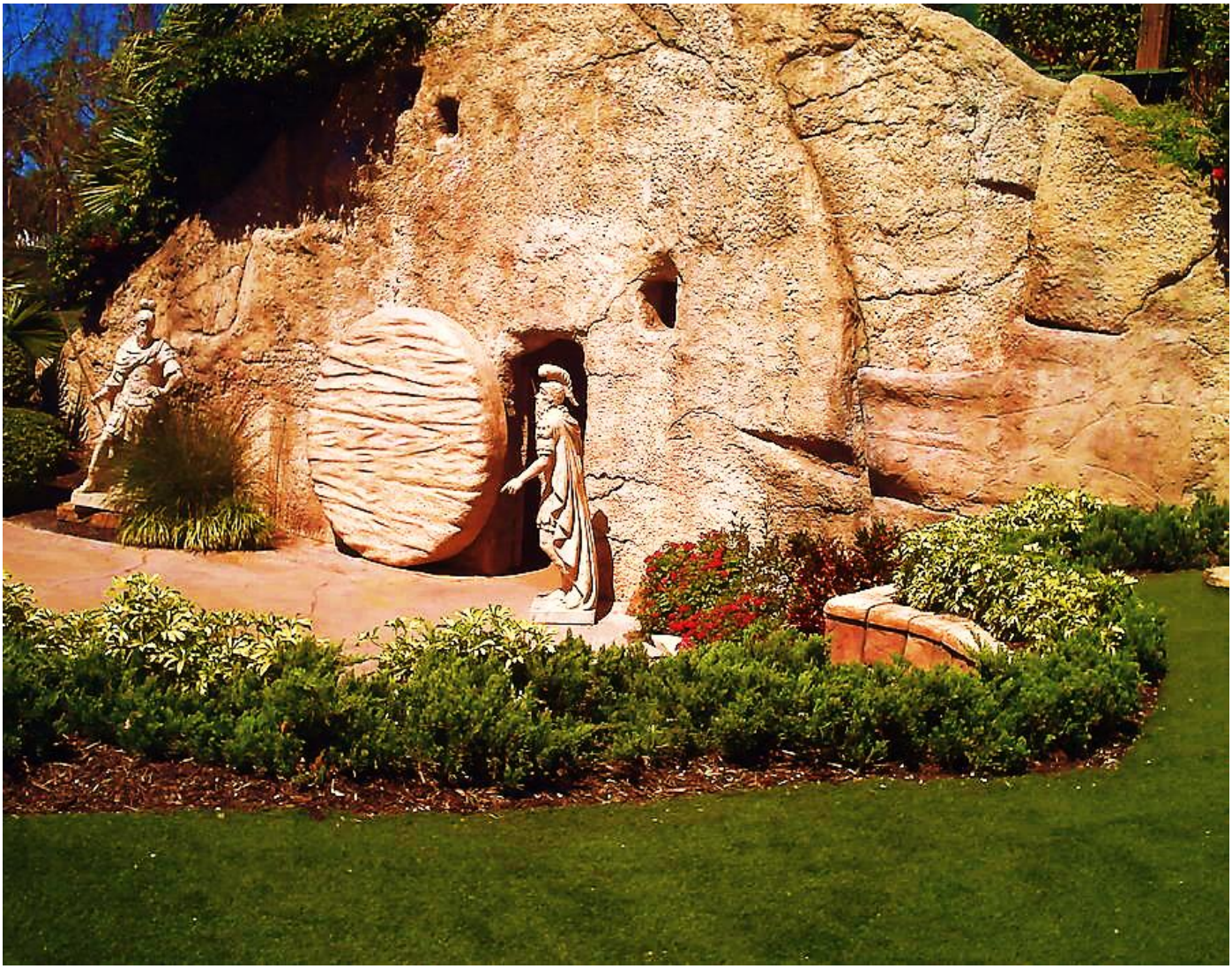
アリマタヤのヨセフとニコデモとヨハネは

墓所の中の石板の上にイエスを寝かせた。

墓所はアリマタヤのヨセフの私邸の庭にあったが、サンヘドリンはピラトに「墓所を封印するように」と要求していた。「弟子たちが遺体を盗んで、後にイエスが天に昇ったと主張しないように」と。

そこで、ピラトは警備隊長と百人隊長を派遣して

ピラトは衛兵長と百人隊長を派遣して「石に封印」させ、墓所の入り口で「見張り」をさせた。



マグダラのマリアは、イエス自身を除いて、
当時、最も高度に進化した霊的存在であった。マグダラのマリアは、イエスとその母マリアとともに、エジプトの神秘主義の教育を受け、3人ともエッセネ派のマスターヒーラーであった。
エッセネ派のマスターヒーラーでした。

イエスが石板の上に寝かされた後、マグダラのマリア、母親のマリア、ヨハネは、アロエや没薬でイエスの傷を丁寧に手当し、
イエスが "麻酔状態 "から抜け出すのを優しく助けた。

イエスは石板の上で動かずに横たわっていた。マグダラのマリアをはじめとする弟子たちは、イエスが "麻酔状態 "から抜け出したことを示す "生命の兆候 "がないか、じっと見つめている。

そして、マグダラのマリアの目にイエスが映り、その目に映ったイエスが "麻酔状態 "から抜け出し始めたことを示す "生命と光の揺らぎ "を見ることができる。

マグダラのマリアの目は、その後、認識を反映しています...彼女はイエスがクリアで輝くと明るい彼の目を開くように "生命と光のフラッシュ "を見ている！それは、彼が彼の目を開いているように、
彼女は彼の目を見ています。

スリーキングス

イエスの誕生は、ペルシャのメルキオール、インドのカスパー、アラビアのバルタザールという東方の三大王をはじめとする多くの人々によって予言されていました。彼らは単なる王ではなく、天文学者であり、占星術師であり、魔術師であり、賢者であり、先見者であり、
そして王でもありました。

そして、この3人の王は何年も前から空を描き、私たちが知っているあの世界の神の光の誕生を予言していたのです。
私たちが知っている世界の神の光である
"イエス"

ペルシャのメルキオール王の宮殿では、王がバルコニーで夜空を深く見つめています。

インドのカスパー王は、宮殿の大広間で、壁にかかった地図を指差して星座を描いています。

続いてアラビアのバルタザール王が宮殿の塔で巨大な水晶の球体を覗き込んでいる様子が映し出される。

東方の三大王は「マギ」や「賢者」とも呼ばれ、さまざまな名前で知られる神秘主義者のグループの一員であり、古代エッセネ派をはじめとするいくつかの「精神的な秩序」で結ばれていたのです。

Stella
caspar
Melchior
Baltasar

エッセネ派とは

エッセネ派とは、マリアとヨセフ、イエスとその家族や友人たちが所属していた高度に進化した霊的存在の集団で、禁欲的な生活を送り、菜食主義を唱え、アルコールを断ち、毎日の祈りと儀式的な沐浴を厳守し、未来を予言し、聖典や星座や星の動きに非常に精通していました。

エッセネ派は、当時のユダヤ教の二大宗派であるパリサイ派やサドカイ派とユダヤで共存していました。しかし、エッセネ派はファリサイ派やサドカイ派とは多くの点で異なっていました。

彼らは厳格な非暴力主義者でした。

彼らは絶対的な菜食主義者であり、動物の死体を食べたり、血を飲んだりすることはありませんでした。

アルコールも一切飲まなかった。

エッセネの人が作ったものしか食べない。

動物から作られた衣服を着ることはなく、代わりに麻で衣服を作っていた。

彼らは動物の生け贄を嫌っており、動物の生け贄を必要とするように律法が改変されていると主張していた。

彼らは、トーラーをはじめとするヘブライ語の聖典を、霊的、象徴的、形而上学的に解釈していました。 彼らはまた、エッセネ以外の誰にも見せられない独自の難解な書物を持っていました。

エッセネ派は他の宗教の聖典を尊重し、普遍的で折衷的な宗教観を持っていました。

彼らは結婚していても独身であることが多く、完全な独身生活を送る者も多かった。

彼らは、教育を受けた男女のメンバーを精神的に対等であると考え、男女の預言者や教師がいました。

彼らは輪廻転生とカルマの法則を信じ、魂は最終的に神と再会すると信じていた。

太陽は神の顕現であり、肉体と精神に霊的な力を与えると信じていた。朝は昇る太陽に向かって瞑想し、夕方は沈む太陽に向かって瞑想しました。また、朝起きたら、朝の祈りが終わるまで一言もしゃべらず、ひたすら礼拝の祈りを捧げた。彼らは、太陽を神ではなく、愛と光の唯一神の象徴と考えていた。

彼らは、朝の瞑想時と夜の瞑想時に、太陽を直接見つめる「サンガジング」という古代の習慣を行っていました。

彼らは、占いと予言の力を信じていました。

オカルト的な公式、聖なる音、マントラ、密教的な儀式、振動の力、言葉の力、そして "スピリチュアル・マジック "の神聖な原理を信じていた。

占星術を信じていた彼らは、星座や星の様相に合わせて占いをしたり、貴重な宝石や水晶で「魔法の」お守りを作ったりしていました。

奇跡的な治癒は、本物の精神生活の自然な延長線上にあると信じていました。

彼らは、真実に忠実であることを厳守しました。
当時のインドのバラモン教徒と同じように、特に頻繁に水浴びをするという純潔のルールを守りました。

彼らは他人のプライバシーを厳守し、孤独を神聖なものと考えていました。

彼らは、光である神を崇拝し、神によって光を身にまとっていることを示すために、白い服しか着ない。

エッセネ派の人々は、自分たちが別の民族であると考えていました。それは、身体的特徴や文化的背景によるものではなく、彼らの内面が照らされ、宇宙の隠された謎を知っていることによるものでした。選抜されたイニシエーションを受ければ、誰もがすぐにエッセネになれることから、彼らは自分たちを「すべての人々の中心にいる人々の集団」と考えていた。

エッセネ派の人々は、自分たちが光の息子・娘であり、古代文明の秘教的な知識や知恵を受け継ぐ者であると信じていました。彼らはその高度な知識を行使し、"闇 "から "光 "への転換を促進するために、秘密裏に熱心に活動しました。

エッセネ派は、単一の宗教や哲学に限定されることなく、すべての宗教や哲学を研究し、それぞれの本質的な哲学的・形而上学的原理を抽出していた。彼らはそれぞれの宗教を、一つの神の啓示の異なる表現であると考えた。

エッセネ派は、古代カルデア人の秘教、ヘルメス・トリスメギストスの知恵、エッセネ派のマスターの一人であるモーゼの秘密の知識、そしてエノクの聖なる教えに啓示された古代の知恵と知識を非常に重要視していた。

エッセネ派の生活様式から、エッセネ派の一部の人々は非常に高い振動数で存在していたため、天使の存在を見ることができ、天使と交信することができました。 エッセネ派の古代のマスターたちは、天使の領域との直接のコミュニケーションによって、宇宙の謎と存在の目的をずっと前に解決していました。

古代の人々は皆、「白衣の兄弟姉妹」を知っていました。ヘブライ人は彼らを「預言者の学校」と呼び、エジプト人にとっては「治療者、医者」であった。 エッセネ派は、世界の主要都市のほとんどに実質的な財産を持っており、エルサレムには彼らの名を冠したドアがあった。

エッセネ派の人々は、その正直さと誠実さ、平和主義と善良さ、治療者としての才能、そして富める者だけでなく貧しい者にも献身的に尽くしたことから、古代世界の誰もがエッセネ派を尊敬していた。

エッセネ派の人々の中には、田舎に住んで農作業をしている者もいた。他のエッセネ派の人々は道を旅して、エッセネ派の共同体全体にニュースや情報を伝えた。他のエッセネ派の人々は、都市部でエッセネ派の共同体が所有する大きな建物に住み、彼らの家、宿屋、ホスピスとしての役割を同時に果たしていた。

エッセネ派は、自分たちの「内なる教え」を秘密にしなければならないという法律を厳格に守っていたが、「あらゆる地平からの巡礼者」のための宿泊所や、困難な時期の助けとなる行動、特に病気の治癒など、多くの人々との接点を持っていたのである。

エッセネ派の人々は、病人を癒すこと、地元の人々や旅人のニーズに応えること、そしてこの地を通りかかる見知らぬ人々をもてなすことに、時間と活動を捧げていました。

マリアとヨセフがローマの国勢調査のためにベツレヘムに旅していた時、マリアが出産する時には、その地域にあったエッセネ派のホスピスに滞在し、マリアがイエスを出産する時には、エッセネ派の助産婦が付き添っていたことでしょう。

エッセネ派の人々は、非常にシンプルで直接的な戒律に従って生活していました。 "自分自身を清めなさい。体を洗い、心を清め、魂を聖なるものとせよ。動物の肉を食べたり、発酵した液体を飲んだりしてはならない。日の出の時には太陽に向かって瞑想し、日没の時には太陽に向かって瞑想しなさい。他人に奉仕することで自分にも奉仕しなさい。そして、あらゆる考え、言葉、行いにおいて、常に天の父に注意を向けなさい。"

イエスの時代、エッセネ派はユダヤに約4,000人いたと言われています。エッセネ派の人々は、様々な職業や階層の人々で構成されていましたが、主に、「物質的な世界」が「魂を不快にさせる」と感じ、財産を売り払い、「先祖代々の素朴で自然な信仰」に立ち返ることを決意し、信者としての生活を選択した人々でした。エッセネ派は世俗に反対していたのではなく、単に「世俗」に反対していたのである。

エッセネ派の人々は、夜明けとともに起床して日の出の礼拝を行い、正午までは畑仕事や与えられた仕事をし、正午になると入浴して儀式用の衣をまとい、基本的な昼食をとるという簡素な共同生活を送っていました。祈りを捧げ、服を着替えた後、夕方まで仕事をし、日没時には瞑想を行います。

日の出前と日没時には共同の祈りを行い、個人的な祈りの時間も設けていた。食事の前には必ず礼拝をした。

彼らの生活は、労働と学問の間で成り立っていた。エッセネ派の人々の知的レベルは非常に高く、エルサレムにいたローマの役人からも、相談相手や若者の教師として好まれていた。このような神々しい男女に教えられた子供たちは、学習だけでなく、「人格の発達」を非常に重視していたため、ある程度の「悟り」を得ることができました。エッセネ派の人々が信頼できるのは、彼らが常に真実であり、腐敗しないからである。

このグループは、共通の財布を持ったメンバーに支えられていた。彼らは、合法的で誠実な仕事を信じ、ある活動が他の活動より優れているとは考えなかった。それぞれが自分の才能や能力を持っていた。創作や生産はできても、物々交換や取引はできない。ある者は職人であり、他の者は周囲の土地を耕していた。

エッセネ派の中には職業人もいたが、エッセネ派では手を使うことが特に賞賛されていたので、多くのエッセネ派は大工であった。彼らは聖性を「神の子らを助けることによって神に無私の奉仕をすること」と解釈していた。

エッセネ派の中には、東方の三王のように、古代神秘主義のメルキゼデク教団から占星術の体系を受け継いだ占星術師もいました。三王はエッセネ派の一員であり、イエスの誕生を含む未来を予言した宗派であった。エッセネ派は非常に神秘的な教団であり、その共同体では多くのシンボルが使われていた。

メルキオール王はペルシャ出身で、

その名は「光の支配者」を意味しています。

カスパー王はインド出身で、

その名は〝宝〟を意味します。

バルタザール王はアラビア出身で、

その名は〝王を救う〟を意味しています。

3人の王はいずれもエッセネ派の精神的な師匠であり、3人とも古代の神秘的なカルトであるメルキゼデクに属していました。これは、イエスが精神修養の一環として、やがて入門することになる神聖な教団である。

三人の王は、イエスに敬意を表し、彼とのコミュニケーションのリンクを確立することを意図していました。このリンクは、彼がインド、チベット、カシミールで青年期の教育を受ける間、中東とインドのエッセネの共同体を通じて維持され、エッセネ教団の中心であるまさに光の使者としてユダヤに戻ってくることになります。

三人の王は、イエスの誕生を祝うためにユダヤへの旅の準備をしていたとき、王族の贈り物である金、乳香、没薬を持ってきましたが、彼らが自分たちの仲間だと認めた一人、つまり古代王族の血筋を引く高度に進化した霊的存在がいました。

そうです。イエスは王族であり、ダビデ王の直系の子孫であり、マリヤの側はダビデ王の息子ナタンを、ヨセフの側はダビデ王のもう一人の息子ソロモンを通しています。

そして、イエスとマリアとヨセフは、エッセネ派として非常に質素な生活をしていたにもかかわらず、ダビデ王の直系の子孫として、ダビデ王家の一員として、計り知れないほどの富を得ていたのです。

マリア、イエスの母

当時のイスラエルのエッセネ派の中で、ヨアヒムとその妻ほど高く評価されていた人はいない。
ナザレのアンナです。ヨアキムは、その偉大な徳で知られていた。
莫大な富、そして限りない慈善活動で知られていました。

イスラエル全土で最も裕福な男であったヨアキムは、毎年の収入を**3**分の**1**ずつに分け、**3**分の**1**をカルメルとエルサレムの神殿に、**3**分の**1**を貧しい人々に与え、**3**分の**1**だけを自分のものにしました。アンナはエッセネ派の先見者、教師として有名であった。

・

ST. ANNA
ST. JOACHIM

ヨアヒムとアンナは長年一緒に暮らしていたが、
子供を授かることはなかった。

ST JOAKIM
ST ANNA

ヨアヒムが羊の群れの世話をしている間に、

天使が夢に現れた。

天使が夢の中で彼に現れ、

彼と彼の妻アンナに子供が生まれることを告げた。

妻のアンナとの間に子供が生まれることを告げて、こう言った。

"私は神からあなたの守護者として任命された天使です。

自信を持ってアンナのもとに戻りなさい。

あなたとあなたの妻アンナが行ったあわれみの行いは、

いと高き方の前で語られたのだから。

"神はあなたに、初めから終わりまで、

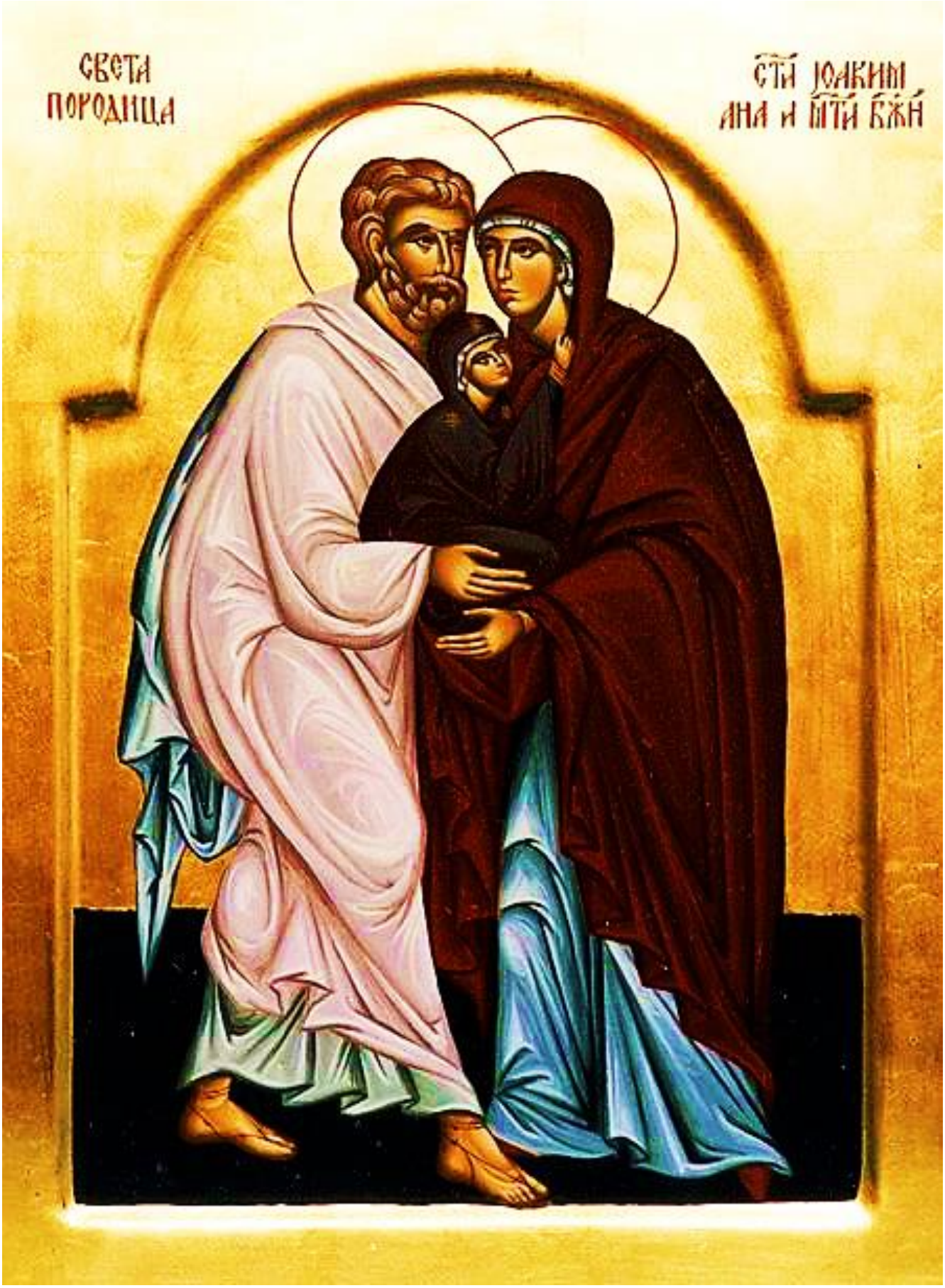
預言者も聖人も持ったことのない、

また持つことのないような実りを与えるだろう。

ヨアヒムとアンナの美徳と慈愛は、
彼らの精神的な運命を形作る大きな要因となった。
彼らの思いやりと寛大さは、
聖母マリアの両親となる名誉と特権を勝ち取ったのである。
ヨアキムは眠りから覚めると、
すべての牧童を呼び寄せ、
自分の夢を話して言った。
"起きなさい。私たちの群れを養いながら、
静かな歩みで帰ろう」。
ヨアキムが家に帰る途中、見よ、
主の天使がアンナに現れ、こう言った。
"あなたは身ごもっています。
"あなたは身ごもっています。金閣寺に行って、
途中で夫に会いなさい。

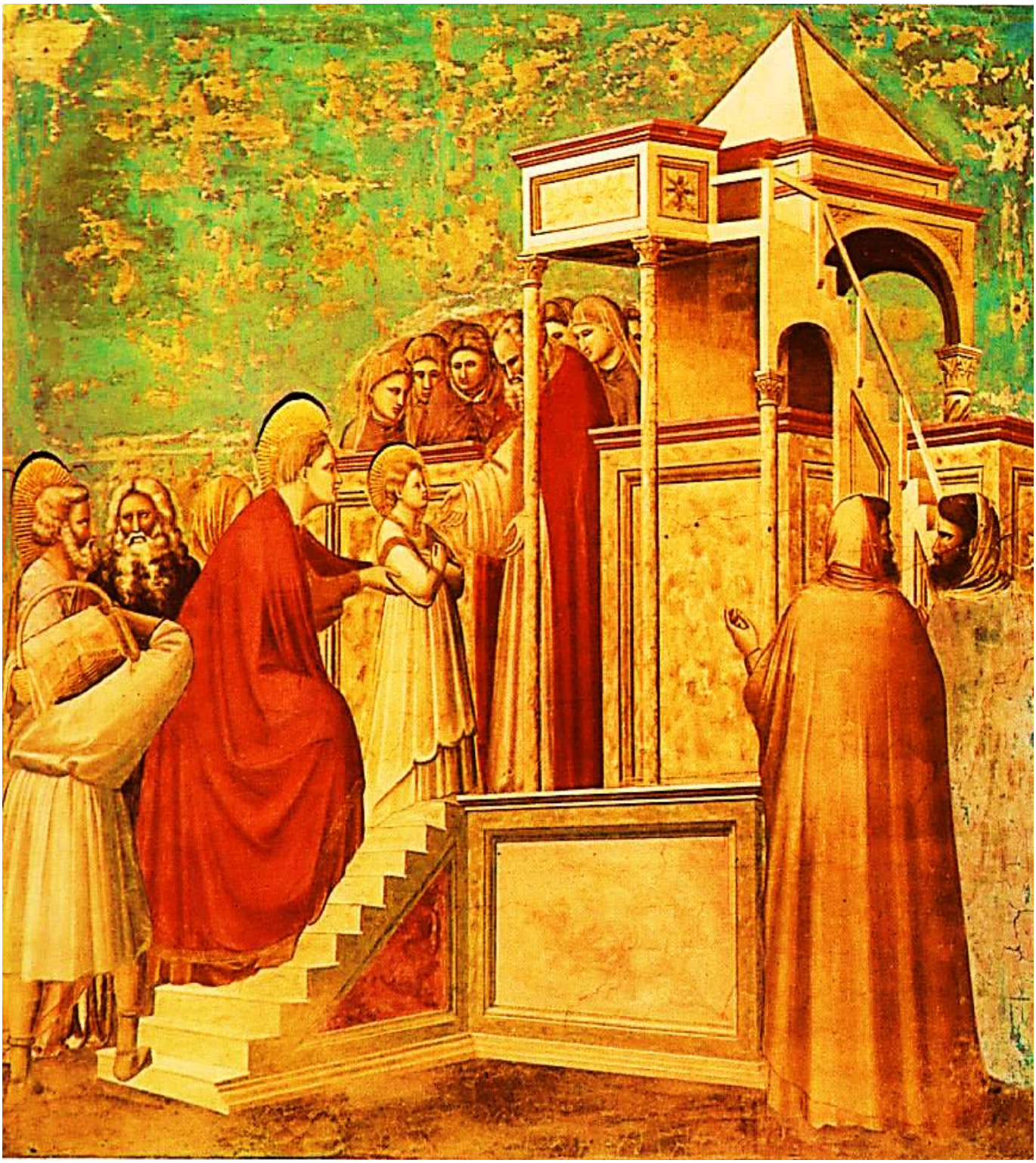
そこで、アンナは、急いで乙女たちと一緒に
エルサレムの金の門に行って
そこで長い間ヨアヒムを待っていた。
そして、アンナはついにヨアヒムが群れを連れて来るのを見た。
アンナはヨアキムが群れを連れて来るのを見て、
彼に駆け寄り、腕を回して叫んだ。
"私は不妊でしたが、今、身ごもりました！"

アンナとヨアキムは家族や友人たちと一緒に祝い、皆が彼らを祝福したので、イスラエルの地では皆が大きな喜びに包まれた。
9ヶ月後、アンナは小さな女の子を産み
"マリア "と名づけた

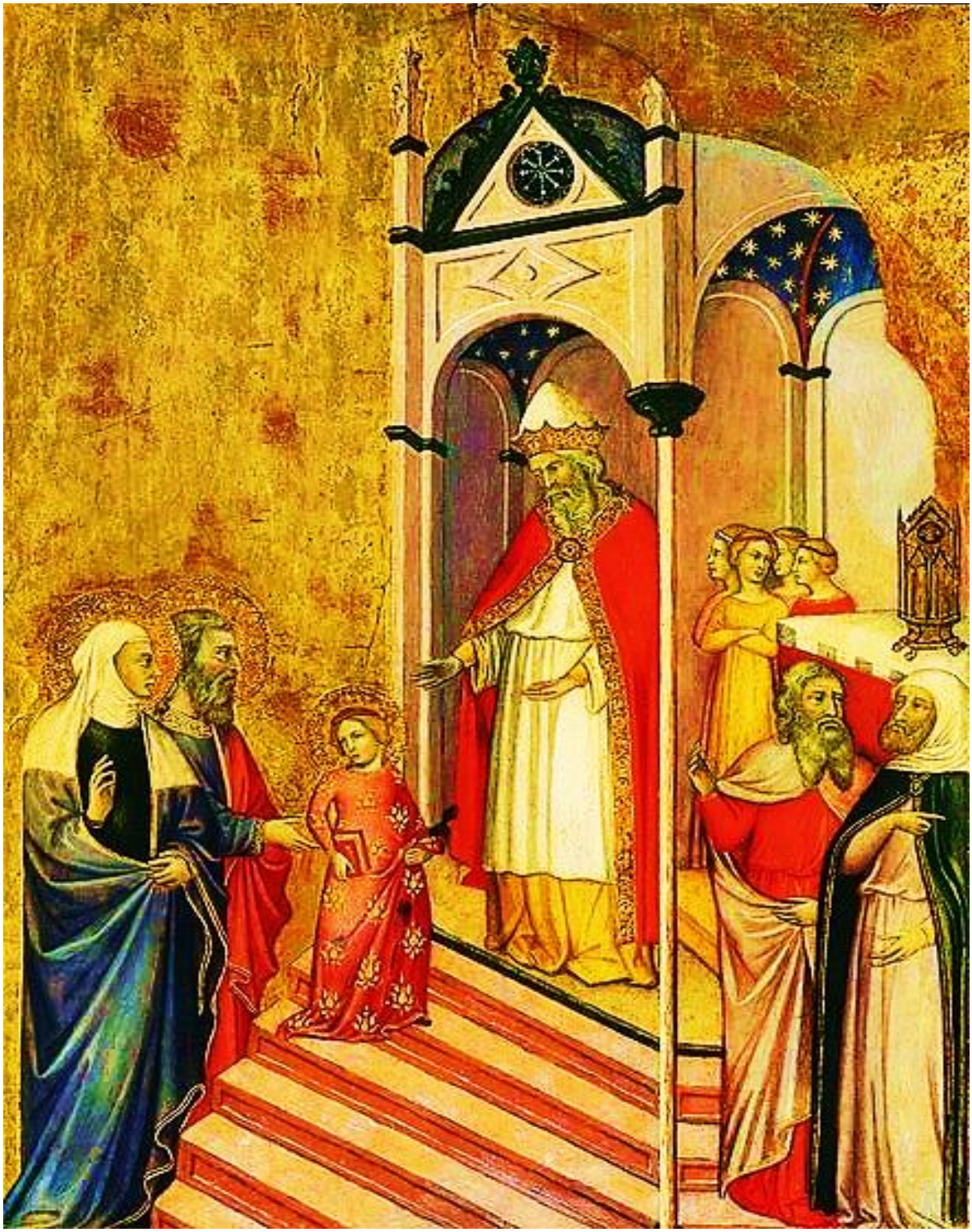

СВЕТА
ПОРОДИЦА
СТИ ЈОАКИМ
АНА И МТИ БЖИ

アンナとヨアヒムは、幼いマリアを3年間育てた後 一 緒に主の神殿に行き
、ダビデ家の王女である幼いマリアを処女の共同体に入れ、
昼夜を問わず神に祈りを捧げた。

マリアが神殿の扉の前に置かれると
あまりにも速く階段を上ったので
両親は彼女を見失いました。



両親は心配して幼いマリアを探した。
神殿の中にいるのを発見したのです。



PRESENTATION OF THE THEOTOKOS

ENTRANCE OF THE THEOTOKOS INTO THE TEMPLE

そして、誰もが単純に小さなメアリーを愛していた。

メアリーがまだ3歳の時。
彼女はとても成熟した足取りで歩き、とても完璧に話し、
神への賛美に熱心に時間を費やしたので、すべての人が彼女に驚き、
不思議に思った。そして、マリアは若い幼児ではなく、20歳の成熟した
若い女性として評価された。20歳の成熟した若い女性として評価されま
した。マリアはあまりにも絶え間なく祈り続け、その姿があまりにも美し
く、輝いていたので、誰も彼女の顔を見ることができなかった。

メアリーは常にウールの仕事に没頭していた。
それは、年配の女性ができない仕事を、彼女が若いうちにすべてできるようにするためだった。

これは、彼女が自分に課した命令であった。
1時間目から3時間目までは、祈りを捧げていました。1時間目から3時間目までは祈りを捧げ、3時間目から9時間目までは機織りをし、9時間目からは機織りをする。

そして、9時間目からは再び祈りに専念した。　マリアは、
主の天使が彼女に現れるまで、祈ることをやめなかった。
その手から食べ物を受け取ることになっていた。

年配のおとめたちが神の賛美から離れて休んでいたとき、マリアは全く休まなかったので、神の賛美と夜会において、彼女の前には、神の律法の知恵に習熟した者、謙虚さに習熟した者、歌に優雅さを感じさせる者、すべての徳に完璧さを感じさせる者はいなかった。

マリアは確かに、不動であり、不変であり、日々完成に向かって進んでいました。誰も彼女が怒っているのを見たことがない。
悪口を言っているのを聞くこともありませんでした。

彼女の話す言葉はすべて恵みに満ちていたので、
彼女の神は彼女の舌の中にあると認められた。彼女はいつも祈りと律法の探求に励み、自分の言葉によって仲間のことで罪を犯さないかと心配していました。また、笑い声や美しい声の響きの中で、
何か過ちを犯さないか、高揚感の中で、仲間の一人に対して見下したり、
高慢になったりしないかを心配していました。
笑い声や美しい歌声の中で、何か欠点を犯してしまわないか、高揚感の中で、同類の人に見下したり、
高慢な態度を示してしまわないかと心配した。

マリアは、毎日天使の手から受け取った食物でのみ自分をリフレッシュし、司祭から得た食物は貧しい人々に分け与えたのです。
神の御使いたちがマリアと話しているのをよく見かけた。
神の天使たちはしばしばマリアと話しているのを見たが、
彼らは最も熱心に彼女に従っていた。

さて、マリアが14歳になったとき、ファリサイ派の人々が、
「その年齢の女性は神の神殿にとどまってはならないという習慣がある」
と言う機会があった。そこで、彼らはイスラエルのすべての部族に、
三日目に全員が神の宮に集まるようにと、前触れを送った。
三日目に全員が主の神殿に集まるようにと、
イスラエルの全部族に布告した。

民衆がみな集まってくると、大祭司アビアタルは立ち上がり、
民衆全員に見られ、聞かれるように高い段に登った。
大いなる静寂が得られたとき、彼は言った。

"イスラエルの子らよ、私を聞き、私の言葉をあなたの耳に入れよ。
この神殿がソロモンによって建てられて以来、この神殿には王の娘、
預言者の娘、大祭司の娘などの処女がいて、彼女たちは素晴らしく、
称賛に値するものでした。

しかし、彼らは適齢期になると結婚させられ、先の母親たちの流れを汲み
、神に喜ばれていました。しかし、新しい生活の秩序は、神に対して処女
であり続けることを約束したマリアだけによって築かれたのです。"

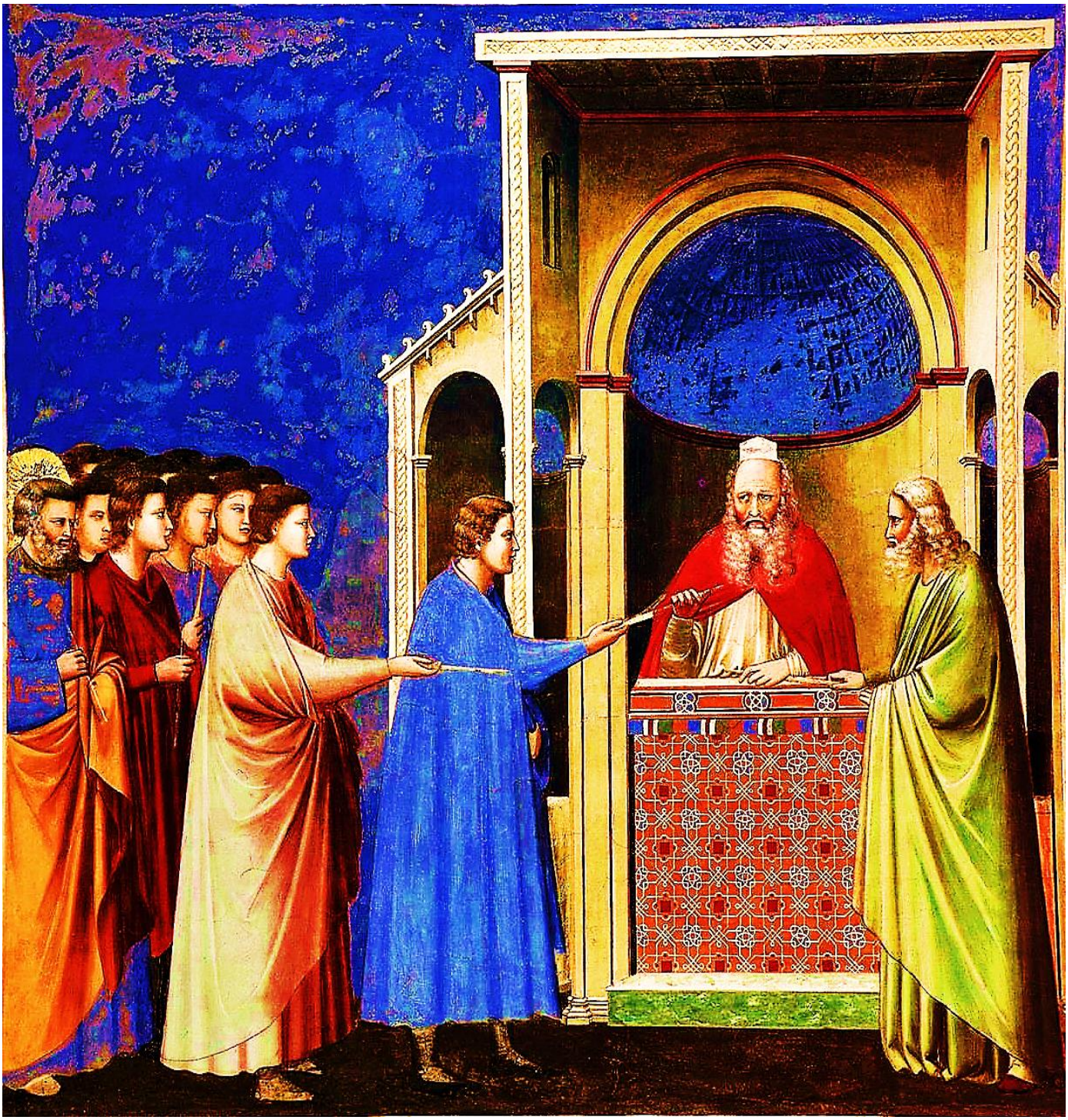
しかし、大祭司のアビアサルは、マリアが処女を保つつもりならば、保護
者がいなければならないと主張し、こう言いました。

"だから、私たちの問いかけと神の答えによって、誰に預けるべきかを確
認するべきだと思います。"

この言葉は、神殿にいたすべての人々に好意的に受け止められた。大祭司
はイスラエルの十二部族にくじを引いた。
そして、大祭司がイスラエルの12部族にくじを引いたところ、そのくじは
ユダ族に当たりました。

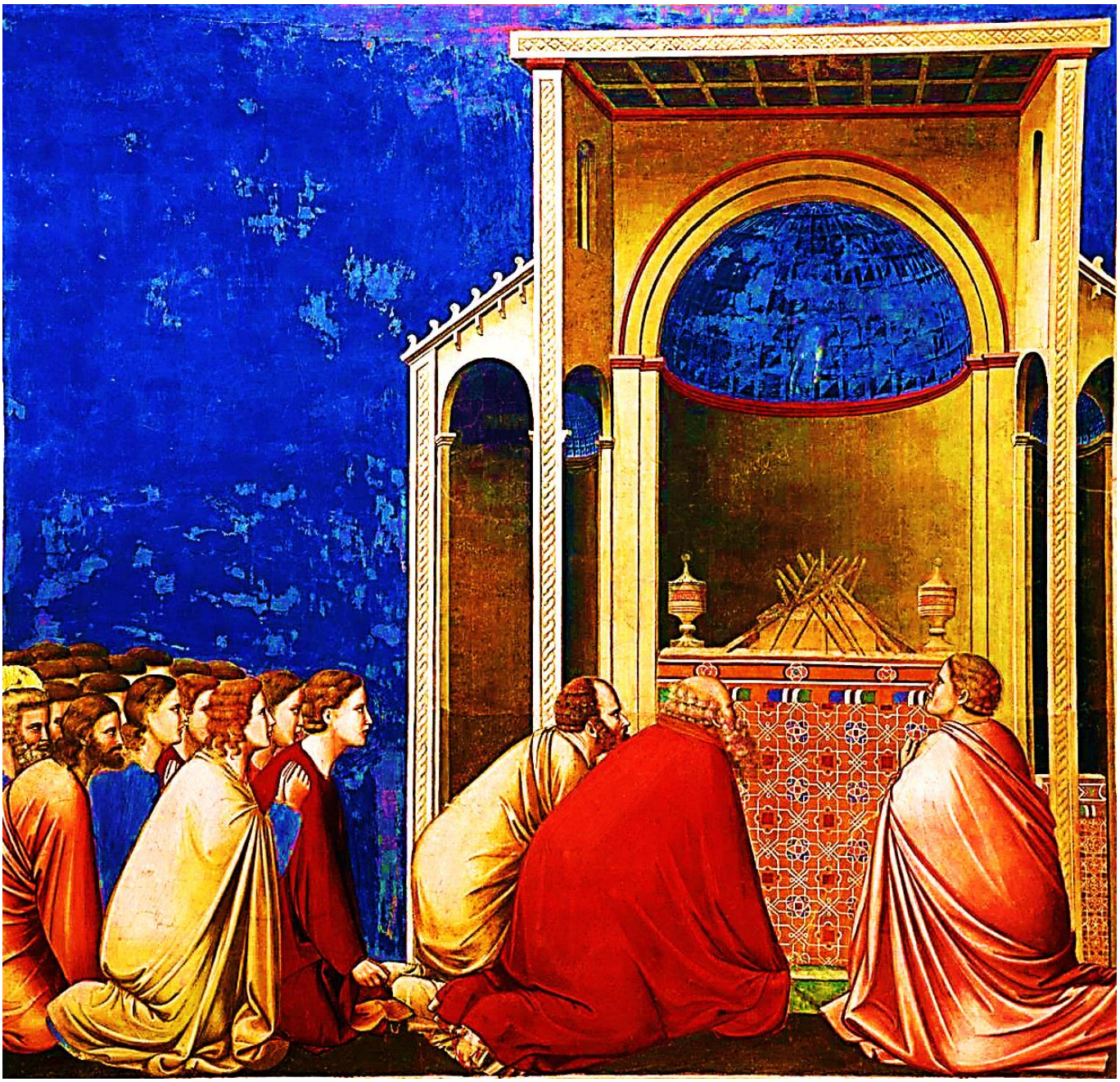
そしてまた、占いの結果は、神の声とされた。

"明日、ユダ族の男で妻のいない者は全員、神殿に来て、
手に棒を持ってくるように"



そして、適格者全員が神殿に戻り、自分の棒を大祭司に渡した後に
彼は主なる神にいけにえを捧げた。
大祭司はその後、主に尋ねた主は彼に言われた。

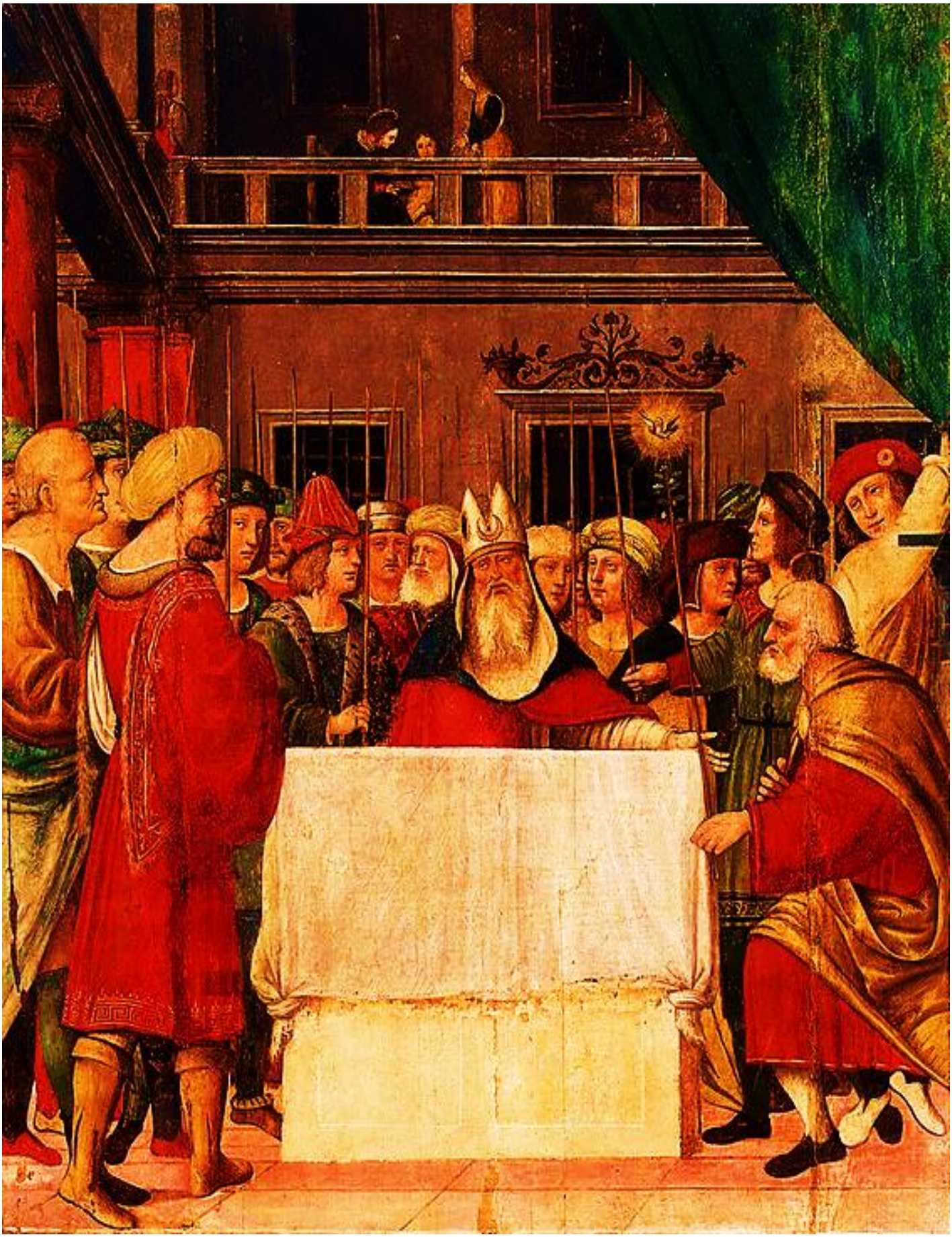
"彼らの棒をすべて神の聖所に入れ、一晩中そこに留まらせ、明後日に彼らの棒を取り返すように命じる。



また，自分の竿から鳩が出て天に向かって飛び，その竿を自分の手に持っている人は，返してもらったときに，この印を示す。
返してもらったときに、この印を示す。

マリアとジョゼフの婚約式

ヨセフは、大祭司の命令を無視したと思われないように、
自分の杖を若者たちと一緒に持ってきたが、
「くじ引き」の対象になることは全く望んでいなかった。
ヨセフはエッセネ教徒として独身の道を選んでおり、
マリアと出会ったときはまだ処女だったからだ。ヨセフは、ヤコブ、
ヨセフ、ユダ、シモンなどの姪や甥を自分の子供として採用していました
が、生涯独身を貫くつもりでしたし、実際にそうしていました**)**。
そして、ヨセフが謙虚に最後に立っていたとき、
大祭司は大声で彼に叫んで言った。
"ヨセフよ、来て、あなたの杖を受けなさい。
大祭司が非常に大きな声で彼を呼んだので、
ヨセフは震えながら上がってきた。しかし、
ヨセフが手を伸ばしてその棒を持つと、
すぐにその上から雪よりも白く、非常に美しい鳩が出てきて、
神殿の屋根の上を長い間飛び回った後、天に向かって飛んでいった。
鳩は処女のしるしである。この場面では、
ヨセフとマリヤの処女性が継続していることを表していた。
彼の竿から鳩が出てきたことで、ヨセフは
ヨセフは、その生命と心の絶対的な純粋さにおいて、
聖母マリアと一致していることを証明した。
そして、人々は皆、ヨセフを祝福して言った。
"父ヨセフよ、あなたは老いても祝福されている。
" "神があなたにマリアを迎えるのにふさわしいことを示されたからである
。" 祭司はヨセフに言った。"ユダ族の中で、あなただけが神に選ばれたの
だから、彼女を受けなさい"。



ジョセフは、恥ずかしそうに彼らに向かってこう言い始めた。

"私は年寄りで、孫もいます。
孫よりも若いこの幼子をなぜ私に渡すのですか。
私の孫よりも若いこの幼子を、なぜ私に渡すのですか」。

すると、大祭司アビアサルは彼に言った。

"ヨセフよ、ダタンとアビロンとコアが神の御心を軽んじて滅びたことを思い出しなさい。

あなたにも同じことが起こるだろう。
もしあなたが、神からあなたに命じられたこのことを軽んじるならば、あなたにもそうなるでしょう」。

ヨセフは彼に答えた。

"私は神の御心を軽んじてはいません。
私は神の御心を軽視していません。
私の息子のだれが彼女を妻とすることができるか、神の御心を確かめるまで、私が彼女の保護者となります」。

ヨセフは言った。

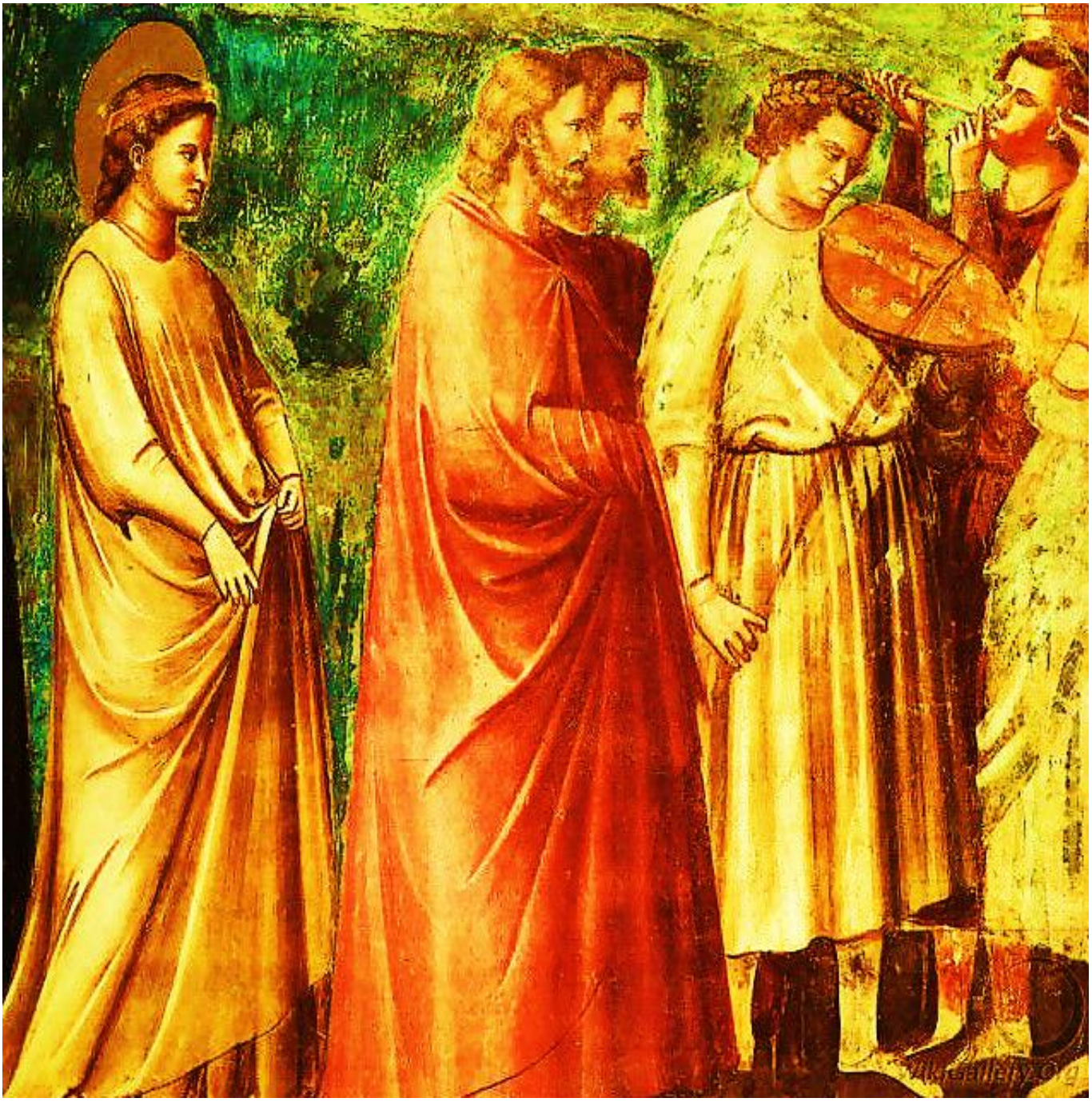
"彼女の仲間の何人かの処女に
慰めのために与えよう。
慰めのために彼女に与えましょう」。

大祭司のアビアサルは答えて言った。

"5人の処女を彼女の慰めとします。
あなたが彼女を迎えることのできる定められた日が来るまで。
なぜなら，彼女は他の者と結婚することができないからである。"

大祭司はヨセフの回避を許さない。
彼だけに聖母は託される。他の5人の神殿の処女たちは、やがて、
同じ家に住んでいたマリアとヨセフの間に性的接触がなかったこと、
マリアが他の人と姦淫していなかったことの証人となります。

そして、マリアとヨセフの婚約のために、大きな行列ができた。



そこで、マリアとヨセフは婚約した。

そして、マリアとヨセフのために大きなお祝いがありました。

それから、ヨセフはマリアを、ヨセフの家で一緒にいることになっている他の5人の処女とともに迎えた。これらのおとめは、レベッカ、セフォラ、スザンナ、アビゲア、カエルで、大祭司は絹、青、麻、緋、細い亜麻、紫を与えた。そして、それぞれのおとめが何をすべきか、自分たちの間でくじを引いたところ、主の神殿のヴェールのための紫はマリヤのくじに当たった。

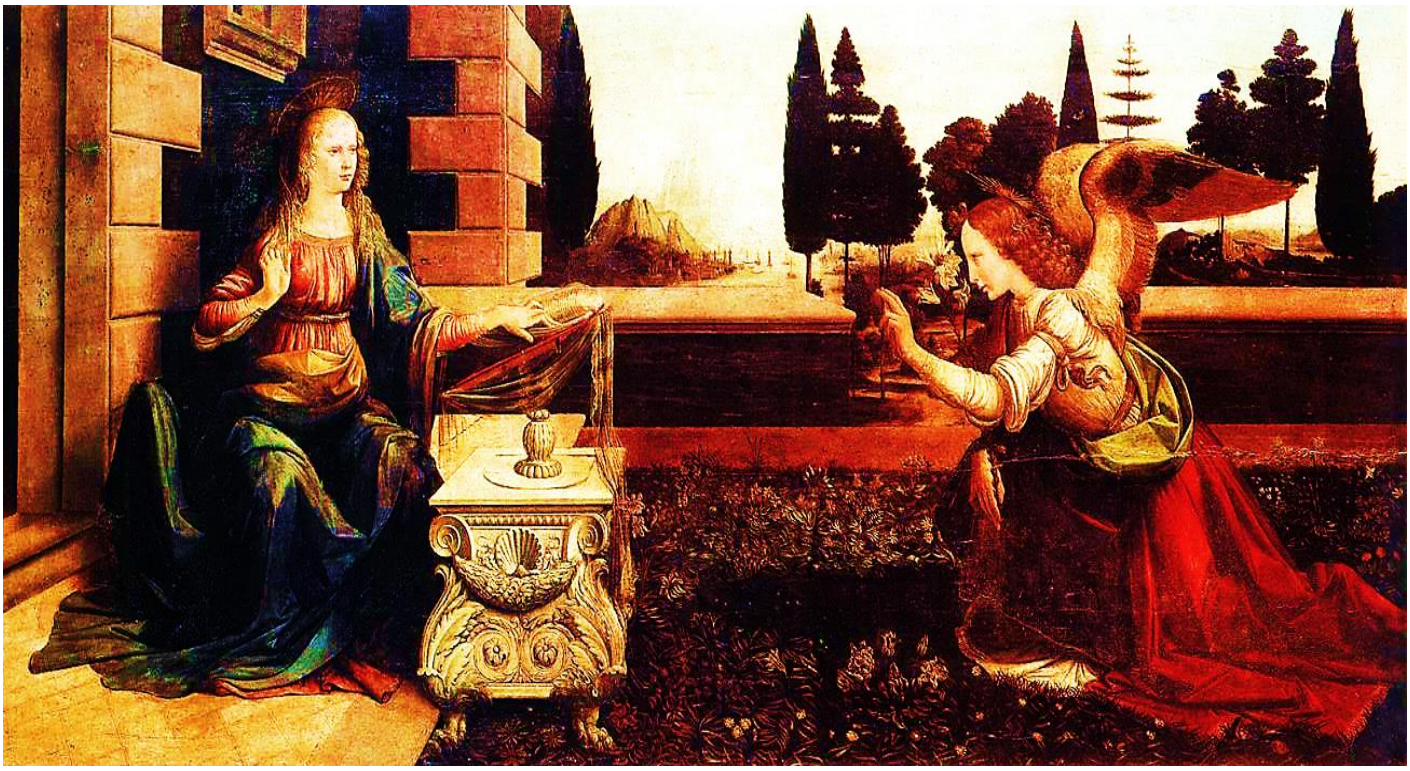
マリアがその紫を受け取ったとき
他の処女たちは彼女に言った。

"あなたはすべての人の中で 最後で謙虚な最年少の人です
あなたは最後で、謙虚で、最も若いのですから、あなたは紫を受けるにふさわしいです」。

天使ガブリエルがマリアとヨセフの前に現れる

そして2日目、マリアが庭で聖典を読んでいると、
天使ガブリエルが現れて言った。

"よろしく、マリア、主はあなたと共におられる。
女の中であなたは祝福されています。"



マリアは「あなたは誰ですか」と答えた

天使ガブリエルは答えた。

"恐れないで、マリア、私は主の天使です。

あなたは神に好意を寄せられている。

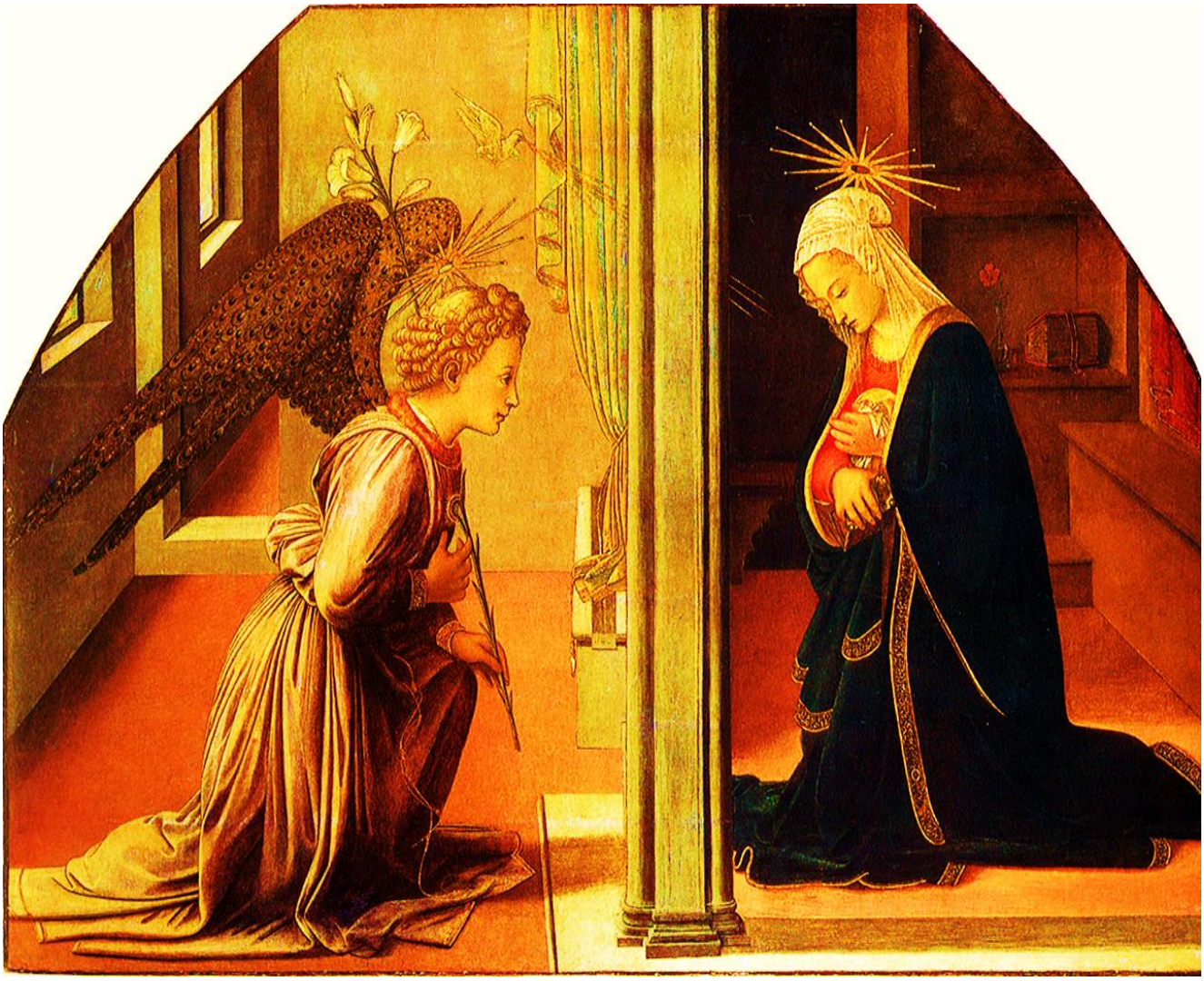
もうすぐ男の子を産みます…。

そして、その子を "イエス "と呼ぶであろう"

マリアはその言葉に大いに悩んで、こう答えた。「何？
こんなことがあるでしょうか。私は結婚していませんし、
まだ処女なのです。

天使ガブリエルは、

「聖霊があなたの上に臨みます」と答えた。



そして、いと高き者の力があなたを覆うであろう。

見よ、天からの光が来てあなたの中に宿り、

全世界を照らすであろう。

そして、あなたによって全世界を照らすのです。"

そしてマリアは、"世界の神の光の器として選ばれたことに喜びを感じています "と答えました。

これらのことが起こっている間、ヨセフは自分の仕事に専念し、海辺の地区で家を建てていた。彼は大工だったからだ。

そして、6ヶ月後に家に戻ってくると、マリアが身ごもっているのを発見した。それゆえ，非常に悩んでいた。彼は震えながら叫んで言った。

"主なる神よ 私の霊をお受け取りください" "私はもはや生きるよりも 死ぬ方がよいのです "主なる神よ、私の霊をお受け取りください。"

マリアと一緒にいたおとめたちは彼に言った。
"ヨセフ、あなたは何を言っているのですか? ヨセフ、あなたは何を言っているのですか。誰もマリアに触れていないことを私たちは知っています。私たちは、彼女がまだ処女であり、触れられていないことを証言できます。私たちは彼女を見守ってきました。彼女はいつも私たちと一緒に祈り続けています。毎日、神の天使たちが彼女に語りかけています。

毎日、主の御手から食べ物をもらっています。
この子に罪があるとは思えません。
しかし、もしあなたが望むならば、私たちが疑っていることをあなたに伝えます。主の天使以外には誰も彼女を身ごもっていません。"

するとヨセフは言った。
"どうして主の天使が彼女を妊娠させたと私に信じさせようとするのですか。誰かが主の天使のふりをして、
彼女を誘惑したのではないでしょうか」。

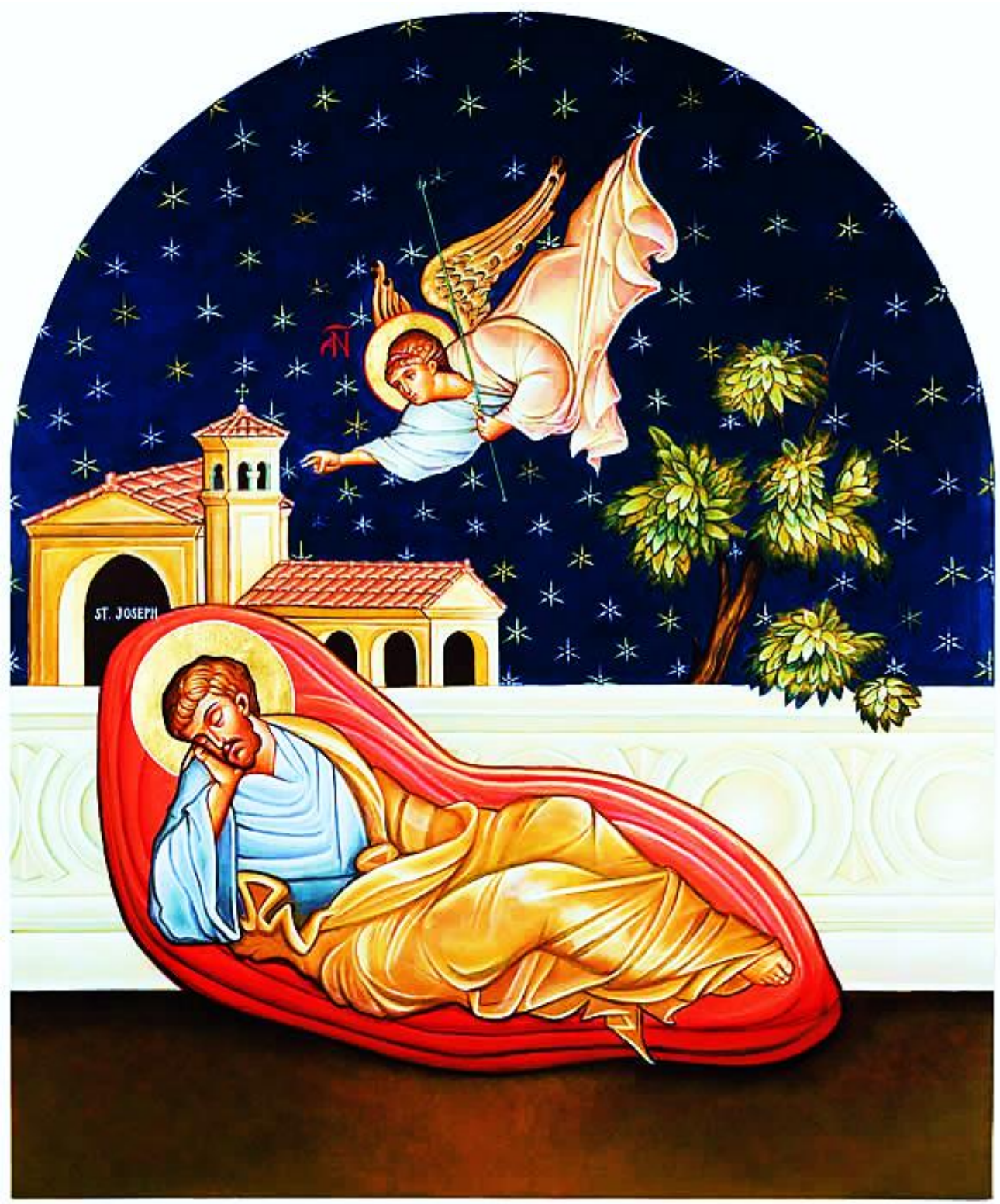
ヨセフは、マリアの純粋な心を信じていたが、天使のふりをした人に騙されたのではないかと考えた。そして、こう言って泣いて言った。

"私はどんな顔で主の宮を見ようか。どのような顔で主の神殿を見ようか、どのような顔で神の祭司たちを見ようか。
私はどうすればいいのでしょうか」。

こうしてヨセフは、マリヤが姦淫の罪で死刑に処せられないように、マリヤと一緒に逃げて、姿を消そうと考えたのである。

ヨセフが立ち上がり、身を隠してマリアと一緒にひそかに住もうと考えていると、見よ、その日の夜、天使ガブリエルが 天使ガブリエルが夢の中で彼に現れて言った。

"ダビデの子ヨセフよ、マリアを妻とすることを恐れてはならない。



彼女に宿った子は、
聖霊からのものである。
マリアはあなたに男の子を産む……あなたはその子を『イエス』と呼ぶで
あろう。"

ヨセフはマリアに慰められながら、こう言いました。

"私はあなたを疑ったことで、あなたに対して罪を犯しました"

これらのことの後、マリアが身ごもったという大きな報告があった。ヨセフは神殿の役人たちに捕らえられ、マリアとともに大祭司のもとに連れて行かれた。 祭司たちは彼を非難して言った。

"神殿で神の御使いたちから鳩のように与えられ、人間を見ることも持つことも望んだことがなく、神の律法について最も優れた知識を持っていた、これほど偉大で、これほど栄光に満ちた処女を、なぜあなたはそそのかしたのか。
もしあなたが彼女に暴力を振るわなかったならば 彼女はまだ処女のままだったでしょう」。

ヨセフはマリアに触れたことはないと誓った。

大祭司のアビアタルは彼に答えた。

"主が生きておられるように、私はあなたに「主の飲む水」を飲ませましょう。""そうすれば、あなたの罪はすぐに現れます。"

それから数え切れないほどの大勢の人々が集まり、マリアは神殿に連れて行かれた。祭司とその親族と両親は泣いて、マリアに言った。

"祭司たちにあなたの罪を告白しなさい。あなたは神の宮で鳩のようであった。天使の手から食物を受けていた。"

何年にもわたって聖母マリアを称賛し
何年も聖母マリアを敬愛し、高く評価していたのに、ある瞬間、誰もが聖母マリアを疑い、非難するようになります。
自分の両親も含めて。

そしてヨセフは祭壇に召され、「主の飲む水」を飲まされた。
そして、誰もが嘘をついてこの水を飲んだときには
祭壇の周りを7回歩いた。
神はその人の顔に何らかのしるしを示された。

そして、ヨセフが「主の飲む水」を飲み、祭壇を7回まわった後に
祭壇の周りを7回歩いても
彼には罪のしるしが現れなかった。

そこで、祭司、役人、民は皆、彼を正当化して言った。
民衆は彼を正当化して言った。

"「ヨセフよ、あなたは幸いである。
祝福されたヨセフよ、あなたには何の罪もありません」。

彼らはマリアを呼んで言った。

"あなたにはどんな言い訳がありますか? あなたの胎内にある受胎があなたを裏切ること以上に、あなたに大きなしるしがあるでしょうか。私たちがあなたに求めるのはただ一つ、ヨセフがあなたに対して純粋であるならば、あなたを誘惑した者が誰であるかを告白してください。

神の怒りがあなたに向けられるよりも、あなたの告白があなたを裏切る方がよい。神の怒りがあなたの顔に印をつけるよりも。神の怒りがあなたの顔に印をつけて人々の間に晒されるよりも、あなたの告白があなたを裏切る方が良いのです。

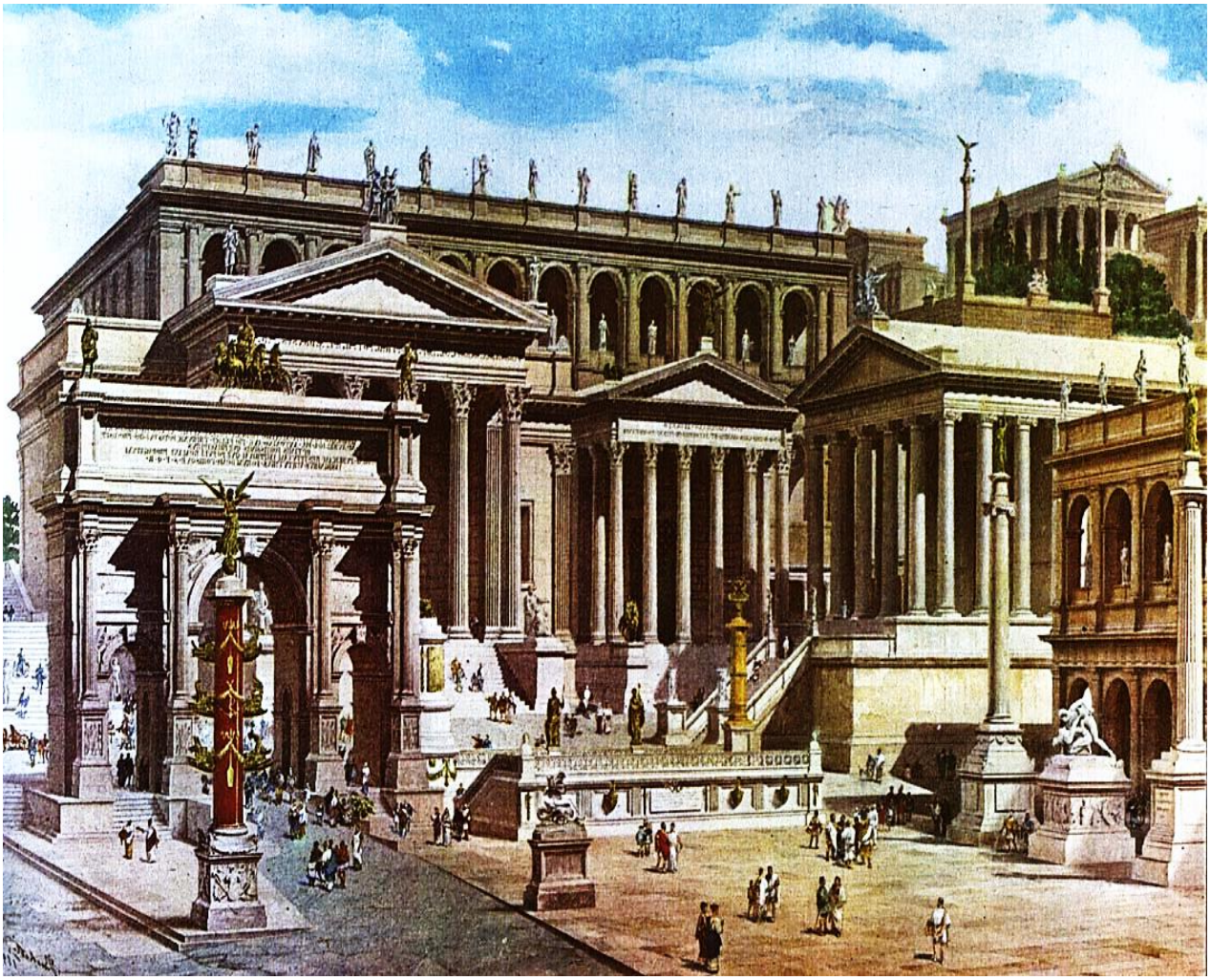
そして、マリアは震えることなく、しっかりと言った。
"主なる神よ、すべてを支配する王であり、すべての秘密をご存知です。
主なる神よ、すべての秘密を知っておられる方よ、もし私の中に何か汚れや、罪や、悪しき欲望や、貞節の欠如があるならば
私の中に何か罪があったり、悪しき欲望があったり、貞節を欠いていたりするならば、私をすべての人々の目の前にさらしてください。
私をすべての人の前にさらして、
すべての人に罰を与える見せしめにしてください」。
このように言って、彼女は大胆に主の祭壇に上がり、
「主の飲み水」を飲み、祭壇の周りを7回歩きましたが、彼女には何の汚れもありませんでした。

そして、メアリーは、自分がまだ人々に疑われていることを知りました。
疑いの目を向けられていることを知った。
みんなが聞いている前で、大きな声で言った。
"主アドナイが生きておられるように。
主アドナイが生きておられるように、私が立っている主の前に。
私は人を知らず、私の幼い頃から私が身を捧げてきた方によってのみ知られています。そして、この誓いを私は幼い頃から私の神に立てました。私を創られた方の中で、私は汚れないでいなければなりません。そして、私は神のみのために生き、神のみに仕えるために存在し、私が生きている限り、神の中で、私は処女であり続けることを信じます。"

そして、全員がマリアの足に口づけし、膝を抱きしめて、自分たちの邪悪な疑いを許してくれるように頼んだ。マリアの言葉には、大きな力が込められていたに違いない。
この言葉を聞いた人々の心は、その振動によって開かれ、照らされた。

イエス様の誕生

カエサル・アウグストゥスの宮殿から、皇帝は「ローマ帝国全体の国勢調査を行うべきだ」という命令を出した。



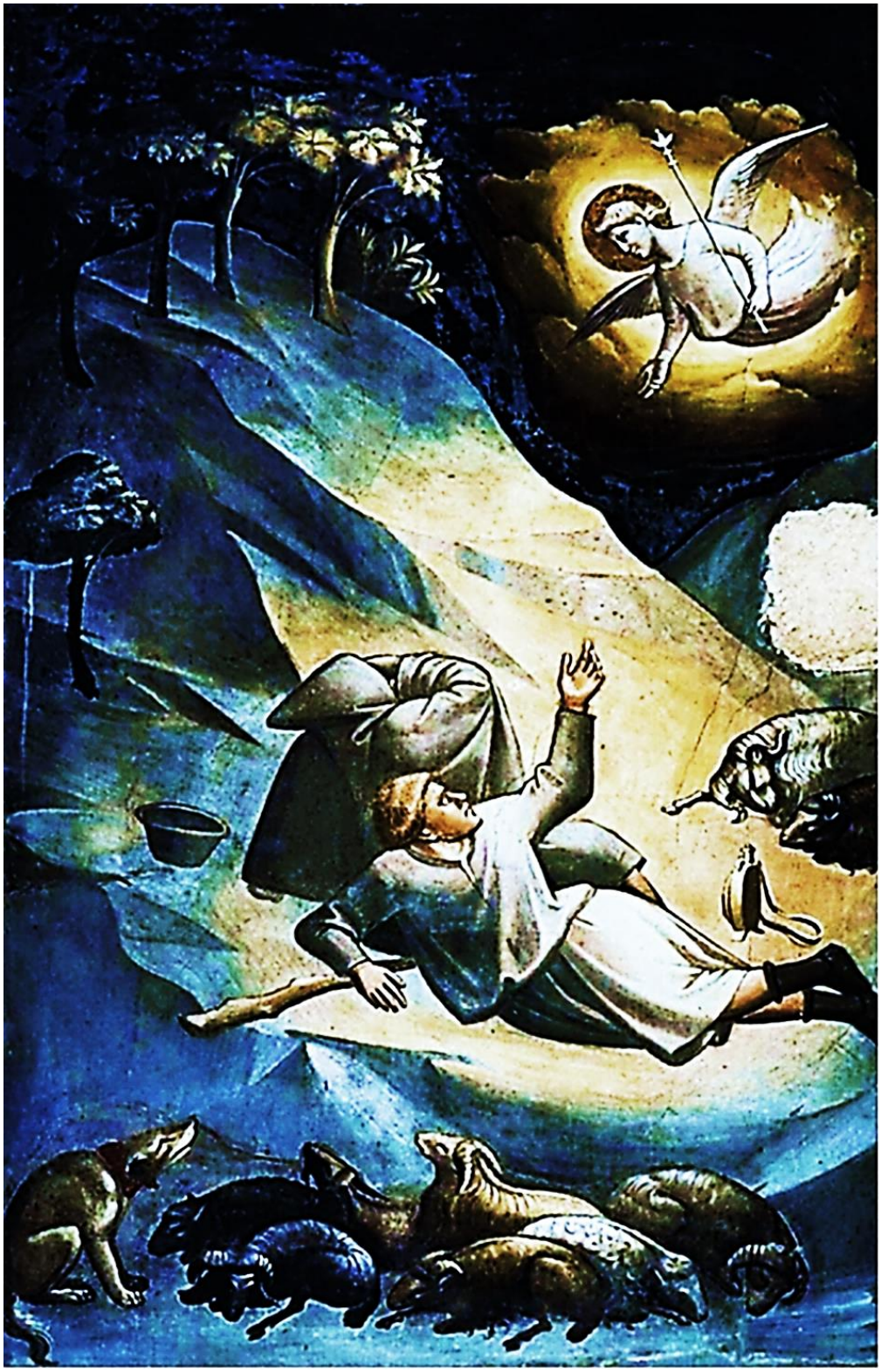
ヨセフはダビデ王家の王子であったため、ガリラヤのナザレの町からダビデ王の生誕地であるユダヤのベツレヘムまで旅をした。

ヨセフは、婚約していて子供を身ごもっているマリアを連れてベツレヘムに向かった。
そして、マリアとヨセフはベツレヘムに到着した。

彼らがベツレヘムにいる間に、赤ちゃんが生まれる時が来て、
マリアは長男を産んだ。彼女はその子を
″イエス ″。そして、マリアはイエスをリネンで包み、
飼い葉桶に入れた。

そして、天使たちはイエス様を礼拝しました。

また、近くの野原には羊飼いが住んでいて、夜になると羊の群れを見張っていた。天使ガブリエルが彼らの前に現れ、主の栄光が彼らの周りを照らしたので、彼らは恐れおののいた。



しかし、天使ガブリエルは彼らに言った。
"恐れないでください。私はあなた方に大きな喜びの知らせを伝えます。
今日、ベツレヘムの町で
今日、ベツレヘムの町で、メシアが世に生まれました。
これは、あなた方へのしるしです。
白い布に包まれて飼い葉桶に寝かされている赤ん坊を見つけるでしょう。
飼い葉桶に寝かされている赤ん坊を見つけるだろう」。
すると突然、天使ガブリエルとともに天使の大軍団が現れ、
神を賛美して歌った。
"最高の天にある神に栄光を、そして地上にある
平和と善意をすべての人に」と歌いました。

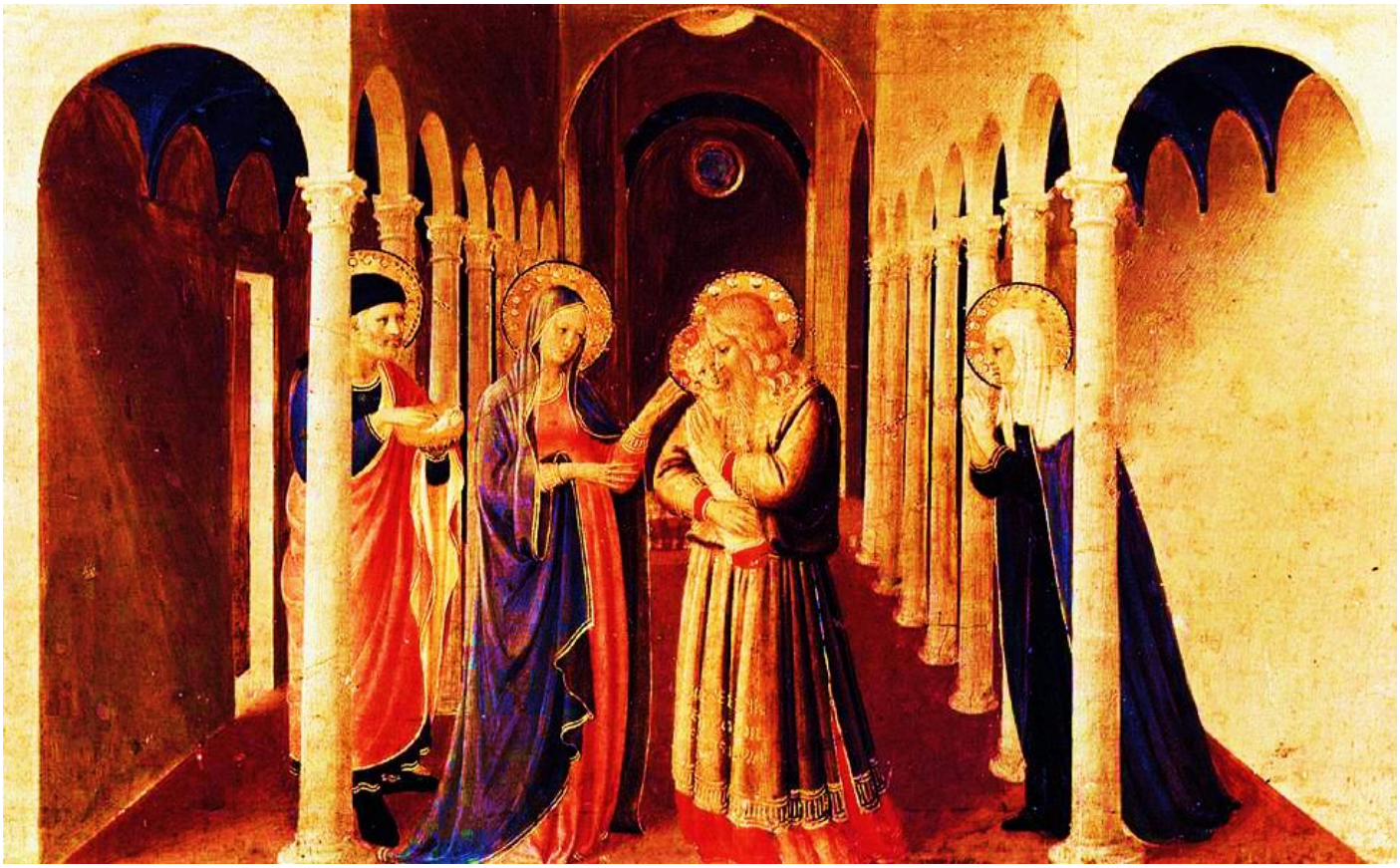
ガブリエルと他の天使たちが彼らを残して天に行ってしまったので
羊飼いたちは、お互いに言った。
"ベツレヘムに行って、何が起こったのか見てみよう"。
そこで、彼らはベツレヘムに行き、マリアとヨセフ、そして子供のイエス
を見つけました。
マリアとヨセフ、そして幼子イエスが
白い布に包まれて飼い葉桶の中に横たわっていた。

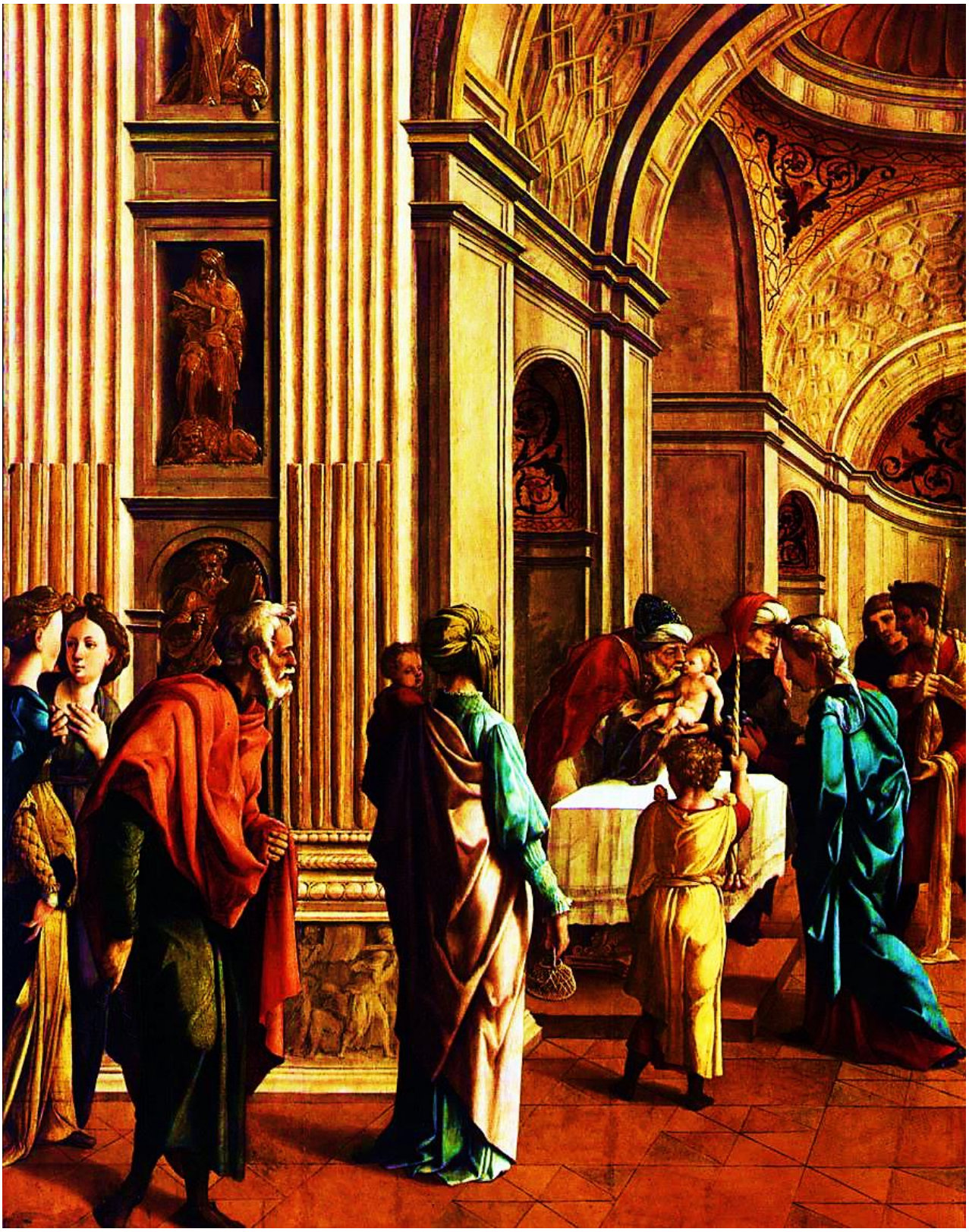
そして、羊飼いたちはイエスの顔を見つめた。

そして、イエス様を見た羊飼いたちは、この子について自分たちに語られたことを広め、それを聞いた人々は、羊飼いたちが語ったことに驚いた。羊飼いたちは、天使ガブリエルから聞かされたとおりに見聞きしたすべてのことについて、神を讃え、賛美しながら帰っていった。

そして、マリアとヨセフは神殿でイエス様を献上しました

ΗΥΠΑ
ΑΠΑΝΤΗ
ΜΗΡ ΘΥ





アリマタヤのヨセフ、神殿でのイエスのプレゼンテーションにて

アリマタヤのヨセフ

アリマタヤのヨセフは、マリアの父ヨアヒムの弟である。
エッセネ派とダビデ王家の一員であるイエスとその家族は、非常に質素な生活を送っていましたが、母親の叔父であり一族の家長であるアリマタヤのヨセフは、地球上で最も裕福で強力な人物の一人でした。
の家長であるアリマタヤのヨセフは、
地球上で最も裕福で強力な男性の一人でした。

ジョセフの莫大な富と権力の源泉は、イギリスの錫鉱山を独占していたことである。スズは、ローマ人がブロンズを作るための金属であり、これはローマの軍事機械に不可欠な金属であり、古代ローマの世界では家庭的にも軍事的にも非常に重要なものであった。ローマ軍は、この重要な金属の安定した供給がなければ、効果的に機能しなかった。

なくてはならない金属であった。

Salt
Farming
Lead
Lead
Wool
Pottery
York
Farming
Copper
Lead
Lincoln
Farming
Pottery
Farming
Worcester
Farming
Farming
Pottery
Wool
Farming
Gold
St Albans
Colchester
Iron
Cirencester
Farming
London
Bath
Canterbury
Farming
Wool
Glastonbury
Salt
Winchester
Iron
Wool
Pottery
Exeter
Tin

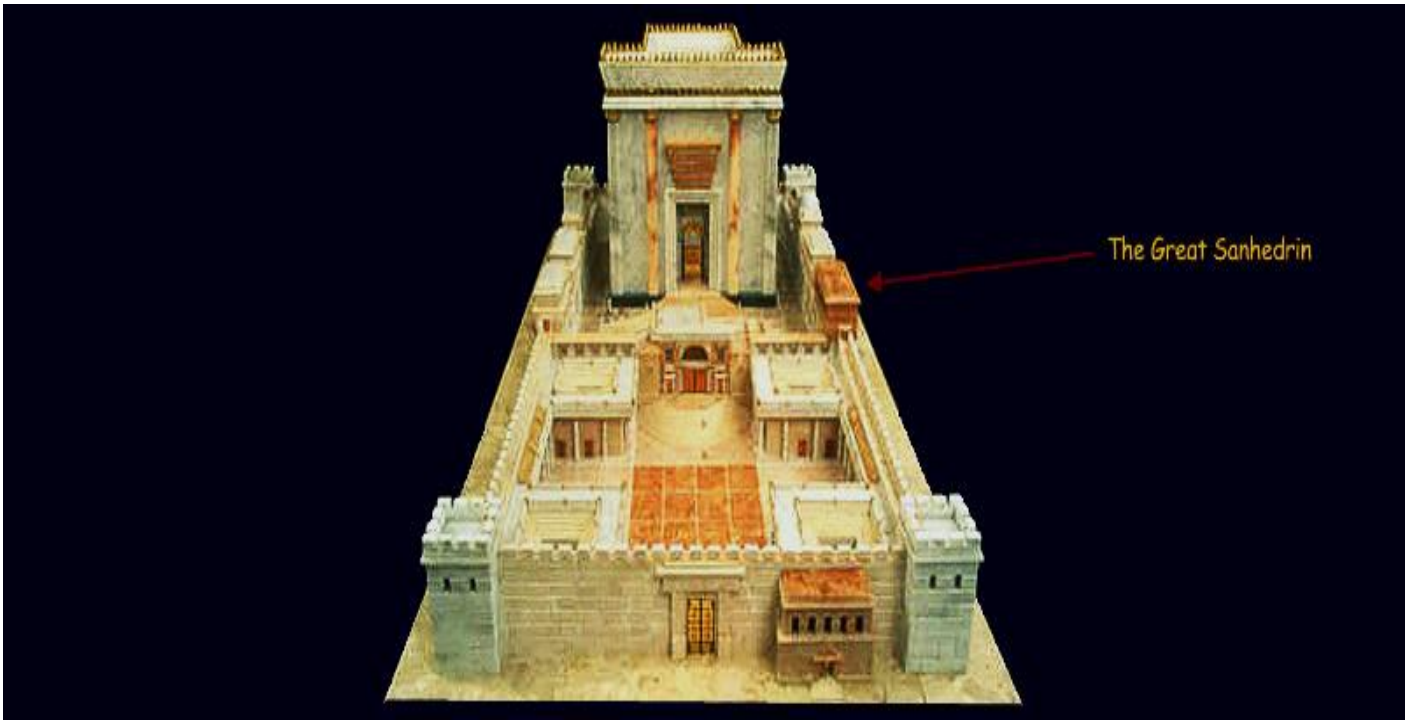
ジョセフの父親の努力と、彼自身の努力により、ジョセフはイングランド西部のコーンウォールにあるほとんどの錫鉱山の支配者として、圧倒的な地位を確立していた。 フェニキア時代から、コーンウォールは錫の大規模な鉱床がある唯一の場所として知られていた。

ジョセフが成功したのは、効率的なスズの採掘だけでなく、スズを確実に供給する能力を持っていたからである。

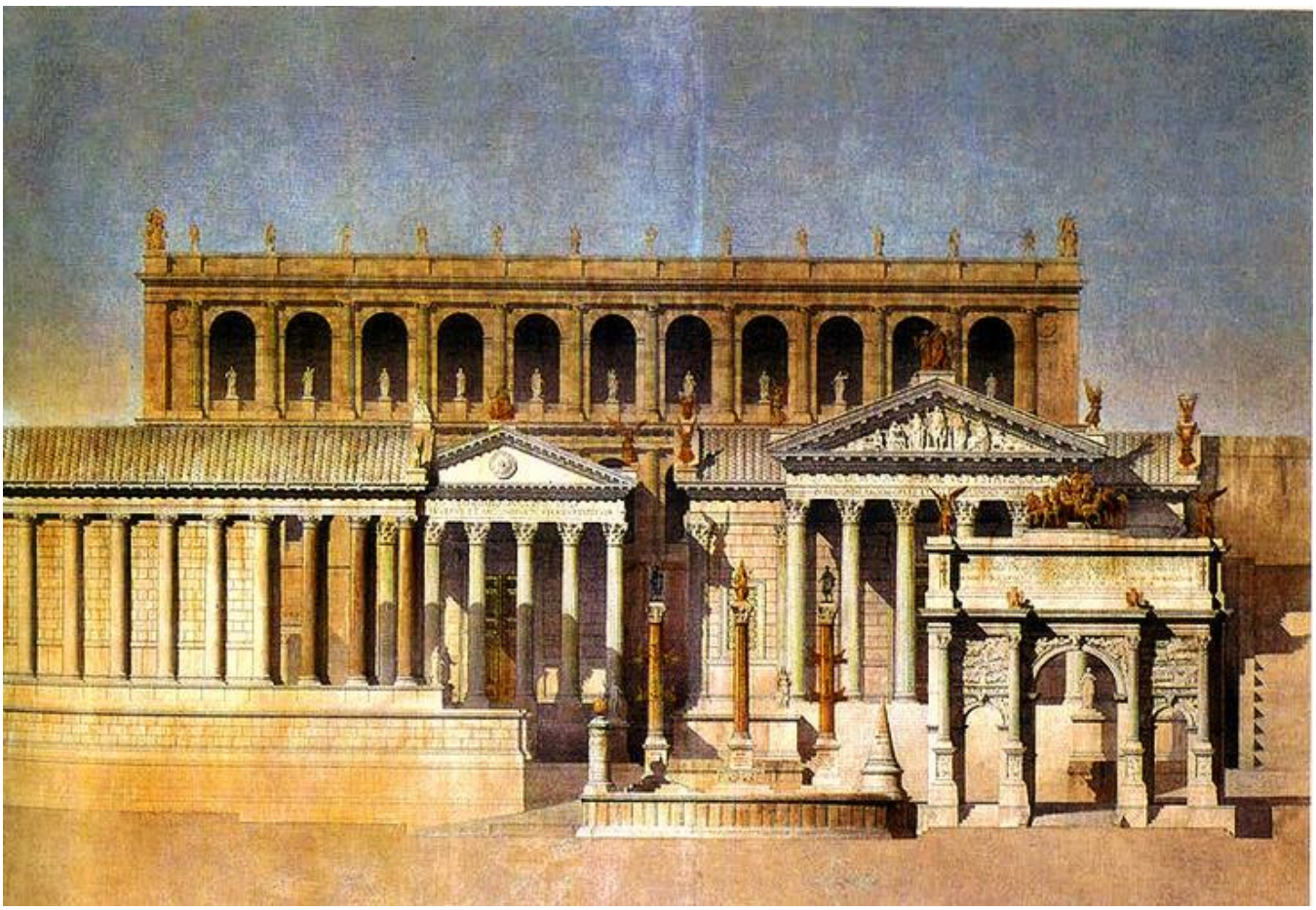
彼は、世界最大の商船隊を構築することでこれを達成した。 ジョセフの船は常にコーンウォールへの航海を続け、製錬してインゴットにした錫をローマ帝国のすべての港に届けていた。

イングランドの錫鉱山をジョセフが独占した結果、
ジョセフはローマ帝国内で金属を管理する者として「**Nobilis Decurio**」
という称号を得ました。

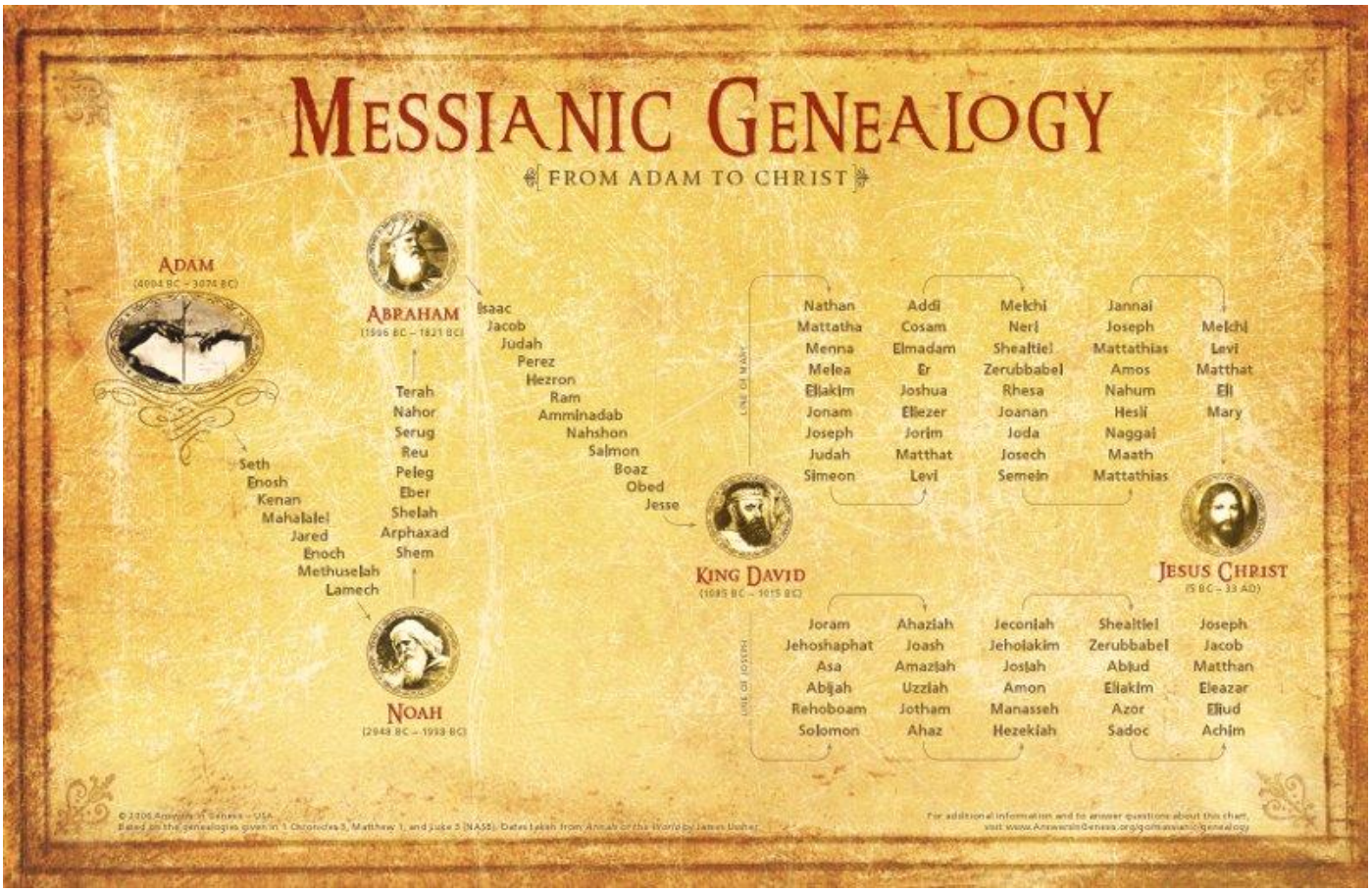
ジョセフは、錫のインゴットの供給と出荷の支配者としての地位から、商業領域をはるかに超えた影響力を持っていました。ヨセフは、ユダヤの司法評議会である大サンヘドリンの重要なメンバーとなり、ユダヤにおけるユダヤ人の権力構造の中核をなしていました。



アリマタヤのヨセフは、ローマの地方元老院の立法委員でもありました。



アリマタヤのヨセフは、甥のイエスと同様、ダビデ王家の王子であり、ダビデ家の後継者でした。
アリマタヤのヨセフは、ユダヤのヘロデ王の王位に対して、ヘロデ王自身よりも正当な権利を持っていました。



ヨセフはローマのシーザー家の友人であり、ローマ帝国の軍事機構に錫を供給する主要な人物としての地位と、ノビリス・デクリオとしての高い帝国の地位に基づいて、アリマタヤのヨセフはローマ社会で最も強力で影響力のある人物の一人として認識されており、実際、ノビリス・デクリオとしての彼のローマ帝国での地位とランクはローマの元老院議員よりも上であった。

ヨセフのノビリス・デクリオとしての地位は、ユダヤでかなりの影響力を持ち、少年時代にイギリスの大学で一緒だったポンティウス・ピラトなど、ローマ帝国の権力構造の中で貴重な人脈を持っていました。

ジョセフの莫大な財産、ポンティウス・ピラトとの親密な関係、ローマ帝国と大サンヘドリンの両方での地位、これらすべてがイエスの磔刑をめぐる出来事、特にアリマタヤのジョセフの「命を救うために死を偽装する」という計画に重要な役割を果たすことになる。

三人の王のエルサレム到着

聖書によると、エルサレムに到着した三人の王は、ヘロデ王に「ユダヤ人の王として生まれた子はどこにいるのか?
三人の王はヘロデ王に尋ねた。「ユダヤ人の王として生まれた子はどこにいるのか。私たちは東の方でその星を見たので、彼を拝みに来たのです」。

ユダヤの王ヘロデは、この質問を聞いて恐怖と疑念を抱き、王国中の先見者や祭司、律法学者を集めて、知りたいと要求しました。
"キリストの子はどこで生まれるのか？"

彼らはヘロデに答えた。「預言者エリヤによれば、その子はユダヤの地の
ベツレヘムで生まれ、成人になったら
その子は成長して、イスラエルの人々を支配するようになるでしょう」。

ヘロデ王は怒りを爆発させた。
自分の王位を脅かすものを排除しようと考え、**3**人の王に星のことを問い
詰め、そして彼らをベツレヘムに送って言った。
"行ってその子を捜し、私に知らせてくれ、
私もその子を拝みに行くように "と。

三人の王はヘロデ王の話を聞くと、ベツレヘムに向かって出発し、星を追
いかけて、その星が子供のいる場所の上に来るまで待っていた。

マリアとヨセフの家に到着すると
三人の王は、この上ない幸福と喜びで皆に迎えられ、金、乳香、没薬の贈り物をイエスに捧げた。

三人の王は、イエスを自分たちの仲間であり、古代の王族の血筋を引く高度に進化した霊的存在であると認識し、敬意を表したのです。

そして、**3**人の王 はイエスを礼拝し、神を讃えた。

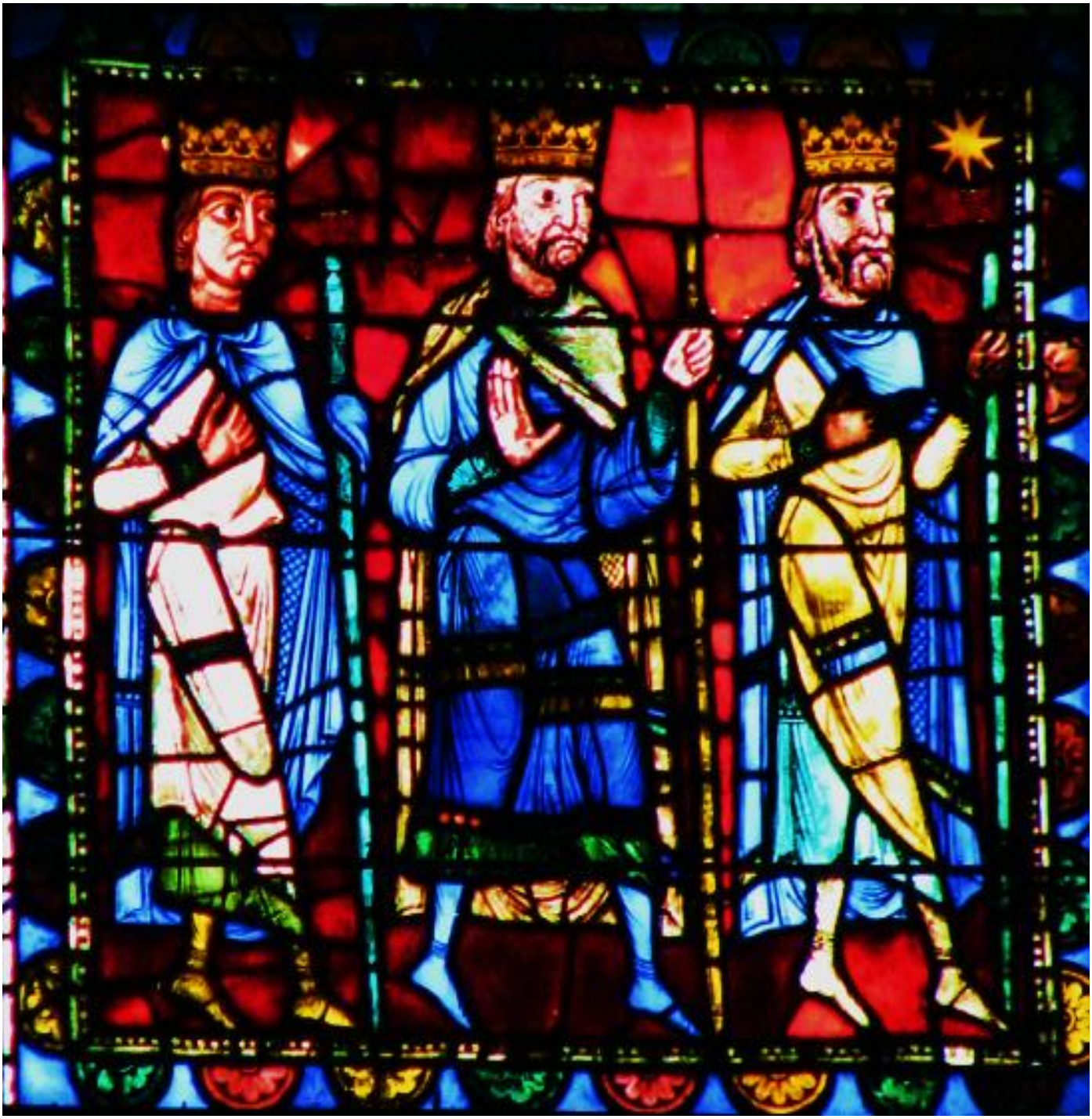
ヘロデ王は、自分が帝国ローマによって権力を握らされた操り人形に過ぎないこと、そしてイエスに代表されるダビデ王家の人々（母マリアを介してダビデ王に直接つながり、「父」ヨセフを介して直接つながっている）が、ヘロデ王である自分よりもはるかに正当なユダヤの王位継承権を持っていることをよく知っていました。

天文学者、占星術師、魔術師、賢者、先見者である東方の**3**人の王が、彼らが占星術で予言した「ダビデ王家出身のイスラエルの王」を探しに来たとき、ヘロデ王は、自分の王位を確保するために、ユダヤに住んでいて、いつか自分の王位を要求しに来るであろう「ユダヤ人の王」を確実に殺害するために、王国中の**2**歳以下の男児をすべて虐殺するという決断をしました。

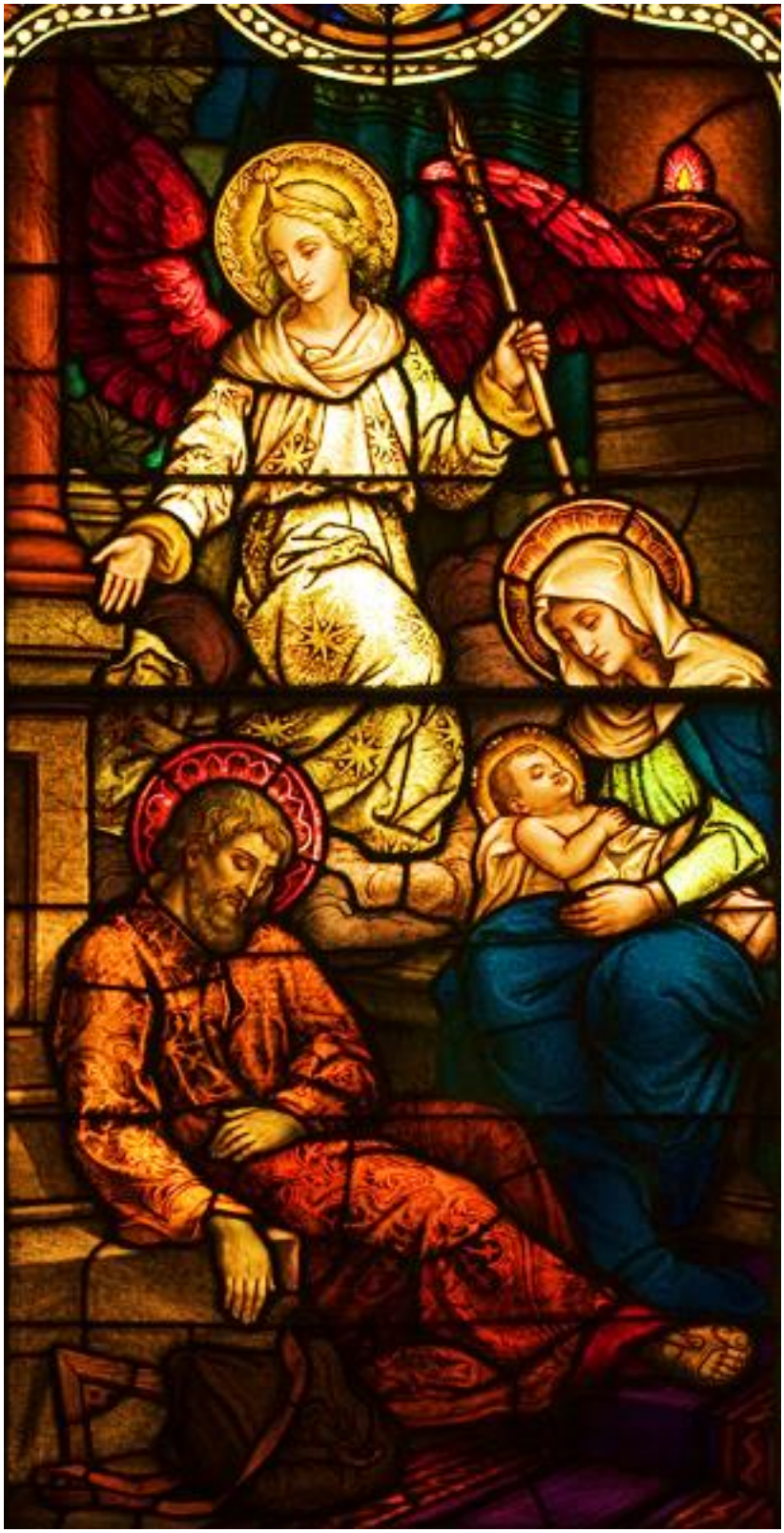
無辜の民の虐殺」は、世界史の中でも最も暗い章の一つであり、ヘロデ王がダビデ王家を根絶やしにし、イエスを含むダビデ王家の一員による王位への正当な脅威を根絶しようとした恐怖を明らかにしている。

天使が夢の中で**3**人の王に現れ、ヘロデ王が彼らと幼いイエスにとって脅威であることを警告しました。

そのため、3人の王は別のルートで帰ることにした。



そして、主の天使が夢の中でヨセフに現れて
幼子イエスに危険が迫っていることを警告した。

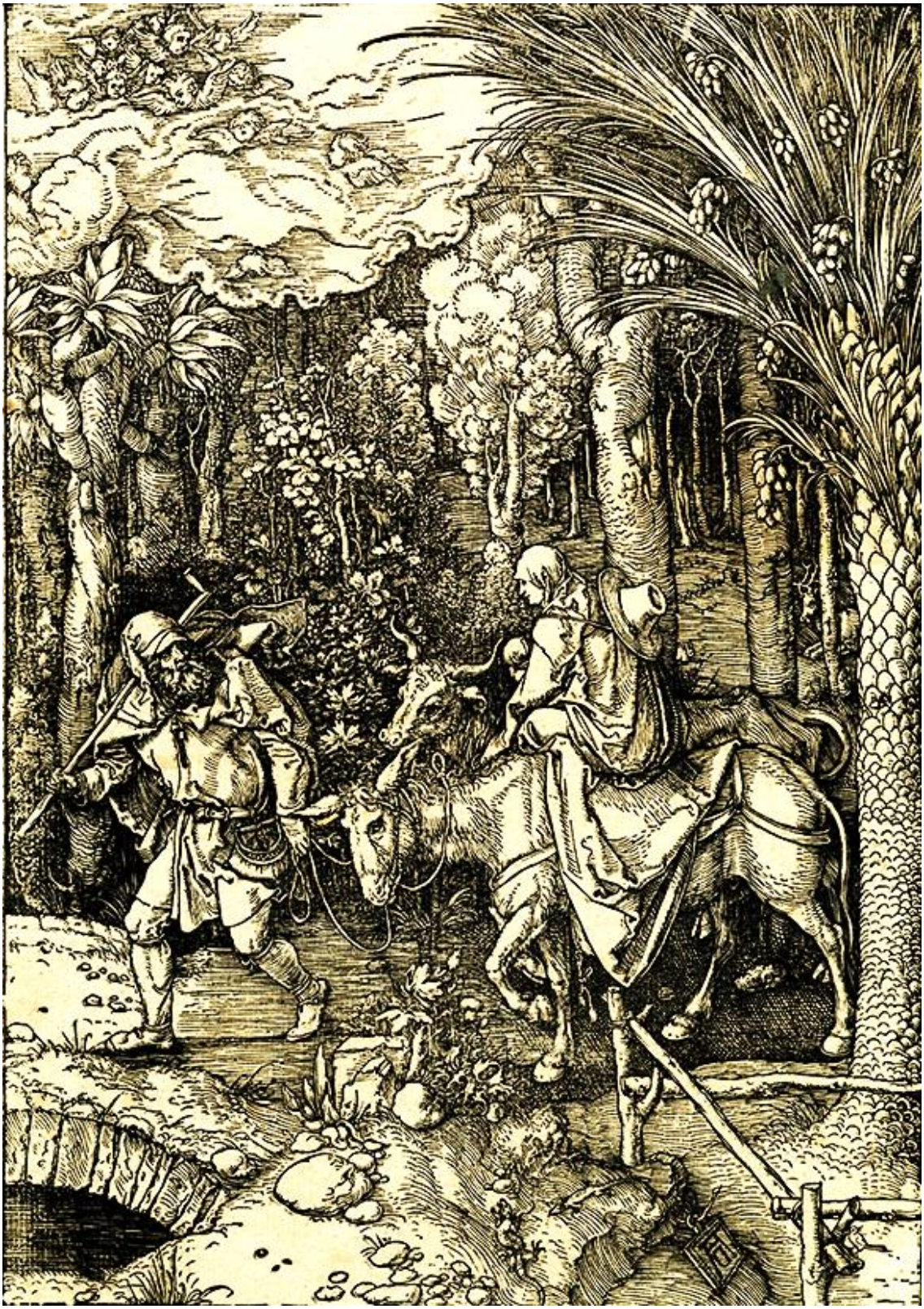


そこで、ヨセフはマリアとイエスを連れて夜
エジプトの神殿に逃げ込みました。

Η ΕΙΣ ΑΙΓΥΠΤΟΝ
ΦΥΓΗ
THE FLIGHT INTO
EGYPT

マリアとヨセフ、そしてイエス様は、エジプトのエッセネ派の集落に数年間滞在していましたが、天使が夢の中でヨセフに現れ、ヘロデ王の死を告げました。

ヨセフは、安心してマリアとイエスを連れて
ナザレの家に帰ることができました。



その後、イエスが**12**歳になるまで、聖書にはイエスについて何も書かれていない。マリアとヨセフとイエスはエルサレムの神殿にいたが、イエスは見つからなかった。

やがてヨセフとマリアは、神殿の広大なホールの一つで、教師や長老たちに混じって座っているイエスを見つけた。彼らは皆、イエスの質問とその答えに驚き、その知識と知恵の深さに驚かされた。

文字やヘブライ語のアルファベットの知識について質問されたとき、イエスはこう答えた。

"アレフからタウまでのすべての文字は、その配列によって知られている。あなたはまず、"タウ "とは何かを言いなさい。そうすれば、私はあなたに "アレフとは何か "と答えるでしょう」。

イエスは完全に沈黙してしまった。

そして、イエスは誰にでも言えるように続けた。

"ヘブライ語は、現在使われている文字で書かれていたわけではありません。元々のヘブライ語のアルファベットは、幾何学的な図形で構成された魔法のアルファベットだったのだ。"

そしてイエスは、オリジナルのヘブライ語の文字の厳密な幾何学性、すなわち多くの三角形、グラデュエート、サブアキュート、メディエート、オブラート、プロデュース、エレクトリック、プログレイト、カーヴィストラートなどを説明し、文字の幾何学性と配置、そしてその結果としての子音と母音が音を生み出す方法を説明したのです。

そしてイエスは、"音の力"、"音の使い方"、"力のある言葉"、"言葉の力"を説明し、"私たちが話す言葉はすべて創造的であり、振動するエネルギーからなる形を生み出す "と述べた。

イエスは後に、"話し言葉の力 "を、数々の "奇跡 "を起こしたときに発揮することになる。"汝、癒されたり！" "立ち上がって歩け！"
"ラザロよ、出て来い"

イエスはその後、オリジナルのヘブライ文字の幾何学的な形、その秘教的な意味を説明しました。
ヘブライ文字の幾何学的な形が生み出す音の振動と
そして、読み書きは本来、神聖な技術であり、読み書きができる者は、言葉やシンボルに隠された神秘を理解することができると説明しました。
読み書きができる者は、言葉や記号に隠された謎を理解することができると説明した。

イエスが話した後、神殿の長老たちは雷に打たれた。長老の一人が叫んだ。
"「このような子供が、どうして地上に住むことができるのか。
この子が魔法使いなのか、神なのか、どこから来てどこへ行くのか、私にはわかりませんが、神の天使がこの子を通して話していることだけはわかります。
しかし、神の天使が彼を通して話していることは知っている。"

そして、イエスの話を聞いた人々は、その理解力と知識の深さ、
知恵に驚いた。
そして、母マリアも皆と同じようにイエスに驚いていたが、この三日間、
無駄にイエスを探していたので、恐怖と悲しみと安堵が入り混じって、
まだ動揺していたので、イエスに言った。

"息子よ、なぜあなたは父と私にこんなにも悲しみと心配を与えたのでしょう。 私たちはこの3日間、あなたを探していました」。
そして、イエスは両親に敬意を払い、誠実に答えた。
"どうして私を捜しているのですか。 あなたは、私が父の仕事をしなければならないことを知らないのですか」。

そして、イエスは両親とキャラバン隊と一緒にナザレに行き、両親に従っていたが、母はこれらの言葉をすべて心に留めていたという。そして、イエスは知恵と背丈とを増し、
神と人との間で好意を持たれるようになった。

イエス、イギリスへ渡る

イエスが**13**歳くらいのとき、彼の大叔父である
大叔父のアリマタヤ・ジョセフは、イエスをイギリスに連れて行き、ドルイドやドルイド神秘主義に触れさせ、アバロン、グラストンベリー・トー、ストーンヘンジなどの聖地を訪れるよう手配しました。
アヴァロン、グラストンベリー・トー、
ストーン・ヘンジなどの聖地を訪れた。

アバロンの島

グラストンベリー・トー

ストーンヘンジ

イエス、東方への旅

イギリスからナザレに戻ったヨセフとイエスは、ヨセフがイエスに教育を受けさせるために、中東やインドにある古代の修道院や寺院で学ぶプログラムに参加させた。

これらの修道院や寺院に書かれた記録によると、イエスは「旧シルクロード」を旅して、何年もかけて古代の寺院や修道院で学び、瞑想していたという。

ペルシャ、アフガニスタン、インド、インドの古代寺院や僧院で

ペルシャ、アフガニスタン、インド、ネパール、チベット、カシミールの古代寺院や僧院で何年も勉強し、瞑想していました。

イエスは、叔父のアリマタヤのヨセフが用意した快適なキャラバンに乗って、パレスチナから北上して「旧シルクロード」に到達し、その途中でシリアのダマスカスに立ち寄り、エッセネの共同体を訪問したはずです。

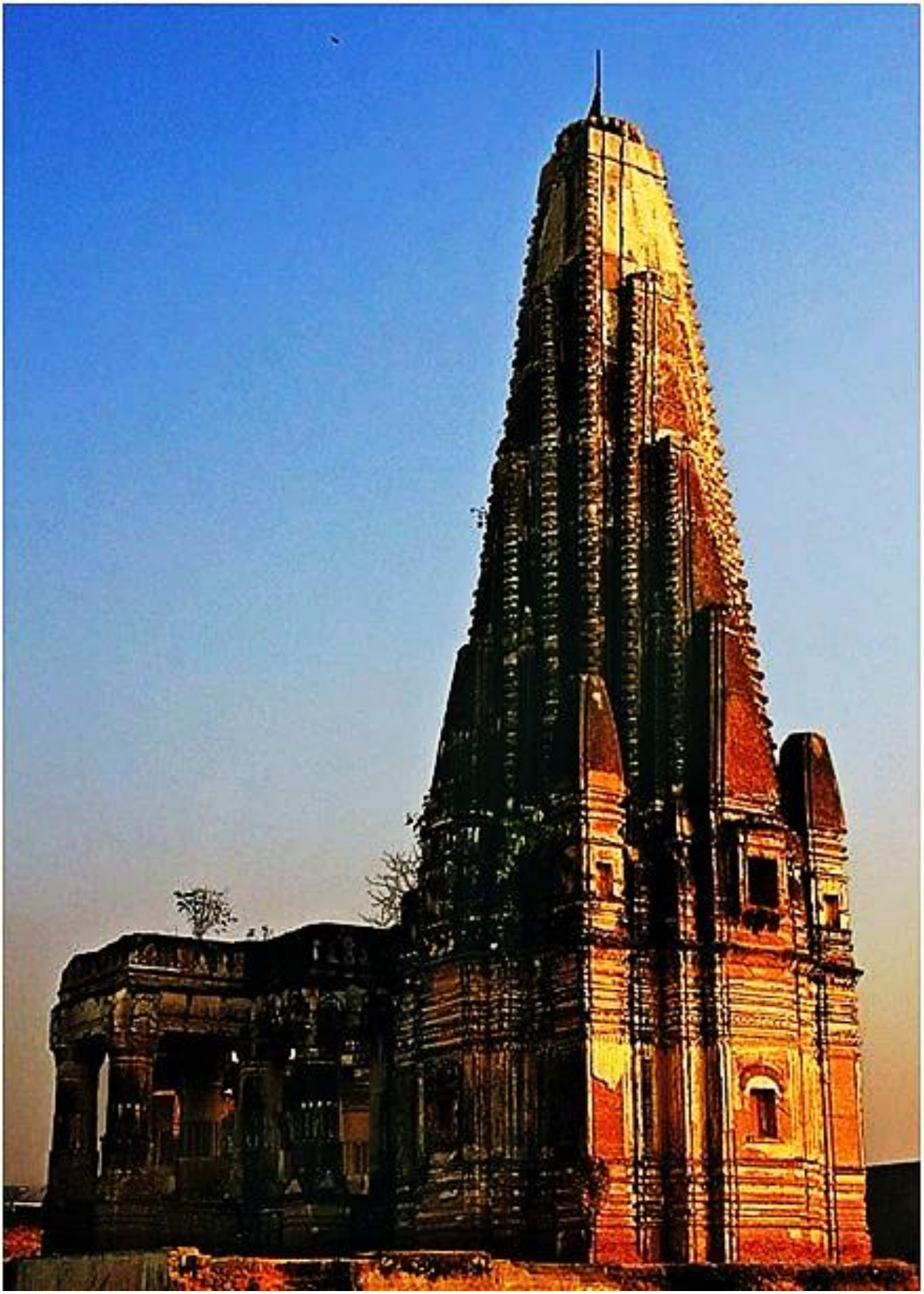
その途中でシリアのダマスカスに立ち寄り、
エッセネの共同体を訪れたことでしょう。

その後、イエスは東に移動し、バビロニアのバビロンに行きました。

バビロンからイエスは東に進み、ペルシャに入っただろう。

ペルシャからは、アフガニスタン北部のバクトリアという都市に行き
、そこでは500年前から仏教が確立されていた。
仏教が500年前に確立された場所です。

アフガニスタンからイエスは南下し、インド北西部のラジャスタン地方の
シンド州に渡り、古代の寺院を訪れたことだろう。



で、イエスは瞑想したことでしょう。
ラナクプルのジャイナ教寺院 ラージャスターン州

ラナクプルのジャイナ教寺院

ラナクプルのジャイナ教寺院

イエスは14歳までに、インドのグジャラート地方にある "聖地 "パリタナに到着していた。パリタナは、500年前に偉大な賢者マハヴィール・ジャヤンティによって始められたジャイナ教の伝統の本拠地である。
ジャイナ教の伝統は、500年前に偉大な聖者マハーヴィル・ジャヤンティによって始められました。

イエスは、グジャラート州パリタナのシャトルンジャヤ寺院で瞑想しながら、偉大なジャイナ教の師であるマハヴィール・ジャヤンティの教えを学んだ。

マハヴィール・ジャヤンティは、男女は精神的に平等であり、どちらも精神的な悟りを求める権利があると説いていました。
ジーザスはジャイナ教の僧侶のもとに滞在し、1年間ジャイナ教の伝統を学びました。

グジャラート州パリタナのシャトルンジャヤ寺院

The Great　その後、イエスは東のベナレスまで移動し、ベナレスの大寺院で瞑想したと思われる。

ベナレスの大寺院

その後、イエスは南下して、オリッサ州のプリー
オリッサ州のプリで6年間、ジャガンナート寺院で
21歳までの6年間、ジャガンナート寺院で学んだ。
21歳までの6年間、ジャガンナート寺院で学び、バラモン教の僧侶と一緒にヴェーダを習得しました。

インド・プリーのジャガンナート寺院

ヒンドゥー教は、イエスの時代に存在したローマの宗教とは異なり、多神教でも異教でもなく、一神教である。ヒンドゥー教は、何万年も前に一神教として確立されました。象の神ガネーシャや猿の神ハヌマーンなど、様々な神の姿がありますが、それは一つの至高の存在の表現に過ぎず、一つの神の実体を表しています。

ヒンドゥー教の教えは、何十万年も前に書かれたヴェーダにまで遡ることができます。 ヒンドゥー教は、**5,000**年前に生きたクリシュナや、**10,000**年前に生きたラーマよりもずっと前から存在していたのです。

プーリでは、イエスは正式に修道生活を採用し、ゴーバルダナ・マータのメンバーとしてしばらく生活しました。ゴーバルダナ・マータは、イエスが誕生する**3**世紀前に、インドで最も優れた哲学的聖者であるアディ・シャンカラチャリヤによって設立された修道院です。 ジーザスはプリで、ヨガ、哲学、離俗の統合を完成させ、最終的には永遠の知識を公に教え始めました。

教師としてのイエスは、人気があると同時に熟練しており、社会のあらゆるレベルで大きな評判を得ていた。やがてイエスは、女性やインドの下層階級の人々にヴェーダを教えることで、自分の知識や知恵を分かち合うようになった。

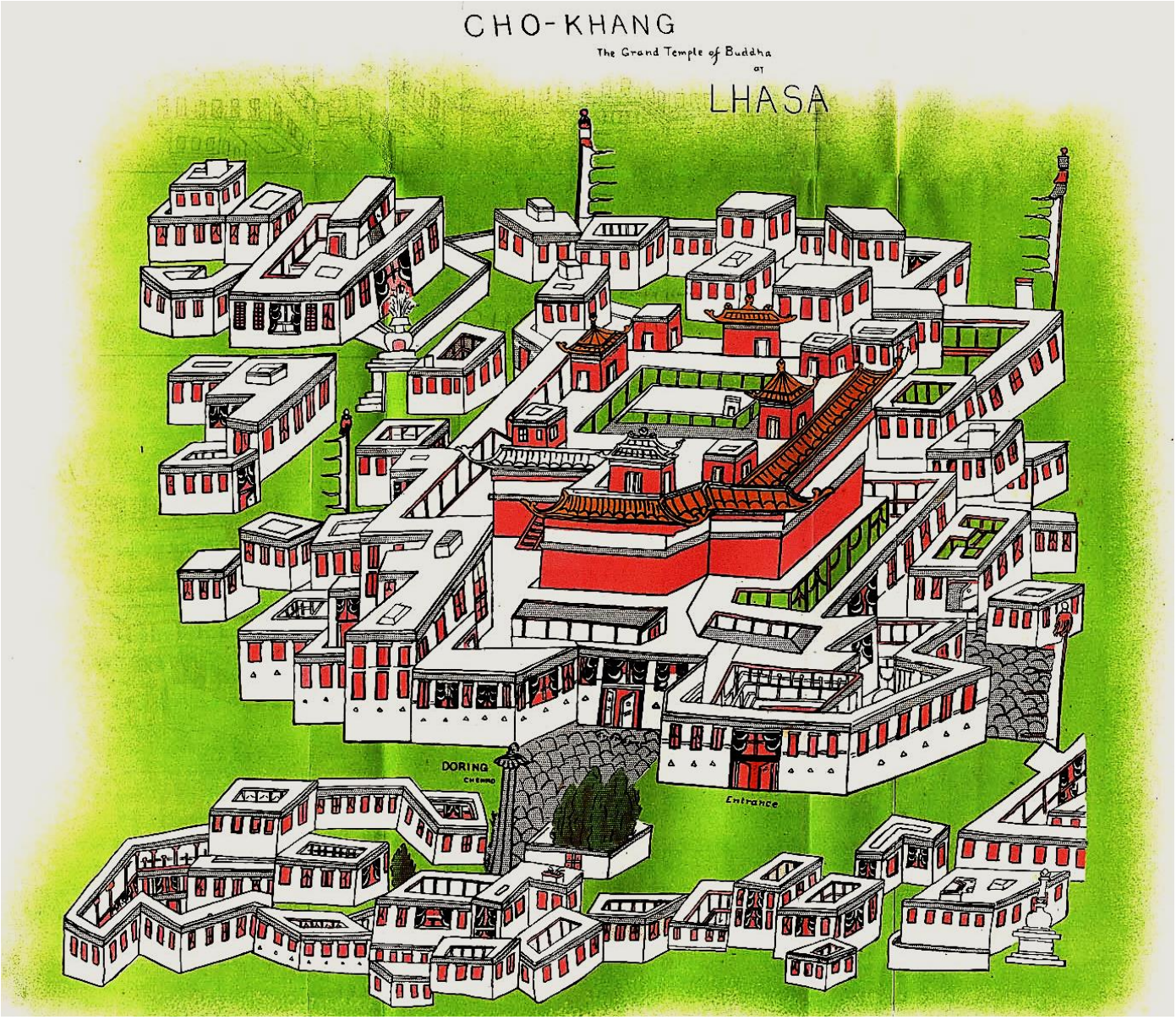
しかし、イエスは、すべての男女にヴェーダや聖典の意味を教えるべきであり、寺院で司祭が行う外部の宗教儀式を介さずに、すべての男女が精神的な完成を得ることができると主張したため、バラモン教の司祭たちの怒りを買ってしまった。

バラモン教の司祭たちがイエスのところに来て、女性は休日にしかヴェーダの言葉を聞くことができず、下層階級の「シュードラ」は書物を見ることさえ禁じられていると言った。 イエスが、これからも一人一人にヴェーダや聖典を教えていくと主張すると、バラモンたちはイエスを暗殺しようと共謀した。

危険を知らされたイエスはプリを脱出し、ネパールのカピラバストゥに向かった。ブッダが何千人もの人々に悟りを開くよう教えたヒマラヤ山脈にあるもうひとつの「聖地」である。イエスは27歳になるまで6年間滞在し、グアダミド家で学び、パーリ語とチベット語を学び、古代仏教の巻物をすべて徹底的に研究した。

クリシュナ大寺院（ネパール・パタン

カピラバストゥでの滞在後、イエスはネパールからチベットのラサに渡り
、ラサの大仏殿で東洋の大聖人である孟子に学んだ



ラサの大仏様のお寺

ジーザスはその後、ヒマラヤに沿ってラダックのレーに行き、さらにヘミスに行き、ヘミス修道院で学んだ。

ヘミス僧院で学んだ。

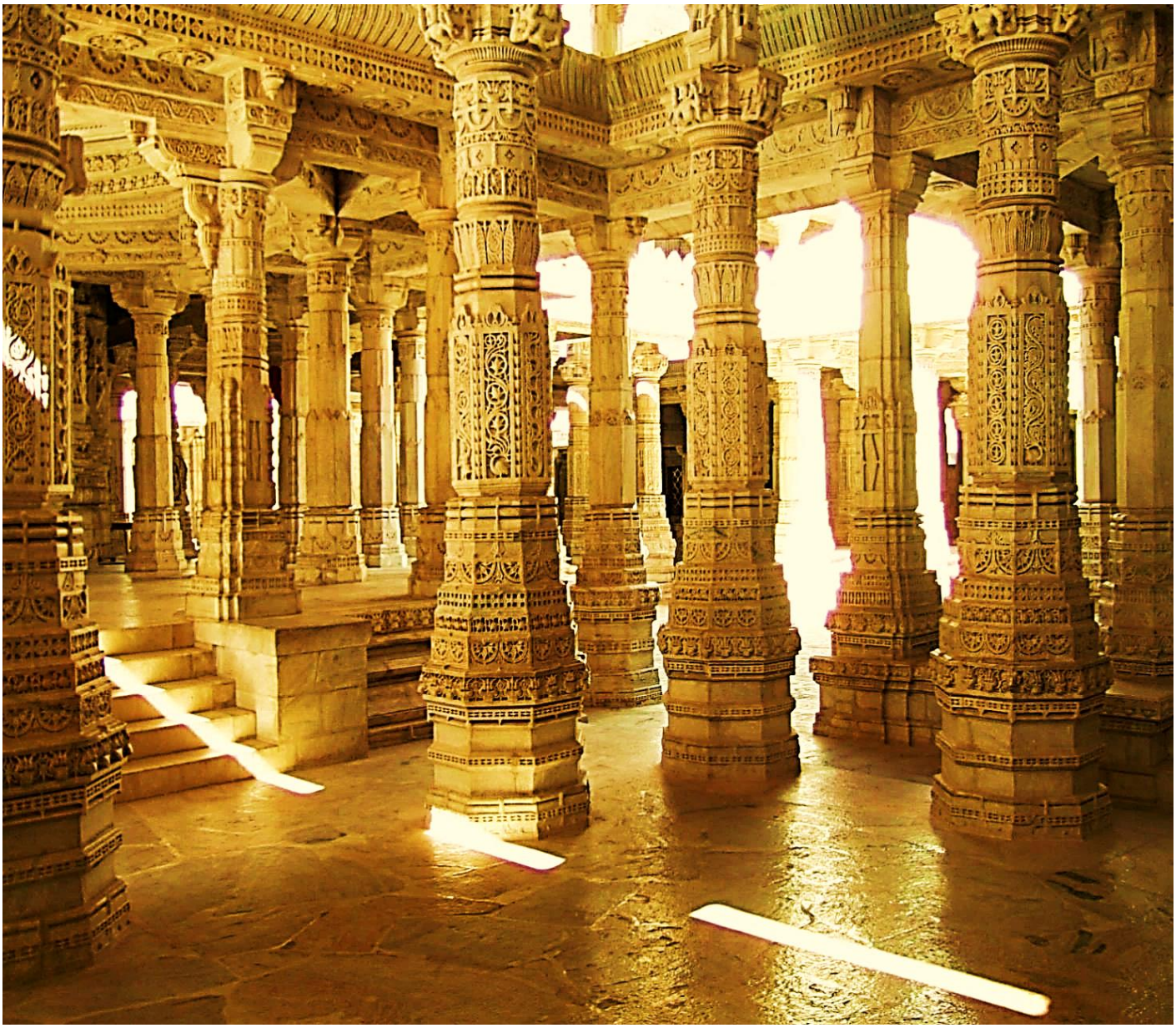
ヘミス・モナストリー

その後、イエスはインドのラジャスタン地方に戻り、

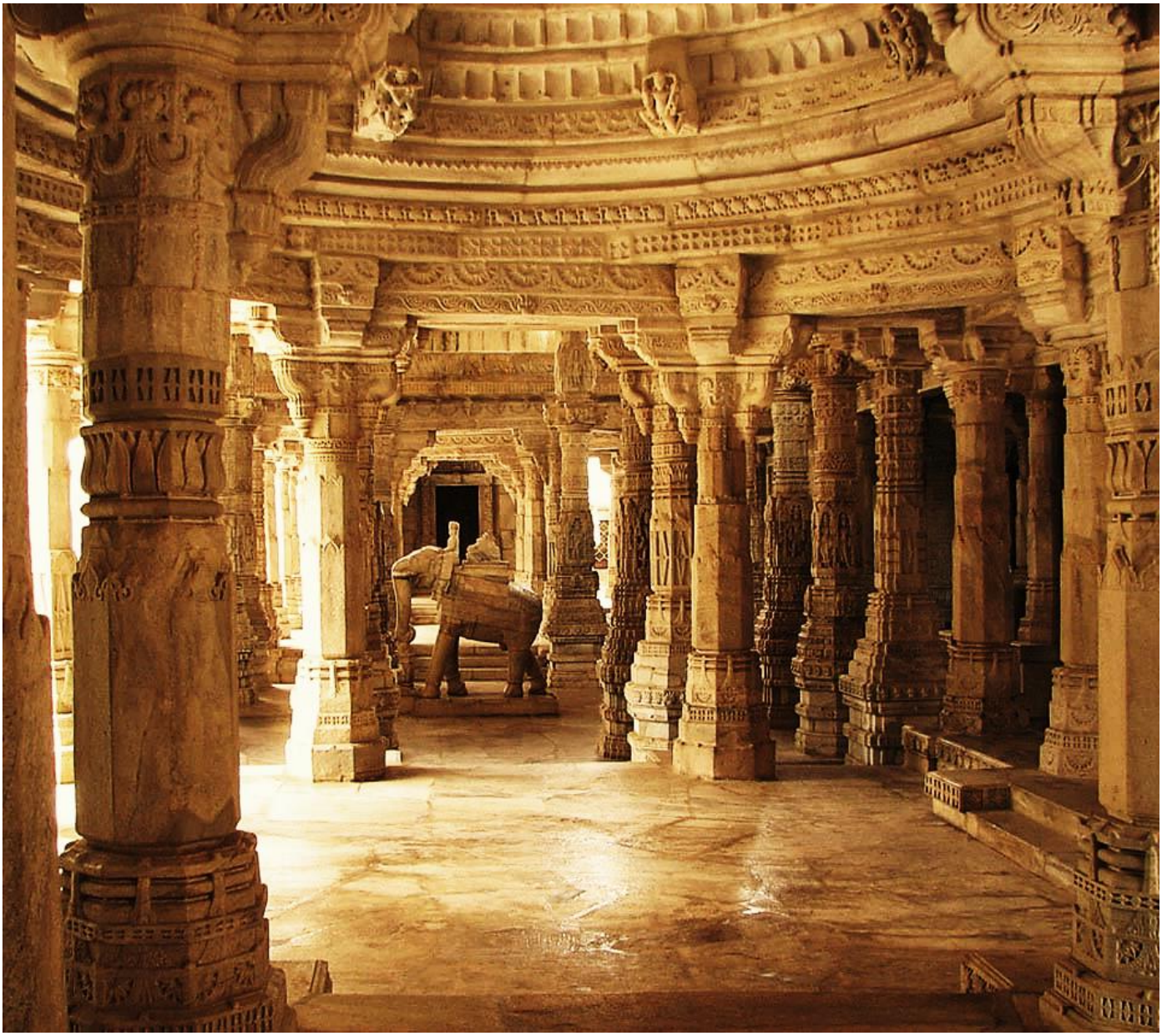
寺院で学び、瞑想をした。

ミーラ寺院（ラジャスタン州チットルガルト

その後、イエスはラナクプルに戻り、ラナクプルのジャイナ教寺院で学び、瞑想したことだろう。

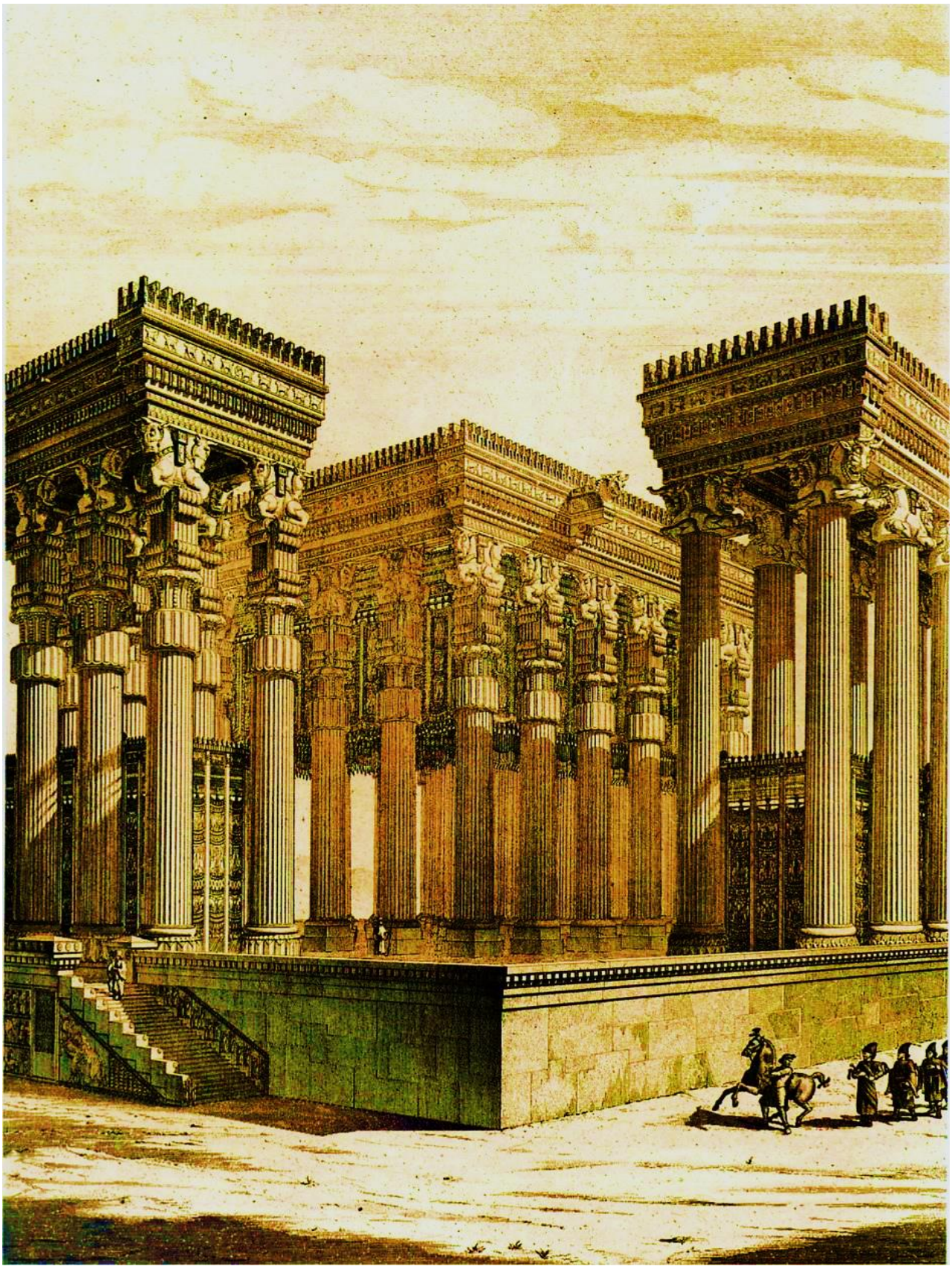


ラナクプルのジャイナ教寺院



ラナクプルのジャイナ教寺院

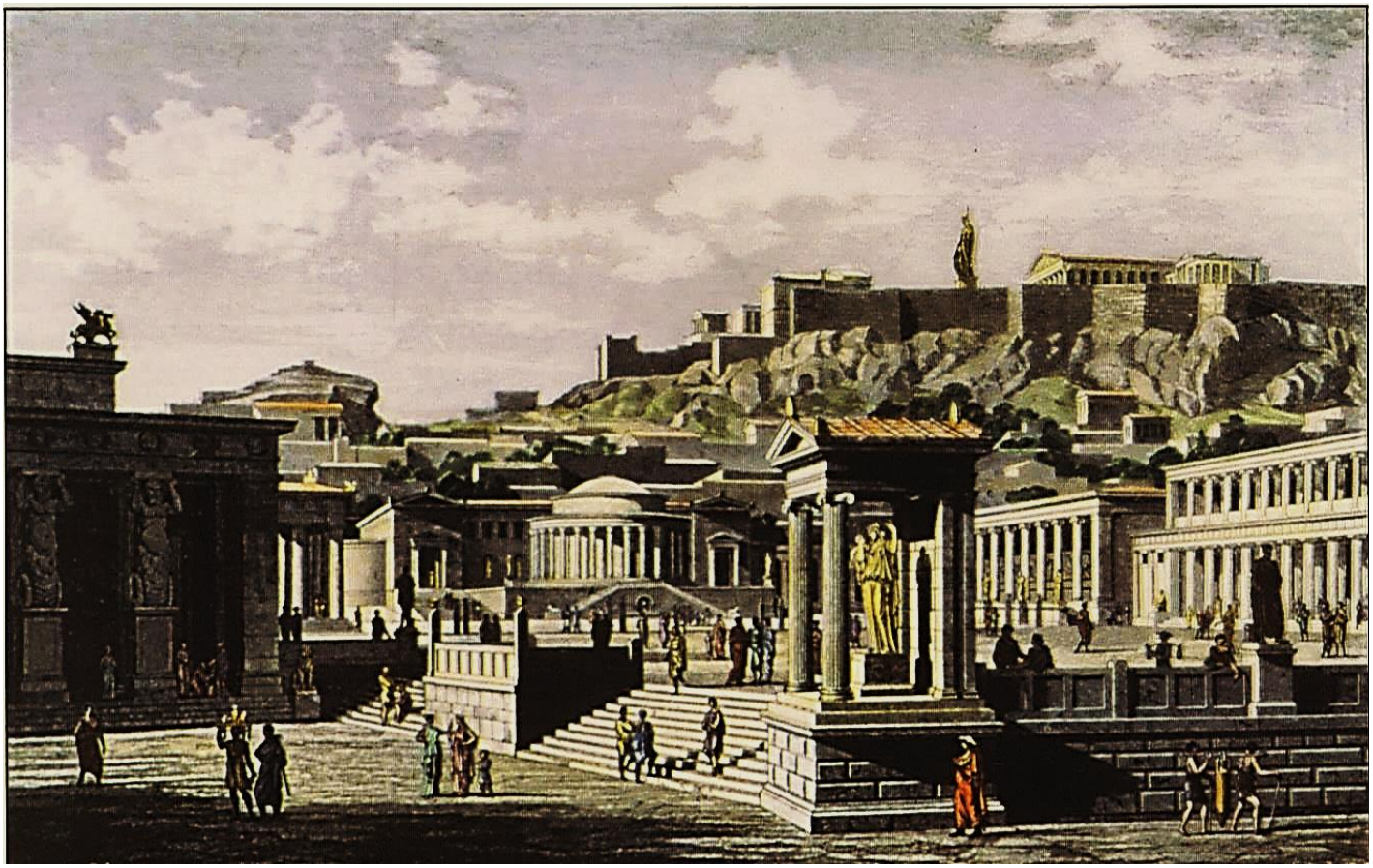
その後、イエスはペルシャのペルセポリスへと旅立ち、
500年前に始まった宗教宗派であるゾロアスター教徒のもとに28歳まで1年間滞在した。



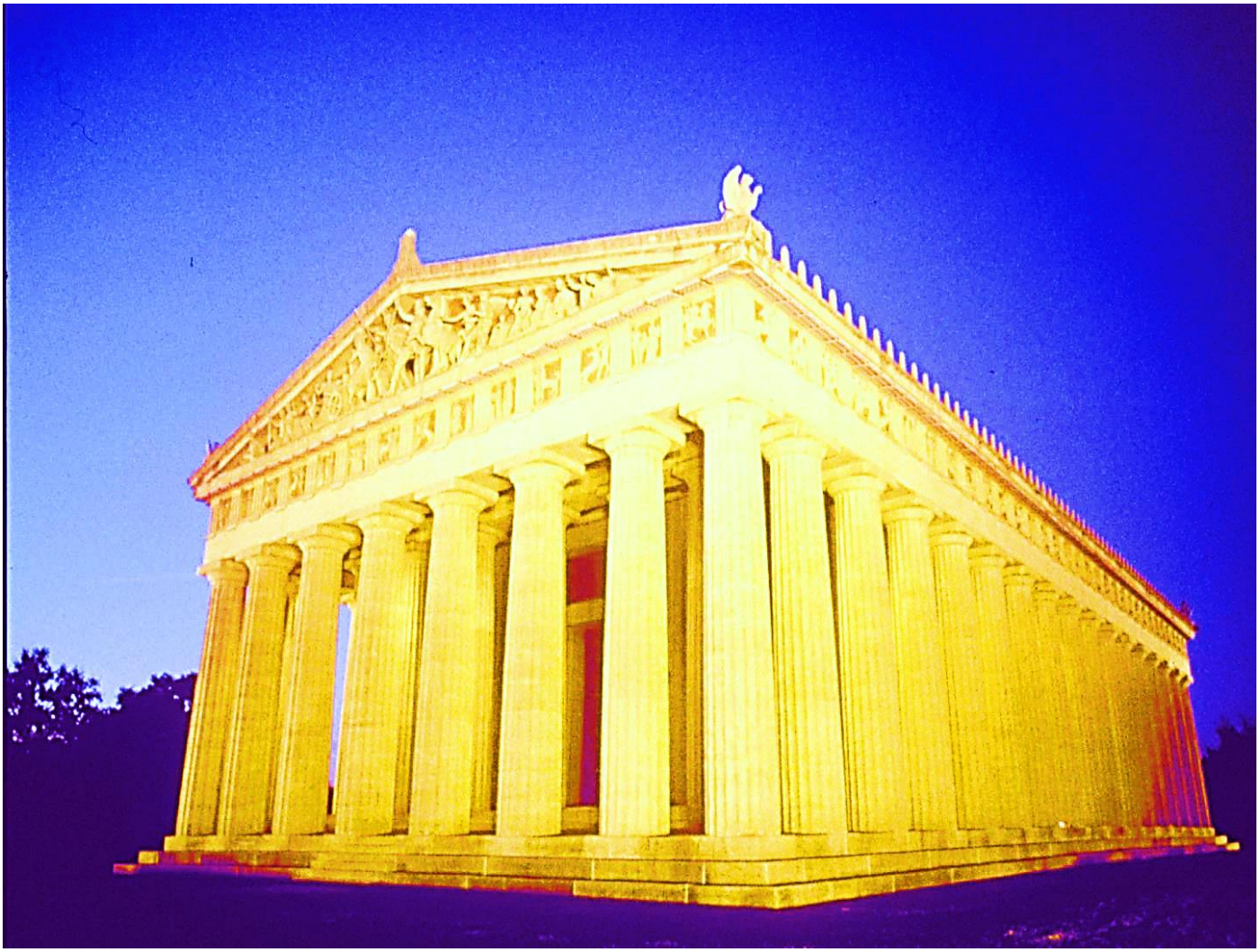
ペルセポリス - ペルシャの首都

しばらくして、イエスはゾロアスター教の神官たちを怒らせ、荒野に追放された。しかし、イエスは再び死を免れ、ギリシャのアテネに渡り、エレウジニアンの神秘やソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学、ヘルメスやピタゴラスの神秘を学びました。

ギリシャの首都、アテネ



アテナの円形神殿



パルテノン神殿

その後、イエスは**29**歳の時にイギリスのグラストンベリーに行き、ドルイドの神秘の研究を終え、アバロン、グラストンベリー・トー、ストーンヘンジの聖地に戻ってきました。

（アヴァロンの島

グラストンベリー・トー

ストーンヘンジ

ドルイド教徒とエッセネ教徒の間には、紀元前**10,500**年頃にアトランティスが海に沈んだ最後の大変動の前に、エッセネ教徒とドルイド教徒のコミュニティがアトランティスの長老たちによって前哨基地として設立されていたことから、特別なつながりと共通性がありました。

ポセイドン - アトランティスの首都

アトランティスの崩壊

エッセネ派とドルイド派は、アトランティス人から多くの秘教的な知識と知恵を受け継ぎました。その中には、エネルギー学とクリスタルの知識、そしてヒーリング、天候のコントロール、エーテルからの顕現などの能力が含まれています。

アトランティス人は、エッセネ派とドルイド派に、光とエネルギーの屈折、貯蔵、増幅、直接伝達のためのクリスタルの使用に関する幅広い知識を教えました。

クリスタルの特定のファセットに集中して強く照射された光のビームは、クリスタルの反射面から出たときに、減衰するのではなく増幅されることが知られています。

アトランティス人は、この増幅されたエネルギーを、色と音の周波数の洗練されたスペクトルに分けました。 アトランティス人は、これらの色と音の周波数のスペクトルを、

次のような特定の目的のために使用しました。

若返り

瞑想

コミュニケーション

教育

意思表示

トランスフォーメーション

交通

パワージェネレーションと

振動の加速

アトランティスの「シード・クリスタル」は、エネルギー的な変容のために使用されました。

エネルギー的な変容のために使用されました。

希少な「スパイラル・プリズム」（6インチ×1インチの直径）は強力なアトランティスのシードクリスタルです。

高い周波数のエネルギーを変換するために使用されます。

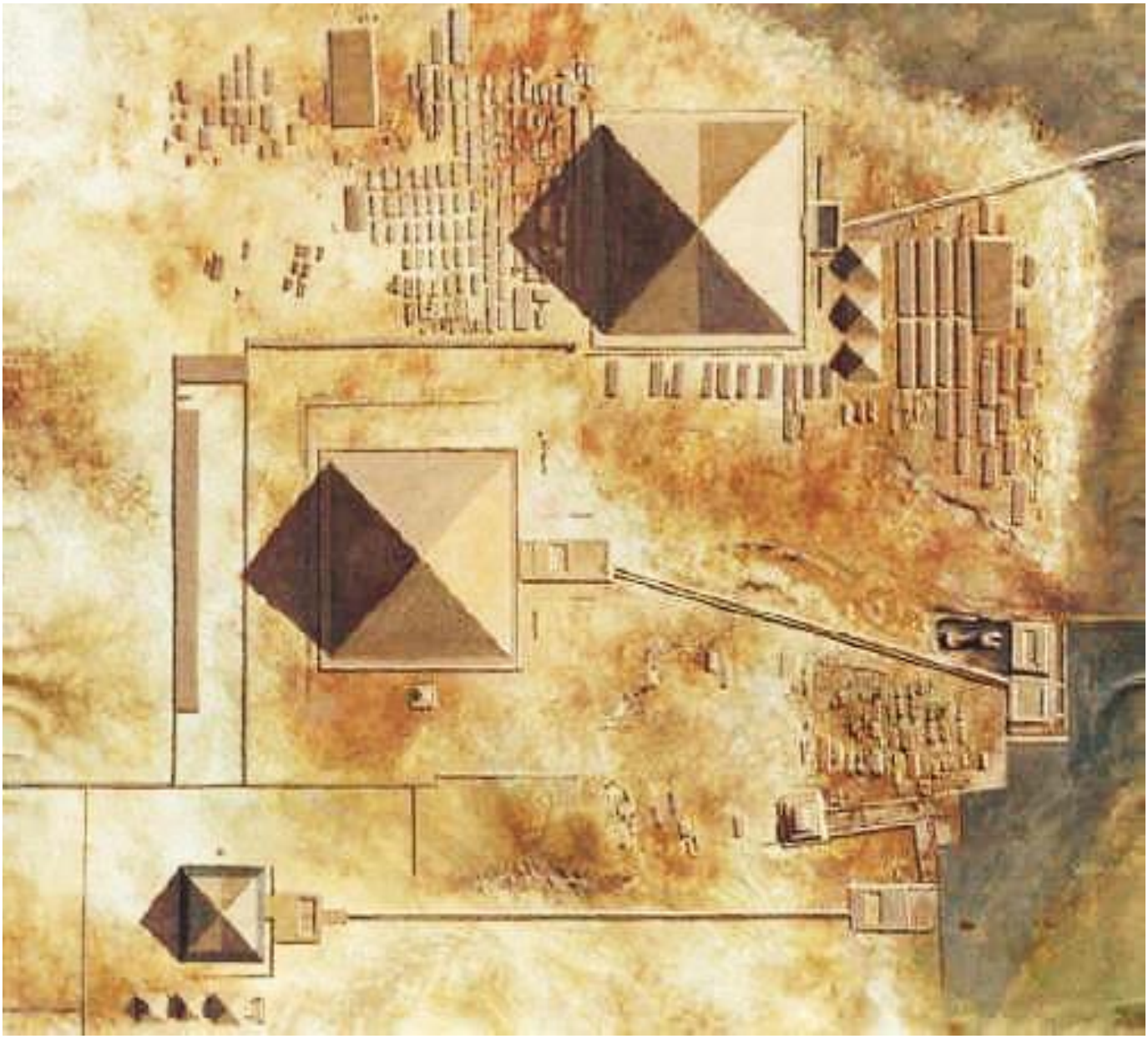
アトランティスの種水晶-スパイラルプリズム

アトランティス人は、クリスタルには光やエネルギーを受け取り、維持し、増幅し、伝達する能力があると教えていました。

太陽、月、星、地球、そして互いの力を借りている。

オリオンの帯

紀元前1万500年の大異変に先立ち、アトランティス人は
ギザ台地に3つのピラミッドを建設しました。
アトランティス人はギザ台地に3つのピラミッドを建設しました。
アトランティス人は、以下のような方法でピラミッドを建設しました。
″光と音」を使ってピラミッドを建設しました。



3つのピラミッド

大変動の後
アトランティス人は異次元への入り口として ストーンヘンジを建設した。

ストーンヘンジ

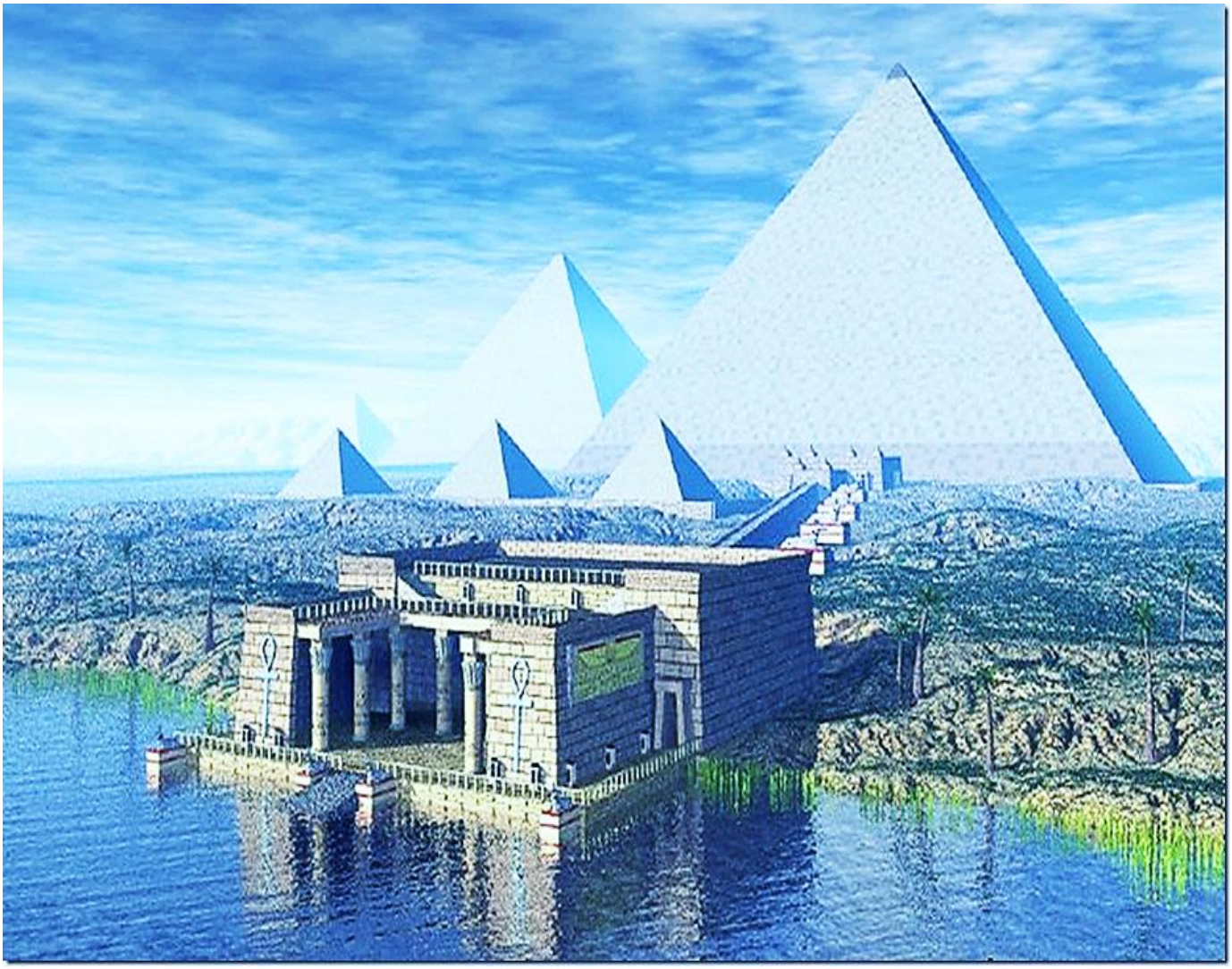
イエスはエジプトへ

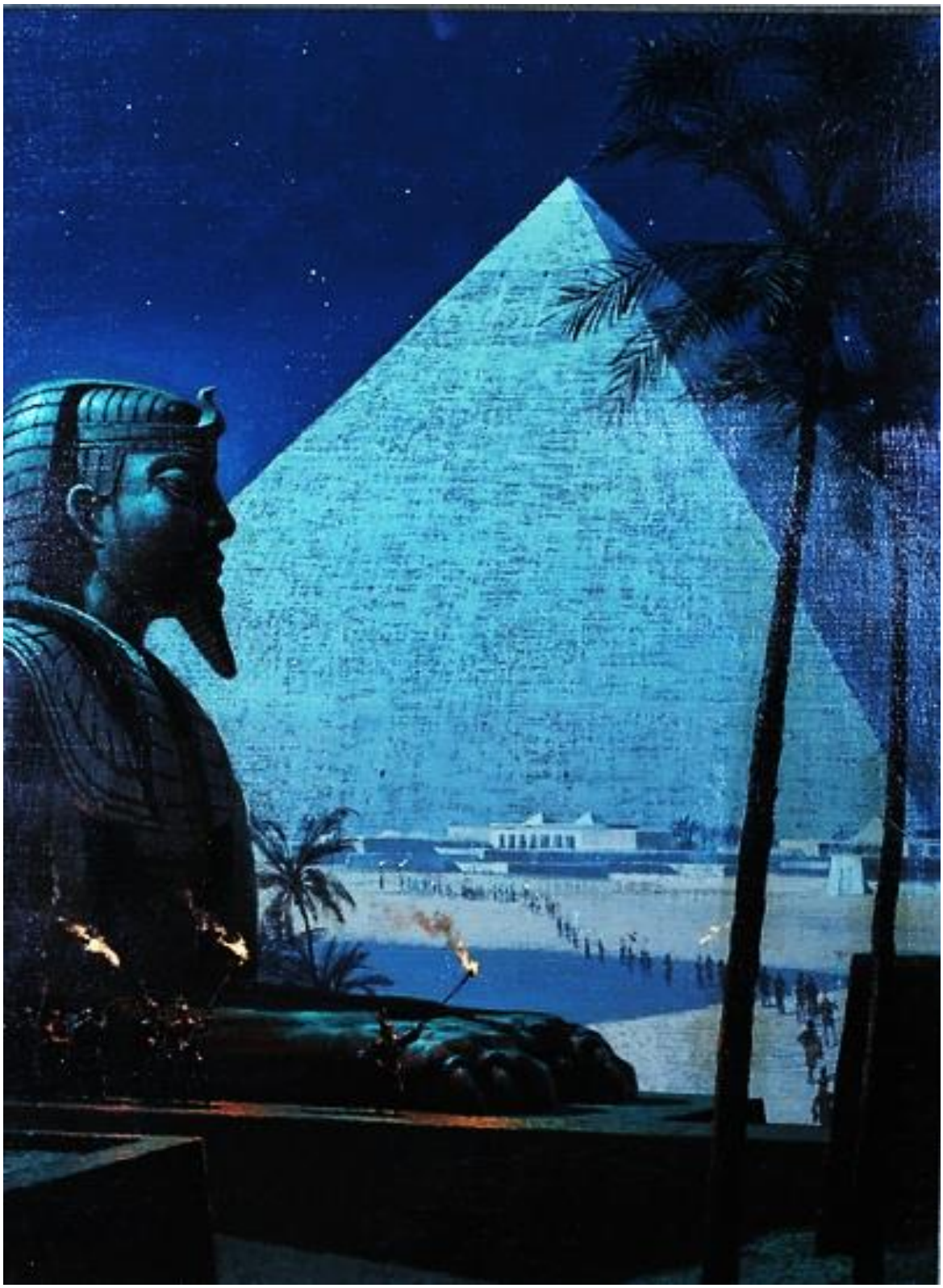
アヴァロン、グラストンベリー・トー、ストーンヘンジを訪れ、ドルイドの研究を習得した後、イエスは30歳くらいの時に、イギリスから英仏海峡を渡り、ヨーロッパ大陸、地中海を越えてエジプトのアレキサンドリアへと旅立ちました。

カルナックの円柱の間

エジプト、ペルシャ、インド、ネパール、チベットの古代寺院や僧院、ギリシャの古代寺院や聖地、イギリスのアバロンやグラストンベリー・トーなどの古代の木立や聖地で**25**年間の禁欲的な修行の後
そして、波動を高め、光とエネルギーを受け取り、維持し、伝達する能力を高めたのです。
エジプトに到着したイエスは、ギザの大ピラミッドの王の間で最後のイニシエーションを受ける準備をしました。

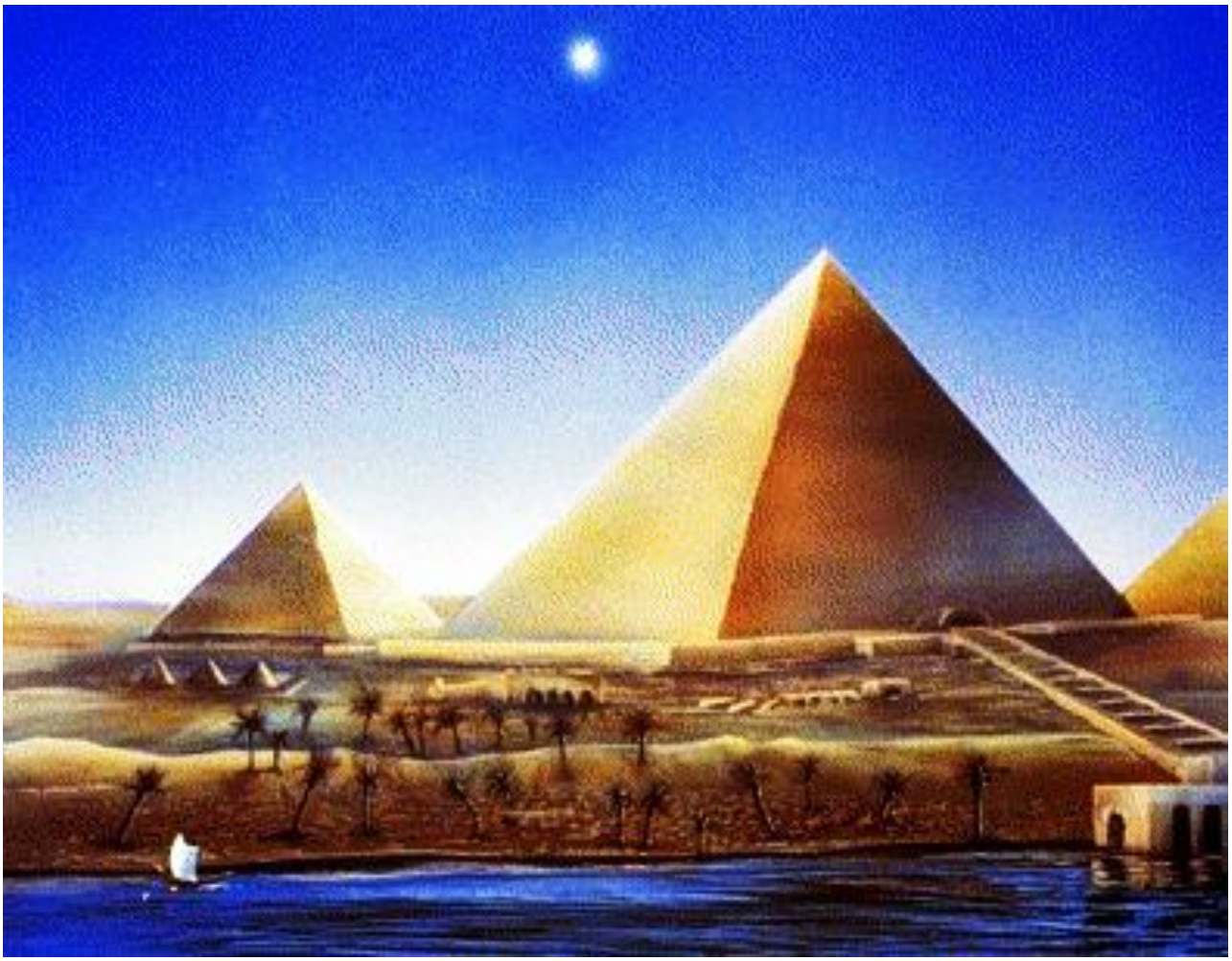
その頃、ギザ台地の**3**つのピラミッドは、磨かれた白い石灰岩で覆われ、
巨大な透明な石英のピラミッドで覆われていた。





Tクリスタル・キャップストーン・ピラミッド」は、光とエネルギーの巨大な受信機、コンデンサー、増幅器、送信機でした。

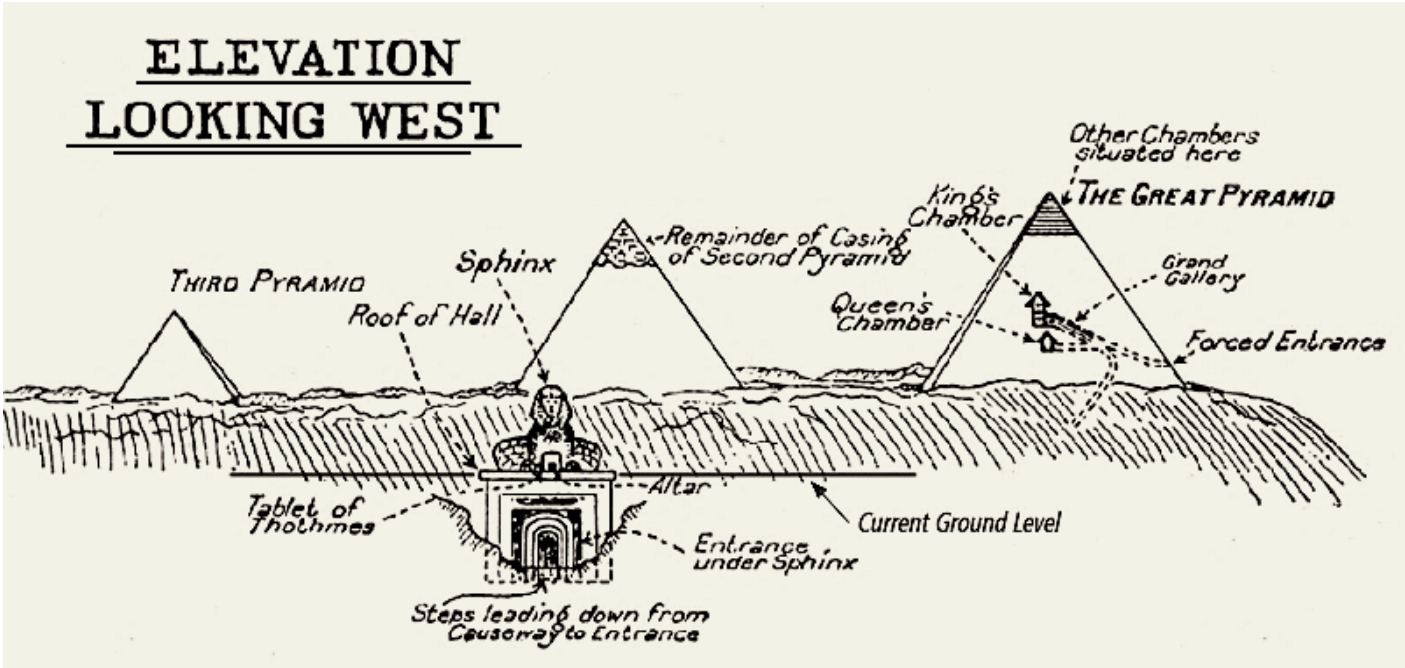
アコライトの最後のイニシエーションは、
常に満月の夜に予定されていた。

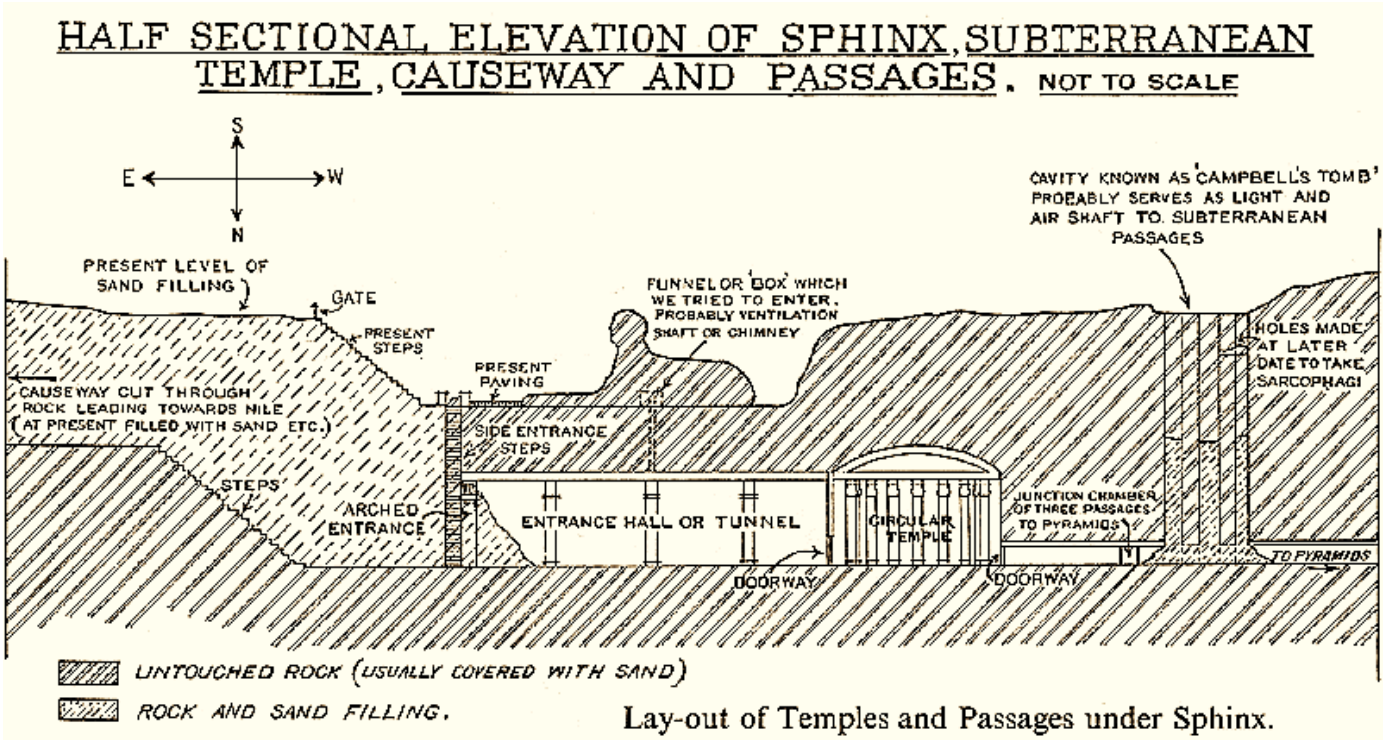


満月の光が3つのピラミッドの磨かれた白い石灰岩に反射し、コバルト色の空には星が明るく瞬き、砂漠を吹き抜ける穏やかな風が、まさにこの世のものとは思えない輝きと雰囲気を醸し出していたギザ台地を、誰もが想像できるでしょう。
その輝きと雰囲気はまさに別世界のようでした。！

当時、大ピラミッドへの入り口は、スフィンクスの前足の間にある**2**つの巨大な扉からでした。
大スフィンクスの前足の間にある**2**つの巨大な扉から入っていました。

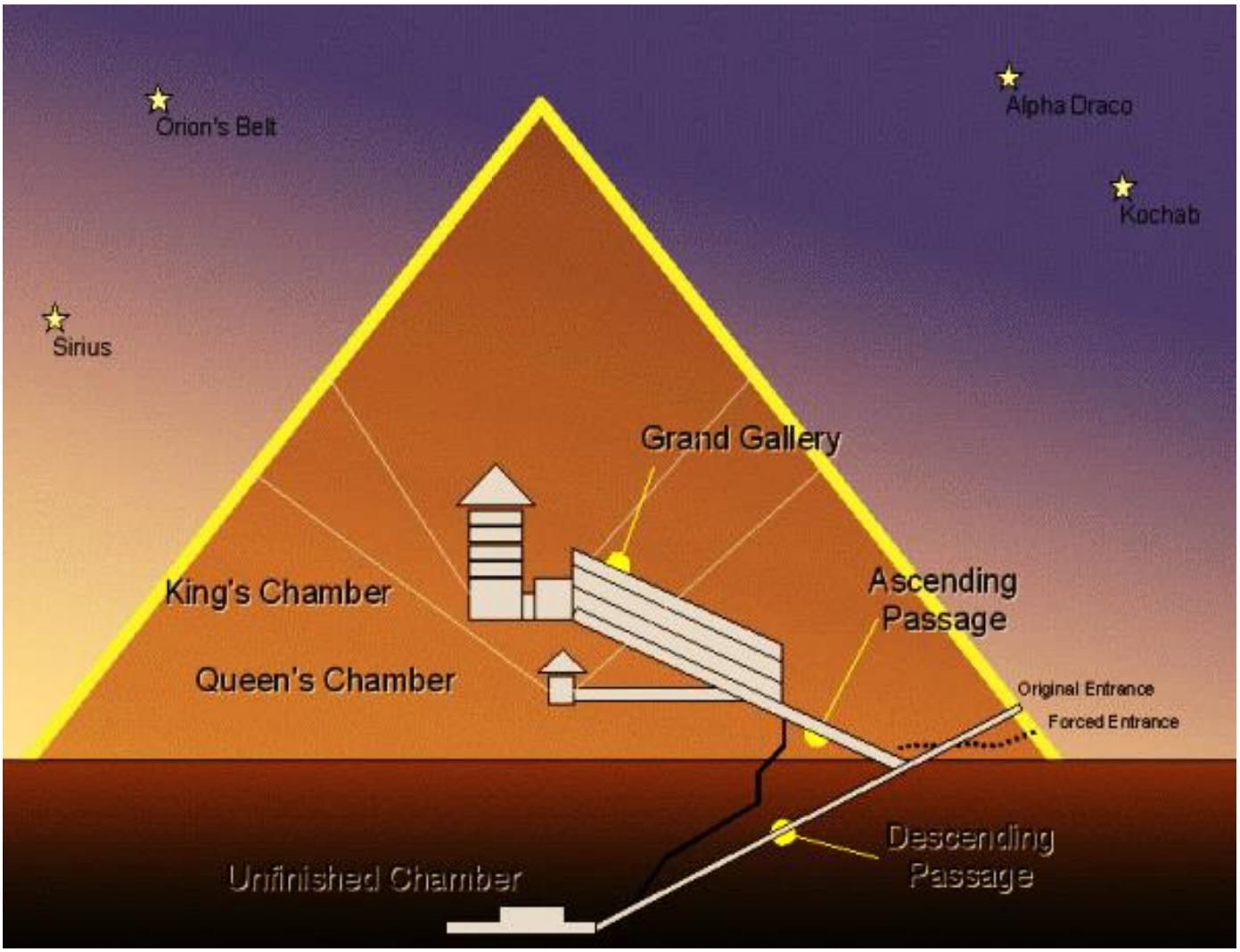
アコライトであるナザレのイエスは、エジプト神秘学のマスターに導かれて、大スフィンクスの前足を通り、ギザ台地の下の長い通路を通って大ピラミッドまで行列しました。





Lay-out of Temples and Passages under Sphinx.

ピラミッドの下に入ったイエスは、通路を通って大回廊に進み、さらに通路を通って王の間に入ったはずです。



王の間」の中には、花崗岩のコファーがあります。
- 8フィート×**4**フィート×**3**フィートの大きさで
アコライトはそこに**3**日間寝かされる。
アコライトは**3**日間寝かされ、その間に
ピラミッドの巨大なパワーとエネルギーを吸収します。

イエスは地球に誕生したとき、すでに高度に進化したスピリチュアルな存在でした。地球に誕生したとき、すでに高度に進化したスピリチュアルな存在でしたが、同時に**25**年の歳月をかけて
ピラミッドでの最後のイニシエーションのために準備をしていました。絶えず振動を高め、光とエネルギーを受け取り、維持し、
伝達する能力を高めることで
光とエネルギーを受け取り、維持し、伝達する能力を高めました。

大ピラミッドでの最後のイニシエーションの3日間、イエスは大ピラミッドの膨大なエネルギーを吸収して、自分の波動を非常に高くし、光とエネルギーを受け取り、維持し、増幅し、伝達する能力を驚異的に高めました。

大ピラミッドで最後のイニシエーションを受けたイエスは、「キリスト化した者」としてピラミッドから出てきました。イエスは、病人を癒し、盲人を治し、嵐を鎮め、水の上を歩き、エーテルから顕現するなど、エネルギーの知識を使ってあらゆる「奇跡の力」を容易に行使できる「悟りを開いたマスター」となりました。

第一の油注ぎとイエスとマグダラのマリアの婚約式

30歳の時、ギザの大ピラミッドで最後の儀式を受けた後、イエスはユダヤに戻り、従兄弟のヨハネがマグダラのマリアとの「婚約」に先立ち、ヨルダン川でイエスの沐浴の儀式を行いました。

イエスが水から上がってくると、天の雲が切れ、太陽の光が直接
イエスを照らし、イエスが光り輝くと、
誰もが神の存在を目撃した。

エスはヨルダン川で沐浴の儀式を行った後、叔父のアリマタヤのヨセフが所有するプライベート・ガーデンに向かう行列がありました。エルサレムの叔父であるアリマタヤのヨセフが所有する私設庭園にイエスを連れて行きました。婚約したイエスとマグダラのマリアは、家族や友人全員が参加する「婚約の宴」で「婚約」を祝います。 イエスとマグダラのマリアの婚約は、マグダラのマリアが婚礼の場で香りの良い「スピケナード油」をイエスに塗る「第一の油注ぎ」によって意味づけられます。

マリア
マグダレン
は、ハスモン教の王族であり
シュメールとイスラエルのユダヤ人の血を引く王女
マグダラのマリアはシュメールとイスラエルのユダヤ系のハスモン王家の王女でした。イエスは、エジプトとユダのユダヤ人の血筋を引くダビデ王家の王子でした。古代、誰もが知っていたであろう
古代においては、誰もが、王朝の後継者の神聖な結婚という二部構成の儀式を知っていたでしょう。
王朝の後継者の神聖な結婚という**2**つの儀式を、誰もが知っていたでしょう。婚約と結婚です。イエスはメシアであり、それは単に「油を注がれた者」という意味である。実際には、すべての
実際、油を注がれた上級祭司やダビデの王はすべて
メシアでした。叙任された祭司ではありませんでしたが、イエスはダビデ王の直系の血を引くことでメシアの地位を得る権利を得ました。
花嫁の大祭司であるマグダラのマリアから儀式的に油を注がれて
儀式的にマグダラのマリアから油を注がれて初めてその地位を得ることができました。メシア」という言葉は、
ヘブライ語の動詞 マシアック　「油を注ぐ」に由来しますが、その語源はエジプトの メッセ 「聖なるワニ」でした。ファラオの妹の花嫁が結婚の際に夫に油を塗ったのは、
このメセの脂肪でした。エジプトの習慣は、
古いメソポタミアのこの王室の習慣から生まれました。
旧約聖書の「ソロモンの歌」には、王の花嫁への注油について書かれています。ユダで使われていた油は、高価な根菜であるスピケナードの香油であったことが記されています。
ヒマラヤ産の高価な根油であるスピケナードの香りの良い軟膏であったことが詳細に記されており、この儀式は王の夫が食卓に座っている間に行われたと説明されています。この儀式は、王族の夫が食卓に座っている間に行われたと説明されています。

新約聖書では

新約聖書では、婚約から3年後のベタニヤでのマグダラのマリアによるイエスの「第二の油注ぎ」は、確かにイエスがマリアの家の食卓に座っている間に行われ、具体的には「スピケナード」という婚礼用の軟膏を使って行われました。

約3年後のベタニヤでのマグダラのマリアによる「第二の油注ぎ」は、彼女が妊娠3ヶ月であることを意味し、

「第二の油注ぎ」によってイエスに妊娠を正式に告知し、それによって「結婚契約」の完了を成立させたのである。

その後、マグダラのマリアがイエスの足元で喜びの涙を流したのは、**3**ヶ月間もイエスの子を身ごもっていたことがうれしくて、それゆえに

イエスとマグダラのマリアは "ついに結婚した "のである。

マリアは髪の毛でイエスの足元についた涙を拭い、二部式の二回目には涙を流しました。　これらのことはすべて、王朝の後継者の「第二の油注ぎ」または「婚姻の油注ぎ」を意味しています。

その他の塗油
メシアの
戴冠式でも
冠の授与であれ、上級祭司への就任であれ
は、常に男性によって行われました。
大ザドクか大祭司のどちらかです。使われた油は
オリーブオイルにシナモンなどの香辛料を混ぜたものだが、スピケナードは使われなかった。スピケナードはメシアの花嫁の特権であり、彼女は「**a Mary**」、つまり聖なる秩序の姉妹でなければなりませんでした。
イエスの母は「マリア」であり、妻のマグダラのマリアも「マリア」であった。 彼の妻、マグダラのマリアも "マリア "でした。
メシアの結婚は常に**2**段階で行われました。
第一の油注ぎ」は法的に結婚を約束するものでした。
第二の油注ぎ」は、妻が妊娠**3**ヶ月になってから行われます。
第二の油注ぎ」は、妻が妊娠**3**ヶ月になってから行われました。
第二の油注ぎ」は、"結婚契約 "の法的な約束でした。
イエスのような王家の後継者は、王家の血統を永続させることが明示的に求められていました。結婚は不可欠であった。
しかし、共同体法は、不妊症や流産を繰り返す女性との結婚から王朝の継承者を保護していた。
この保護は、「妊娠**3**ヶ月」というルールによって行われていた。この期間を過ぎると、流産はあまり起こらなくなり、それ以降は「結婚契約」を結ぶのに十分な安全性があると考えられるようになる。
それ以降は「結婚契約」を結んでも問題ないと考えられていた。
マグダラのマリアは、その段階でイエスに油を注いだ。
メシアの花嫁であるマグダラのマリアは、イエスに埋葬のための油を塗ったと言われています。その日以降、彼女は夫の生涯を通じてスピケナード油の小瓶を首から提げ、夫の埋葬の際に再び使用することになります。安息日の翌日、マグダラのマリアがイエスに油を塗るために墓所に行ったのは、まさにこの目的のためだったのです。
そのためにマグダラのマリアは、十字架刑の後の安息日の翌日、イエスに油を塗るために墓所に行ったのです。女神の神殿は古代から存在し、その中にはイシスという女神の神殿もありました。
マグダラのマリアは「最初の油注ぎ」の際、スピケナード油の入ったアラバスターの壺を持ち、腰には「イシスのガードル」または「イシスの結び目」と呼ばれるものをつけています。

S. Maria
Nourrice

ベトロス
とは、文字通り
「『自分の真実によって』約束する」
という意味です。
自分の真実によって』約束する」という意味です。
男性と女性が「ベトロート」したのは
結婚するという約束をしたときに
婚約したことを意味します。婚約は通常、
結婚の1年以上前に行われます。
結婚の1年以上前に行われます。
イエスとマグダラのマリアの場合は
イエスとマグダラのマリアの場合、「婚約」から約
婚約」から「結婚」まで約3年の月日が流れます。
"婚約 "と "結婚 "の間には約3年の月日が流れます。
婚約の時から、その女性は
女性は、婚約した男性の正式な妻とみなされます。
婚約した男性の正式な妻となります。通例では、新郎の父親が
新郎の父親は、自分の息子と新婦の結婚を手配する責任があります。
イエスとマグダラのマリアの場合は、マリアとその母、ヨセフが、マリアの叔父であるアリマタヤのヨセフが所有する私有地の庭で、婚礼と婚礼の宴の準備をしました。婚約式は、家族や友人が集まって「この男とこの女の婚約を目撃する」という公的な儀式であり、婚約式は、イエスとマグダラのマリアの間の「結婚契約」の最初の部分であり、家族や友人に「目撃」された。その後、「婚約の儀」と「婚約の宴」が庭で行われ、イエスとマグダラのマリア、そして彼らの家族や友人たちは、夜遅くまで歌い、踊り、「婚約の儀」を祝いました。事実上、この「婚約」は、王家の夫婦が結婚契約の「条件」を満たすために進むことを法的に認めたものである。
マグダラのマリアが妊娠し、3ヶ月間妊娠し続けること
3ヶ月間妊娠したままであること。そのため 婚約の宴」の後に
イエスとマグダラのマリアは
アリマタヤのヨセフが用意した「婚礼の間」に引きこもった。
アリマタヤのジョセフが用意した「婚約のスイートルーム」に引きこもりました。天井が高く、大きな暖炉があり、庭園と美しい噴水に面していました。庭園と美しい噴水に面した天井の高い大きな暖炉がありました。
イエスとマグダラのマリアは、ついにその生涯の愛を完成させました。
その間、月が二人を明るく照らし、そよ風が二人を優しく撫でていた。

親愛なる読者の皆様、このイエスの実話のサンプルはお楽しみいただけましたか?

緑色のボタンをクリックして自分の本を購入し、最後まで読んでください。